

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第16集

泉坂下遺跡Ⅱ

保存整備事業に伴う第1次確認調査報告

平成25年7月

常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第16集

いずみ さか した い せき
泉 坂 下 遺 跡 II

保存整備事業に伴う第1次確認調査報告

平成25年7月

常陸大宮市教育委員会



調査区全景（西から）奥に久慈川を望む



第8トレンチ全景（東から）



SK 5 確認状況（北から）



SK 24（手前右）・30（左奥）確認状況（北から）

ごあいさつ

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、県都水戸市から北約20kmの、平成の大合併で誕生した人口約4万4千人の市です。

市域の北側には八溝・久慈山系からなる山地が連なり、南西端を那珂川が、東側を南北に縦断する久慈川が流れる景勝の地です。また市域の中央は久慈川の支流玉川と那珂川の支流緒川が南北に流れ、高度に応じた緑豊かな丘陵・台地・低地を形成し、原始・古代からの重要な遺跡が多く残されています。

那珂川左岸の段丘上にある小野天神前遺跡では、昭和51年に茨城県歴史館が行った発掘調査の際、弥生時代中期に東日本に分布する再葬墓であることが判明し、また1遺跡から3個もの人面付壺形土器が発見されるという初めての事例となりました。

一方、昭和55年頃に久慈川右岸の泉地区字坂下で水田耕作をしていた菊池榮一氏は、偶然2個の弥生土器を発見し、大宮町歴史民俗資料館(当時)に寄贈されました。このことを発端として、平成18年に鈴木素行氏による学術調査が行われ、再葬墓遺構が確認されるとともに国内最大の人面付壺形土器が出土しました。その調査成果の一部は、平成22年1月に市文化センターで発表され、多くの考古学関係者や市民の注目するところとなりました。

市といたしましては、この貴重な遺跡を未来永劫に引き継ぐため、出土した遺物を平成22年3月に市有形文化財に指定しました。また今後遺跡の保護を進めていくためには国史跡の指定を受けることが肝要との結論に至り、同年10月に常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会を立ち上げ、保護・保存策についてご検討をお願いし、このたび遺跡の性格等を明らかにするための確認調査を3か年に分けて実施することといたしました。

この調査報告書は、文化庁の国宝重要文化財等整備費補助金の交付を受けて実施した第1次確認調査の成果をまとめたものであり、泉坂下遺跡の重要性を世に伝えるとともに、これからの整備計画の基本資料として活用されるものと固く信じています。

最後になりますが、発掘調査にあたり御指導いただきました茨城県教育庁文化課及び泉坂下遺跡保存委員会委員の皆様、全般にわたり御協力いただきました地元の皆様、その他御指導・御協力いただいた関係各位に衷心より深く感謝申し上げます。

平成25年7月

常陸大宮市教育委員会
教育長 上久保 洋一

例 言

- 1 本書は、国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、常陸大宮市教育委員会が実施した泉坂下遺跡の第1次確認調査の報告書である。
- 2 泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかには所在する。
- 3 この調査は、泉坂下遺跡の将来の保存活用・国史跡指定のための資料を得ることを目的とした確認調査である。今回は3次にわたり計画している確認調査の第1次調査であり、主目的は再葬墓遺構分布範囲及び原地形の確認である。区域内に10か所のトレンチを設定して調査を行い、すべて人力により掘削した。調査対象面積は10,512.89㎡、実際の調査面積は379㎡である。
- 4 現地調査及び整理期間は以下のとおりである。

現地調査 平成24年（2012）10月1日～同年11月15日
整理作業 平成24年（2012）12月5日～平成25年（2013）7月31日
- 5 現地調査は、常陸大宮市教育委員会生涯学習課主幹後藤俊一、同嘱託職員萩野谷悟、整理作業は以上2名のほか同嘱託職員中林香澄が担当した。本書の執筆は、本文を後藤、図・表を萩野谷と中林が担当した。また調査に関する当市教育委員会の組織は以下のとおりである。

【平成24年度】上久保洋一（教育長）、皆川修（教育部長）、皆川清貴（次長）、桑名清巳（生涯学習課長）、神永通憲（同課長補佐）、河西徹（同副参事）、中村直人（同主幹）
【平成25年度】上久保洋一（教育長）、皆川清貴（教育部長）、金子和司（次長）、古田土正（生涯学習課長）、笠井慎二（同副参事）、井坂仁（同主幹）、中村直人（同主幹）
- 6 調査にあたっては、地権者である菊池榮一、菊池清、菊池隆広の各氏から多大なる御理解と御協力をいただいた。
- 7 調査は、文化庁文化財部記念物課福宜田佳男主任文化財調査官、茨城県教育庁文化課、常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会から全般にわたり御指導をいただきながら実施した。なお泉坂下遺跡保存委員会を構成する委員は、以下の各氏である。

川崎純徳（座長）、相田美樹男、石川日出志、鈴木素行（以上、平成22年10月1日から）、谷口陽子（平成24年7月27日から）
- 8 調査は、以下の方々の御協力のもと実施した。

石田友里恵、小野千里、篠原とよ子（以上、現地調査及び整理作業）、坪修一、海老原四郎、迫星敬之、佐藤里香、土井翔平、野上宗也、浜敏子、廣水一真（以上、現地調査）、小野秀、小野穰（以上、整理作業）
- 9 現地調査及び整理作業にあたっては、以下の方々から種々御教示や御協力をいただいた（敬称略）。

石井聖子、井上慎也、梅澤重昭、小澤重雄、櫻村宣行、鴨志田篤二、川又清明、川井正一、瓦吹堅、菊池芳文、小林青樹、清水健一、田中裕、寺内久永、永井茂文・ゆわえ、白田正子、橋本勝雄、原信田正夫、比毛君男、森嶋秀一、横倉要次
- 10 出土遺物及び関係資料は、常陸大宮市教育委員会において保管している。
- 11 本書に掲載した出土遺物拓本の一部には、茨城県指定無形文化財保持者菊池正氣氏の渡いた西ノ内紙を用いた。

凡 例

- 1 地区設定については、平成18年(2006)の調査時に鈴木素行氏が現在の地形を考慮してグリッドを設定しているため、これを踏襲した。グリッドの南北軸はN-23°-Wである。

平成18年の調査時に設定した北西端の杭を基準とし、遺跡範囲内を東西・南北各々20mの大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し、2m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ0, 1, 2, …、西から東へA, B, C, …とし「A1区」、「B2区」のように呼称した。なお、平成18年の調査区はF6区となる。

さらに小調査区は北から南へ0, 1, 2, …、西から東へa, b, c, …とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a0区」、「B2b1区」のように呼称した。

この他に、第I層及び第II層については、トレンチ北端または東端から5mごとに分割し、各々1, 2, 3, …とし「第2トレンチ1区」のように呼称した。

- 2 本文・実測図・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I—住居跡, S K—土坑, S D—溝, S X—性格不明遺構, P—柱穴

遺物等 Q—石器・石製品, S—石

土層 K—攪乱

- 3 土層と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 4 トレンチ・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 全体図は400分の1、トレンチ実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺構実測図は、特に必要のある場合を除き個別に作成せず、トレンチ実測図にまとめて掲載した。

(3) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。

(4) トレンチ・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 須恵器

 竈材、黒色処理

 施釉

- 5 遺物観察表の表記については以下のとおりである。

(1) 現存値は(), 推定値は[]を付して示した。計測値の単位は原則、cmで、重量はgで示した。

(2) 備考欄は、残存状況、写真図版番号その他必要と思われる事項を記した。

- 6 「主軸」は、竈を持つ堅穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については、長軸（長径）を軸とみなした。「主軸・長軸（長径）方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 N-10°-W）

目次

ごあいさつ

例言	2
凡例	3
目次	4
挿図・付図目次	5
表目次	6
写真図版目次	7
第1章 調査経過	9
第1節 調査に至る経緯	9
第2節 調査の目的と方法	10
第3節 調査経過	13
第2章 位置と環境	16
第1節 地理的環境	16
第2節 歴史的環境	16
第3章 調査の成果	19
第1節 遺跡の概要	19
第2節 基本層序	19
第3節 遺構と遺物	22
1 第2トレンチ	22
2 第3トレンチ	30
3 第4トレンチ	42
4 第5トレンチ	69
5 第6トレンチ	91
6 第7トレンチ	97
7 第8トレンチ	100
8 第9トレンチ	121
9 第11トレンチ	127
10 第16トレンチ	137
11 表面採集	139
第4章 総括	140
1 泉坂下遺跡の範囲	140
2 土地利用の変遷	140
3 再葬墓遺構の分布	141
4 浮上した課題	142
5 まとめ	142
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 ・ 付 図 目 次

<p>第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図 … 17</p> <p>第2図 泉坂下遺跡平面図…………… (付図)</p> <p>第3図 第2トレンチ実測図 …………… 22</p> <p>第4図 第11号土坑出土遺物実測図 … 23</p> <p>第5図 第2トレンチ出土遺物実測図 (1) …………… 25</p> <p>第6図 第2トレンチ出土遺物実測図 (2) …………… 26</p> <p>第7図 第3トレンチ実測図 …… 31・32</p> <p>第8図 第3号竪穴住居跡出土遺物実測図 …………… 33</p> <p>第9図 第3トレンチ出土遺物実測図 (1) …………… 35</p> <p>第10図 第3トレンチ出土遺物実測図 (2) …………… 36</p> <p>第11図 第4トレンチ実測図 …… 43・44</p> <p>第12図 第5号土坑実測図 …………… 45</p> <p>第13図 第21号土坑出土遺物実測図 … 46</p> <p>第14図 第34号土坑出土遺物実測図 … 47</p> <p>第15図 第42号土坑出土遺物実測図 … 48</p> <p>第16図 第4号性格不明遺構出土遺物実測図 …………… 49</p> <p>第17図 第29号土坑出土遺物実測図 … 51</p> <p>第18図 第4トレンチ出土遺物実測図 (1) …………… 54</p> <p>第19図 第4トレンチ出土遺物実測図 (2) …………… 55</p> <p>第20図 第4トレンチ出土遺物実測図 (3) …………… 56</p> <p>第21図 第4トレンチ出土遺物実測図 (4) …………… 57</p> <p>第22図 第4トレンチ出土遺物実測図 (5) …………… 58</p> <p>第23図 第4トレンチ出土遺物実測図 (6) …………… 59</p> <p>第24図 第5トレンチ実測図 …… 67・68</p> <p>第25図 第32号土坑出土遺物実測図 … 69</p>	<p>第26図 第33号土坑出土遺物実測図 …… 71</p> <p>第27図 第5トレンチ出土遺物実測図 (1) …………… 73</p> <p>第28図 第5トレンチ出土遺物実測図 (2) …………… 74</p> <p>第29図 第5トレンチ出土遺物実測図 (3) …………… 75</p> <p>第30図 第5トレンチ出土遺物実測図 (4) …………… 76</p> <p>第31図 第5トレンチ出土遺物実測図 (5) …………… 77</p> <p>第32図 第5トレンチ出土遺物実測図 (6) …………… 78</p> <p>第33図 第6トレンチ実測図 …… 89・90</p> <p>第34図 第15号土坑出土遺物実測図 … 91</p> <p>第35図 第6トレンチ出土遺物実測図 …………… 94</p> <p>第36図 第7トレンチ実測図 …………… 97</p> <p>第37図 第7トレンチ出土遺物実測図 …………… 98</p> <p>第38図 第8トレンチ実測図 …………… 100</p> <p>第39図 第23号土坑実測図 …………… 101</p> <p>第40図 第23号土坑出土遺物実測図 … 102</p> <p>第41図 第24・30号土坑実測図 …… 103</p> <p>第42図 第24号土坑出土遺物実測図 … 104</p> <p>第43図 第25号土坑実測図 …………… 105</p> <p>第44図 第25号土坑出土遺物実測図 … 105</p> <p>第45図 第26号土坑実測図 …………… 106</p> <p>第46図 第8トレンチ出土遺物実測図 (1) …………… 107</p> <p>第47図 第8トレンチ出土遺物実測図 (2) …………… 108</p> <p>第48図 第8トレンチ出土遺物実測図 (3) …………… 109</p> <p>第49図 第8トレンチ出土遺物実測図 (4) …………… 110</p> <p>第50図 第9トレンチ実測図 … 119・120</p>
--	--

第51図	第9トレンチ出土遺物実測図	122	第56図	第18号土坑出土遺物実測図	129
第52図	第11トレンチ3・4区実測図	124	第57図	第31号土坑出土遺物実測図	129
第53図	第11トレンチ7・8区実測図	125	第58図	第11トレンチ出土遺物実測図	132
第54図	第11トレンチ11・12区実測図	126	第59図	第16トレンチ実測図	135・136
第55図	第8号堅穴住居跡出土遺物実測図	128	第60図	第16トレンチ出土遺物実測図	137
			第61図	表面採集遺物実測図	139

表 目 次

第1表	泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表	18	第16表	第15号土坑出土遺物観察表	92
第2表	泉坂下遺跡遺構一覧表	21	第17表	第6トレンチ出土遺物観察表	95
第3表	第11号土坑出土遺物観察表	23	第18表	第7トレンチ出土遺物観察表	99
第4表	第2トレンチ出土遺物観察表	26	第19表	第23号土坑出土遺物観察表	102
第5表	第3号堅穴住居跡出土遺物観察表	33	第20表	第24号土坑出土遺物観察表	104
第6表	第3トレンチ出土遺物観察表	37	第21表	第25号土坑出土遺物観察表	105
第7表	第21号土坑出土遺物観察表	46	第22表	第8トレンチ出土遺物観察表	110
第8表	第34号土坑出土遺物観察表	47	第23表	第9トレンチ出土遺物観察表	123
第9表	第42号土坑出土遺物観察表	48	第24表	第8号堅穴住居跡出土遺物観察表	128
第10表	第4号性格不明遺構出土遺物観察表	49	第25表	第18号土坑出土遺物観察表	129
第11表	第29号土坑出土遺物観察表	51	第26表	第31号土坑出土遺物観察表	129
第12表	第4トレンチ出土遺物観察表	59	第27表	第11トレンチ出土遺物観察表	133
第13表	第32号土坑出土遺物観察表	70	第28表	第16トレンチ出土遺物観察表	138
第14表	第33号土坑出土遺物観察表	71	第29表	表面採集遺物観察表	139
第15表	第5トレンチ出土遺物観察表	79			

写真図版目次

- 巻頭図版1 調査区全景, 第8トレンチ全景
- 巻頭図版2 SK5確認状況, SK24・30確認状況
- 図版1 遺跡全景(1), 同(2), 調査前風景(1), 同(2), 同(3)
- 図版2 第2・4・8トレンチ付近拡大, 調査区全景(1), 同(2), 同(3), 同(4)
- 図版3 第2トレンチ全景, 第2トレンチセクション, SK10確認状況, SK11確認状況, SK14確認状況, SK39確認状況, 第3トレンチ全景, SI2確認状況
- 図版4 SI2セクション, SI3確認状況, 同セクション, 同サブトレンチ遺物出土状況, 同No.1出土状況, SD4確認状況, 同セクション, 第4トレンチ全景
- 図版5 SK5確認状況(1), 同(2), 同(3), SK19確認状況, 同遺物出土状況(1)
- 図版6 SK19遺物出土状況(2), 同(3), SK20確認状況(1), 同(2), 同遺物出土状況, SK21確認状況, 同遺物出土状況, SK19・20・21保護措置状況
- 図版7 SK29遺物出土状況, 同確認状況, SX4確認状況, 同セクション, 同底部状況
- 図版8 SK22確認状況, SK34確認状況, SK40確認状況, SK41確認状況, 第5トレンチ全景, SK32確認状況(1), 同(2), 同(3)
- 図版9 SK33確認状況, SK37確認状況, SK38・SD5確認状況(1), 同(2), 第6トレンチ全景, 同セクション(1), 同(2), 同(3)
- 図版10 SK15・SK45・SX5確認状況, SK45確認状況, SK45～48・SX5確認状況, SK46～48確認状況, 第7トレンチ全景(1), 同(2), 同南端部拡大, 同セクション(1)
- 図版11 第7トレンチセクション(2), 同(3), 同(4), 第8トレンチ全景, SK23確認状況(1)
- 図版12 SK24・30確認状況, SK23確認状況(2), SK24確認状況, SK25確認状況(1), 同(2)
- 図版13 SK25・26確認状況(1), 同(2), 同(3), SK26確認状況(1), 同(2)
- 図版14 SK30確認状況, 第8トレンチNo.75・85出土状況, 第8トレンチ保護措置状況, 第9トレンチ全景, SI4確認状況, 同セクション, SI5確認状況, 同セクション
- 図版15 第11トレンチ3・4区全景, 同セクション(1), 同(2), SI8確認状況(1), 同(2), SK31確認状況, SI8・SK31確認状況, 第11トレンチ7・8区全景
- 図版16 SD1・2確認状況, SD1確認状況, 同セクション, SD2確認状況, 同セクション, 第11トレンチ11・12区全景(1), 同(2), 同セクション
- 図版17 SK18確認状況, 第16トレンチ全景, 同セクション(1), 同(2), 同(3), 作業風景(1), 同(2), 同(3)
- 図版18 作業風景(4), 同(5), 同(6), 同(7), 同(8), 現地説明会(1), 同(2), 調査参加者
- 図版19 SK11出土遺物, 第2トレンチ出土遺物(1)
- 図版20 第2トレンチ出土遺物(2), SI3出土遺物
- 図版21 第3トレンチ出土遺物(1)

図版22	第3トレンチ出土遺物(2)
図版23	S K 21出土遺物, S K 34出土遺物, S X 4出土遺物, S K 29出土遺物, S K 42出土遺物
図版24	第4トレンチ出土遺物(1)
図版25	第4トレンチ出土遺物(2)
図版26	第4トレンチ出土遺物(3)
図版27	第4トレンチ出土遺物(4)
図版28	第4トレンチ出土遺物(5)
図版29	S K 32出土遺物, S K 33出土遺物, 第5トレンチ出土遺物(1)
図版30	第5トレンチ出土遺物(2)
図版31	第5トレンチ出土遺物(3)
図版32	第5トレンチ出土遺物(4)
図版33	第5トレンチ出土遺物(5), S K 15出土遺物
図版34	第6トレンチ出土遺物
図版35	第7トレンチ出土遺物, S K 23出土遺物, S K 24出土遺物, S K 25出土遺物
図版36	第8トレンチ出土遺物(1)
図版37	第8トレンチ出土遺物(2)
図版38	第8トレンチ出土遺物(3), 第9トレンチ出土遺物, S I 8出土遺物
図版39	S K 18出土遺物, S K 31出土遺物, 第11トレンチ出土遺物(1)
図版40	第11トレンチ出土遺物(2), 第16トレンチ出土遺物, 表面採集遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

泉坂下遺跡は、地権者である菊池榮一氏の自宅敷地であったが、菊池氏が転居後水田にするため整地して出土した遺物を当時の大宮町歴史民俗資料館と同町立上野小学校に寄贈したことから一部に知られていた。寄贈されていた遺物は、石棒破片及び未成品7点、弥生土器2点である。うち壺形土器1点は、平成7年（1995）、大宮町歴史民俗資料館特別展「大宮の考古遺物」で展示され、図録（大宮町歴史民俗資料館『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会、平成7年）にも記載されたことから広く知られ、再葬墓遺跡の可能性のある遺跡として注目されるようになった。

平成18年（2006）1月から2月にかけて鈴木素行氏が石棒製作遺跡の実態解明を目的として学術調査を実施したが、調査の当初から再葬墓遺構が良好な遺存状態で確認されるに及び、調査の目的が再葬墓の実態解明に変更された。再葬墓が希少な遺構である上に、調査初日から人面付壺形土器が出土し、調査目的の変更は自然な動きであった。

その後調査で得られた資料は慎重に整理され、詳細な考察とともに調査報告書『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』（鈴木素行編集・発行、平成23年8月25日）にまとめられた。なお、同報告書は、同年8月31日、鈴木氏の好意により実質同内容で『茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡』として当市教育委員会から発行されている。また、調査で出土した遺物は、平成21年11月末日に鈴木氏から常陸大宮市に移管されている。

当市はこれら資料の文化財としての重要性に鑑み、歴史民俗資料館で平成21年度企画展「再葬墓と人面付土器のふしぎ」（期間：平成21年12月15日～平成22年2月7日）を開催し、研究者や一般の注目を集めた。併せて開催されたシンポジウム（平成22年1月31日）は市外からも多くの参加者を得、関心の高さを裏付けたものであった。

さらに当市は、再葬墓出土遺物を平成22年3月31日付けで市指定文化財（考古資料）に指定した。

遺跡の重要性も極めて高いことから、当市としては保存・整備の上、活用することとし、これを円滑に進めるためにも国史跡指定を得ることとして、その基礎資料を得るために確認調査を実施することとした。

そのために常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会（以下、保存委員会）を組織して、その指導のもとに調査・保存・整備・活用をすることとした。以下に、平成24年度までに開催した委員会について概要を記しておく。

【平成22年度】

第1回（平成22年10月28日） 相田美樹男、石川日出志、川崎純徳、鈴木素行の各氏を委員に委嘱。

座長に川崎委員。史跡指定までの手順、確認調査のスケジュール等検討

第2回（平成23年3月10日） 試掘の方法等検討。現地視察

【平成23年度】

第1回（平成23年6月15日） 測量調査について検討。保存科学系の委員追加委嘱検討

第2回（同11月7日） 測量調査の成果について検討

第3回（平成24年3月15日） 第1次確認調査の概要検討。谷口陽子氏に委員委嘱で調整。川崎座

長から「泉坂下遺跡整備の基本理念（素案）」提示

【平成24年度】

第1回（平成24年7月27日） 谷口陽子委員委嘱。第1次確認調査について検討。「泉坂下遺跡整備の基本理念」検討

第2回（同9月25日）「泉坂下遺跡整備の基本理念」決定（一部修正）。「第1次確認調査要項」決定

第3回（平成25年3月12日） 調査成果の検討。第2次確認調査について検討

第2節 調査の目的と方法

調査の目的・方法については、「泉坂下遺跡整備の基本理念」（P.11に抜粋）に則り、「第1次確認調査要項」（P.12に抜粋）で定めた。以下、要点について述べる。

調査の目的は、将来の保存・活用、及び国史跡指定申請のための基礎資料を得ることである。

第1次調査の具体的な主目的としては、遺構分布範囲の確認、原地形の確認を掲げた。

方法については、平成18年調査の調査区を中心に、南北に延長し、また東西に直交する形でトレンチを入れることとし、状況に応じて補足的なトレンチを追加することとした。トレンチの掘削及び埋め戻しは、下層に存在する遺構を保護するため、すべて人力で行なうこととした。

調査中に確認された遺構は原則として掘り込まず、確認にとどめた。したがって遺構に伴う遺物の取り上げもしないこととした。ただし確認のためやむを得ない場合、サブトレンチを掘削して調べている。

なお、調査区域は主に陸田であり、調査した遺構が耕作により破壊されることが危惧されることから、遺構保護のため調査区域の借上げを行なうこととした。これによって耕作による遺構破壊の危惧がなくなることから、トレンチ幅を広めて2mとすることとした。

調査は常陸大宮市教育委員会が主体となって実施し、保存委員会が指導する体制を採ることとした。また状況によって茨城県教育庁文化課、文化庁にも指導を仰ぐこととした。

調査区割については、平成18年調査の際のトレンチを基本とするグリッドによることとしたため、南北軸がN-23°-Wの傾きを見せるが、これは調査地の地形に合わせたものとなっている。無論今後に生かせるよう、世界測地系（新・平面直角座標系）に反映できるようにした。

1 当市の教育政策と泉坂下遺跡

（中略）泉坂下遺跡とその出土遺物は、当市の多くの優れた文化財の中でも、とりわけ大きな重要性を持つものであり、「郷土の誇れるもの」の中でも白眉といえる。泉坂下遺跡とその出土遺物の保存・活用は、当市の教育と教育政策の中核をなすべきものである。当市としては、泉坂下遺跡とその出土遺物を後世に向けて万全な保存をし、十分に活用していかなくてはならない。

（中略）

2 泉坂下遺跡の基本的性格と構造

（中略）当市域の再葬墓の遺跡としては、当遺跡のほか小野天神前遺跡、中台遺跡が知られており、また周辺では那珂市域に海後遺跡なども所在する。当市域及び周辺は再葬墓の遺跡が密な分布を示す地域であり、再葬墓を有する文化が大きく展開している地域といえる。

当遺跡は、そうした時期と地域の中で営まれた再葬墓群に強く特色づけられる。その上、一次葬の土壙墓群を伴っており、当時の墓制の実相を示唆している。ただ、再葬墓群や関連する遺構の範囲については、平成18年の調査が部分的なものであり、現在のところ不明である。また、生活の拠点としての集落遺跡や生業の場としての水田等の遺跡の所在も不明である。

（中略）当遺跡は再葬墓の遺跡として、縄文時代から弥生時代への転換期における当地域の文化の様相を象徴的に示している可能性がある。一方で遺跡の範囲や年代、性格等は不明の部分が多く、遺跡の全体像は捉えられていない。（中略）今後、調査を実施して明らかにしていく必要がある。

3 泉坂下遺跡の重要性

（中略）きわめて遺存状況がよいことである。再葬墓遺跡が少ない上に多くは遺存状況が悪く、調査研究に支障を来しており、遺存状況が良好な当遺跡の今後の調査によっては、弥生時代墓制の解明、ひいては弥生時代の社会や文化の解明が大きく進展する可能性がある。さらに言えば、前回調査で出土したような遺構・遺物が周辺に埋没している可能性があり、そうした状況が明らかになれば弥生時代の解明に計り知れない意義がある。当遺跡の持つ学術上の、また教育上の意義がさらに増大する可能性があるのである。

4 国史跡指定と整備の基本理念

以上に述べた重要性に鑑み、今後さらに遺跡の性格等の把握に努め、当市として保存・整備・活用を推進していく。これを適切かつ円滑に推進するためにも、国史跡指定を受け、国の史跡として整備することを目指す。（中略）

泉坂下遺跡は、耕作等による遺構の破壊が軽微であり、保存状況がきわめて良好である。当遺跡を特色づける再葬墓群の他に縄文晩期・古墳時代・奈良平安時代の遺構も存在し、各時代の土地利用がそのまま保たれている可能性がある。しかし表土層が薄く、従って深耕の影響を受けやすく、このまま放置しておけば湮滅の恐れもある。当遺跡全体をできるだけ現状のまま保存することを念頭に整備を進める。また、周辺には歴史的環境が自然景観を含めて良く残されている。台地上には前小屋城跡があり、一帯には縄文時代以来の自然景観が広く保たれている。これらが一体となってこの地域の歴史的環境を形成しているのである。こうした歴史的環境をできるだけ保全しつつ整備を進める。（以下略）

「泉坂下遺跡第1次確認調査要項（抜粋）」

1 調査目的・方針等

(1) 調査目的

①「泉坂下遺跡整備の基本理念」に則り、将来の保存活用・国史跡指定のための資料を得ることを目的とする。

②具体的な主目的は、i) 遺構分布範囲の確認、ii) 原地形の確認とする。

(2) 調査方針 上記目的に沿った調査とするため、可能な限り現状が保存できる調査方法をとる。

2 調査対象区域

(1) 調査範囲 常陸大宮市泉字坂下918-2ほか24筆

*根本地区の候補地は、第1次調査の対象外とする。

(2) 調査面積 10,512.89㎡

3 日程・工程

(1) 全体計画 3年計画（平成24・25・26年度）。本年度はその第1次。

(2) 調査期間 平成24年10月1日～11月9日（40日、実質29日）

（中略）

4 調査体制

(1) 調査主体 常陸大宮市教育委員会（着手後、法第99条による報告）

(2) 指導体制 保存委員会による指導（随時）必要に応じて県文化課・文化庁の指導を要請

(3) 調査体制 調査員：市教育委員会 萩野谷悟嘱託職員

補助員：大学（院）生若干名 作業員：補助員と合わせて10名程度

5 調査方法

(1) (略)

(2) 掘り込み

①トレンチ調査（前回調査のトレンチ延長及び直交方向。幅2m）

*遺構の平面形や性格の把握に努めるが、トレンチ拡張はせず

②人力による掘削（必要があれば重機導入）

③遺構の掘り込み 原則、しない。必要な場合もサブトレンチまで

④遺物の取り扱い 遺構内出土遺物は、原則、取り上げない。

*取り上げる場合の判断は保護上の観点から慎重に行なう。

(3) 記録

①実測 縮尺：遺構は原則1/20、原地形は1/100でコンター測量

業者常駐（必要な時期）による実測作業、補助員も。三次元測量（トータルステーション、原地形のコンター）。世界測地系（新・平面直角座標系）に準拠（震災前との照合）。

②写真撮影 35mmモノクロ・カラーリバーサル、デジタルカメラ

③空中写真 業者委託により撮影（ラジコンヘリ）

(4) 埋め戻し 実施。人力による（必要があれば重機導入）。

（以下略）

第3節 調査経過

調査期間は平成24年10月1日から11月9日までとした。10月1日に調査準備をしたうえ、4日から実際に掘削（表土除去）を開始し、予定より若干遅れて11月15日に現場での調査を終了した。整理作業は12月5日から開始し、平成25年7月31日に終了した。以下、調査日誌から抄録する。

【調査日誌抄録】

- 10月1日（月） 晴。現地へ機材等搬入。
- 10月4日（木） 晴。機材の整理等調査の準備。調査前状況写真撮影。平成18年調査区を第1トレンチとし、第2～9トレンチを株式会社ミカミにより設定。作業員とミーティングし、調査趣旨・方法等について確認。その後手掘りで第3トレンチ第1層除去に着手。第1層・第1B層の遺物は、5mごとに区を分け、区ごとに取り上げ。
- 10月5日（金） 晴。第2～5トレンチの第1層を除去。遺物は全体に縄文期のものが主体。遺跡遠景写真撮影。
- 10月6日（土） 晴。第5トレンチまで第1層除去が終了。第3トレンチの第1B層除去に着手。第3トレンチ6区で竈を確認。9区南端で落ち込みを確認。
- 10月7日（日） 雨のち晴。第2・3トレンチ第1B層除去が終了し、遺構確認作業を開始。第4トレンチの第1B層除去に着手。鈴木委員によりSK5の西半分の精査。
- 10月11日（木） 曇のち晴。第4・5トレンチの第1B層除去終了。第6・7トレンチの第1層除去に着手。第7トレンチは、付近がかつて道路として使用されていたとの地権者・菊池清氏の話のとおり、新期の地業の跡が多く、廃棄物や砂利等が混合する層にあたった。
- 10月12日（金） 晴。第6トレンチ第1層除去が終了、続けて第1B層の除去に着手。第7トレンチでは幅1mのサブトレンチの掘削開始。南端で第Ⅲ層上面の傾斜が確認でき、遺跡の所在する低位段丘面の北端と考えられた。また道路面と考えられる硬化面が確認できた。
- 10月13日（土） 晴。石川委員の指導を受け、遺物分布の傾向をより詳しく把握するため、小グリッドを既存の4m×4mから2m×2mに変更し、第Ⅱ層以下の遺物はこのグリッドで取り上げることとした。またグリッドの表記については、大グリッドと小グリッドを組み合わせて4桁で示すこととした。第3トレンチの第Ⅱ層上面で竪穴住居跡（平安）2軒を確認。第9トレンチの第1層除去に着手。
- 10月14日（日） 晴。第9トレンチで第1層除去後ロームブロック主体の硬化面にあたるが、地権者・菊池榮一氏によるとこれは火災で焼失した住居の廃材を埋めた跡とのこと。このため攪乱が著しいが、サブトレンチの掘削を始めたところ、一部住居跡が残っていることが確認できた。第8トレンチでは第1B層はほとんど認められず、第Ⅱ層上面での遺構確認に着手したところ、縄文・弥生土器片が非常に多く確認できた。第2～4トレンチの遺構確認。石川委員によりSK5を精査。
- 10月15日（月） 晴。第8トレンチで遺構確認を進めていると弥生壺が横倒しで出土し、再葬墓の可能性が考えられた。第7トレンチのセクション実測の準備。第9トレンチもセクション実測の準備をするが、やはり攪乱下に住居跡2棟が確認できた。東側の住居跡覆土には粒子の細かい砂層があり、洪水の痕跡と考えられた。株式会社ミカミにより第2トレンチの平面図を作成し、併せて第10～16トレンチを追加設定。
- 10月16日（火） 晴。作業員は休日であるが、株式会社ミカミの実測作業は実施。

- 10月18日（木） 雨。悪天候のため、歴史民俗資料館大宮館にて遺物洗浄。
- 10月19日（金） 晴。第9トレンチ写真撮影。第6トレンチに設置したサブトレンチの第Ⅲ層上面で遺構確認。第16トレンチ第1層を除去したところ、第9トレンチと同様に第1層下に廃材を埋めた跡を確認。サブトレンチの掘削。
- 10月20日（土） 快晴。第16トレンチのサブトレンチの掘削を進め、一部第Ⅲ層上面に攪乱のない部分を確認できた。第11トレンチについては北から5mごとに1～12区を設定し、10mごとに空けて掘削することとした。着手したのは7・8区及び11・12区で、ともに第ⅠB層まで掘削を終了。第2・6トレンチのサブトレンチ底面とセクションについて検討。
- 10月21日（日） 晴。第2トレンチ内遺構に番号（SK10、SK11）を付した。第11トレンチ11・12区で掘削したサブトレンチでは第Ⅲ層が確認され、全体に南側に向かって緩やかに傾斜し、南端には落ち込みがある。第11トレンチ7・8区でもサブトレンチを掘削。第11トレンチ3・4区でも表土除去に着手したが、第Ⅰ層・第ⅠB層ともに礫が多い。第16トレンチのサブトレンチ東端で第Ⅲ層上面が東に向かって傾斜していることを確認。遺跡の所在する低位段丘面の東端と考えられるが、より明確にするため精査を継続。第6トレンチのサブトレンチ底面の遺構について検討。
- 10月22日（月） 晴。第11トレンチ8区のサブトレンチで落ち込みを2か所確認し、遺構番号を付した後、走向にもう1本サブトレンチを掘削して溝であることを確認。第11トレンチ3・4区では竈が確認されたがプランは確認できない。第5トレンチの遺構を精査。第9・16トレンチの東端部を精査したが、第9トレンチでは落ち込みが確認できないことが判明。
- 10月25日（木） 曇。第11トレンチ11・12区のセクションについて検討したところ、南端で落ち込みが確認できた。第2トレンチでSK14を確認。第16トレンチ写真撮影。第9トレンチのセクション実測。第4トレンチの遺構確認。
- 10月26日（金） 快晴。第11トレンチ3・4区、7・8区、11・12区を写真撮影。第5トレンチの遺構確認、平面図作成。第11トレンチ12区で確認された遺構のプランを確認するため、走向にもう1本サブトレンチを入れ、溝であることを確認。第4・16トレンチの平面図作成。第3トレンチのサブトレンチの掘削に着手。
- 10月27日（土） 快晴。石川委員により第11トレンチ11・12区のセクションを実測したところ、第ⅠB層下に明瞭に異なる層が確認でき、これを第ⅠC層と称した。
- 10月28日（日） 曇のち雨。第11トレンチ11・12区の土層解説と7・8区のセクション検討。第3トレンチのサブトレンチ掘削を進め、住居跡のプランを確認。降雨のため、午後からの作業は遺物洗浄に切り替えた。
- 10月29日（月） 快晴。第3トレンチにあるSI3を精査中、耳皿が出土。第3トレンチ南端のSD4を精査。第11トレンチ11区のSK18は確認面で永楽通寶が確認されており、状況からして中世の墓と考えられる。鈴木委員により第8トレンチの遺構を確認したところ、土坑は4基所在し、うちSK24について一部攪乱の可能性が指摘された。石川委員により第11トレンチ11・12区の土層説明、第9トレンチセクションの修正、第16トレンチセクション実測。第4トレンチのサブトレンチ掘削開始。
- 10月30日（火） 晴。第4トレンチのサブトレンチ底面で褐色土層を確認。この層は第6トレンチでも確認されており、自然堆積には不自然であるため性格不明遺構（SX4）として扱い、さらに掘り込んだところ弥生壺の底部（布目痕、初圧痕、足洗式）が出土。同じく第4ト

- レンチにてSK29を確認。石川委員により第11トレンチのS I 8を精査。
- 10月31日(水) 晴のち雨。第4トレンチのSX4を引き続き精査したところ、確認面からの深さが1mを超える本格的な溝状遺構であり、年代は遺物から弥生中期前半までのものと考えられるに至った。溝とすれば走向は第6トレンチに向かうものと思われたが、溝であることが未確定のため今回の調査では性格不明遺構のままとし、次回に性格・走向の確定をすることとした。第5トレンチで精査していた土坑は袋状になり、縄文中期と考えられた。第11トレンチ3区の住居跡のプランを確認。第3トレンチではS I 3の床面と南端部の溝を精査。
- 11月1日(木) 晴一時雨。第3トレンチ南端のSD4を精査したところ、SD3と同方向を向き、中世と考えられた。S I 2を再検討し、東竈を確認。石川委員により第8トレンチの遺構実測に着手。
- 11月2日(金) 快晴。株式会社ミカミにより空中写真撮影を行なったが、途中で機器の不具合が発生し翌日に延期。作業員の作業は遺物洗浄に切り替えた。第6トレンチの遺構確認及びセクション検討。第4トレンチ写真撮影。石川委員による第8トレンチの実測継続。
- 11月3日(土) 晴。空中写真撮影。石川委員による第8トレンチ実測継続。第4トレンチのセクション検討。第7・16トレンチ埋め戻し。
- 11月4日(日) 晴。現地説明会。地元住民等約50名参集。上久保教育長・川崎座長のあいさつの後、石川委員により現地説明と出土遺物の解説。終了後、第9トレンチ及び第11トレンチ11・12区の埋め戻し。第6トレンチセクションの土層解説。第2・3トレンチセクションの実測。第4トレンチセクションの検討、写真撮影。第8トレンチ北西部の石剣・小壺について、石川委員が遺構に伴わないと判断。
- 11月5日(月) 曇。第6トレンチのセクション修正と土層解説を済ませ埋め戻し。SX4を精査し写真撮影。底部は急斜面になり底面は礫層で幅30cmほど。第11トレンチ3・4区及び7・8区の土層解説を終え、埋め戻しに着手。
- 11月8日(木) 快晴。SK29の遺物取り上げ。SX4のセクションについて吹野文化財保護主事のアドバイスにより再検討。第5トレンチ西端部で遺構と考えられていた部分が、土層の傾斜であることを確認。第5トレンチサブトレンチ内の精査及びセクション検討。第8トレンチの再葬墓内の土器を山砂で保護して埋め戻し。第11トレンチ3・4区の埋め戻し終了。第4トレンチのセクション実測。
- 11月9日(金) 快晴。第5トレンチのセクション検討中、SK37、SK38、SD5などを新たに認識しプランを確認。第2トレンチのセクションを再検討し、SK39を確認。調査予定期間は本日までの予定であったが、完了しないため継続することとする。
- 11月11日(日) 曇のち雨。未了部分の撮影をしていたが、降雨のため作業打ち切り。
- 11月12日(月) 雨。悪天候のため歴史民俗資料館大宮館にて遺物洗浄。
- 11月14日(水) 晴。第2トレンチはSK39実測後、埋め戻し。第4トレンチでは写真撮影と土層解説後、埋め戻し開始。第5トレンチではセクション実測、土層解説。
- 11月15日(木) 晴。第4・5トレンチの土層解説と埋め戻しが終了。機材を撤収し、現場での全作業を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境 (第1図)

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在する。

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、西は栃木県と境を接する。市域の多くは八溝山地の一部である鷲子山塊及びその周縁の台地または低地である。市域のほぼ東端を久慈川が南流し、南端付近を那珂川が南東に流れている。久慈川は市域南東端で支流である玉川と合流するが、当遺跡はこの合流点から北西約3kmに所在する。

当遺跡は、鷲子山塊に連続する那珂台地から東に下った久慈川右岸の低位段丘上に立地している。久慈川の現在の河道からの距離は700～800mの位置にある。河道近くには自然堤防が形成され、北側の自然堤防上には宇留野塚の集落が立地している。自然堤防との間は氾濫原（後背湿地）で、現在は水田になっている。当遺跡の立地する低位段丘は標高が20mほどで、東側の水田面からの比高差は2mほどである。同様の低位段丘は、台地からの湧水によって切断されながら、玉川との合流点まで南東に大きく展開する。現在は根本の集落、さらには上岩瀬・下岩瀬の集落が立地している。西側の那珂台地とは比高差30mほどあり、その斜面には水戸藩三大江堰の一つ岩崎江堰用水路が南流し、これに伴う地形の変更が見られる。

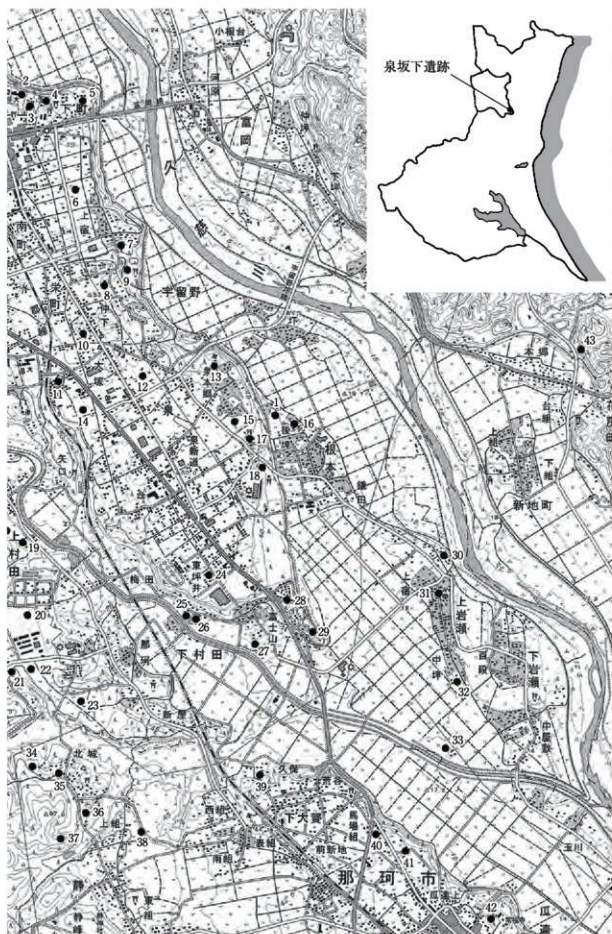
第2節 歴史的環境 (第1表及び第1図)

常陸大宮市で周知されている遺跡の多くは久慈川・那珂川の両水系によって形成された河岸段丘から低地にかけて分布し、山間地への分布は比較的少ない。旧石器から近世に至る多様な遺跡が所在しており、以下各時代の主な遺跡をもって概要を説明する。

旧石器時代の遺物としては、山方遺跡で昭和39年に茨城県内初となる旧石器が発見され、この時出土した石核は約30,000～28,000年前のもので、現時点において市内最古の遺物である。また赤岩遺跡では礫群3基と石器・剥片集中地点3か所が確認されている。礫群はいずれも大型で、1号礫群では礫数は197点、総重量で43kgを超えるものであった。

縄文時代は、岡原遺跡で縄文時代早期（田戸下層式期）の竪穴住居跡を1軒確認している。また西塙遺跡では有段竪穴4軒や土坑378基等が、ノノ倉遺跡では土坑223基が確認されるなど、中期の大規模集落が那珂川左岸の段丘上に所在していることが特徴的といえる。特筆されるのは、久慈川の支流玉川の左岸段丘上に広がる坪井上遺跡である。泉坂下遺跡の南方約1.2kmに位置する坪井上遺跡は平成5年度と平成8年度の二度にわたり調査が行われ、竪穴住居跡19軒、袋状土坑75基が確認された中期の集落跡であり、1遺跡から8個の硬玉製大珠が出土していることで特に知られている。これらは新潟県糸魚川市の姫川流域で産出される翡翠製であり、この集落は中期における茨城県北部地域の一大交流拠点であったと考えられている。

弥生時代としては、泉坂下遺跡の南方約1.2kmの上岩瀬富山山遺跡や富士山遺跡で後期後半土器の集落跡が確認されている。しかしここで特筆すべきは小野天神前遺跡であろう。昭和51年に茨城県立歴史館によって学術調査されて、16m四方ほどの調査区から20基の土坑が確認され、茨城県北部の再葬墓研究に大きく寄与した。一般に人面付壺形土器は再葬墓遺跡1遺跡から



第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 1:25,000 地形図「常陸大宮」)

1点しか出土しないが、小野天神前遺跡では1遺跡から3点の人面付壺形土器が出土し一躍注目を浴び、これらを含む出土土器19点は茨城県有形文化財に指定されている。那珂川沿いの小野天神前遺跡は、今回調査された久慈川沿いの泉坂下遺跡と並び称される遺跡である。

古墳時代の集落遺跡としては、梶巾遺跡や下村田遺跡が確認されている。また富士山古墳群には前方後方墳である富士山4号墳があり、茨城県内でも最も古い古墳の一つと考えられていて、泉坂下遺跡の南方約1.4kmに所在する。また中期の古墳として、同じく富士山古墳群の全長60mの五所皇神社裏古墳、糠塚古墳群の全長90mの糠塚古墳の前方後円墳が所在する。後期の古墳として、一騎山古墳群は10基の古墳からなり、4号墳は6世紀後半の小規模な前方後円墳で、人物・動物等の形象埴輪や円筒埴輪が出土している。このほか岩崎古墳群、鷹巣古墳群、糠塚古墳群、富士山古墳群などがあり、これらのほとんどは久慈川右岸またはその支流玉川両岸の段丘上に所在するが、岩崎古墳群及び富士山古墳群の丸山古墳は久慈川の低位段丘面上に所在している。また玉川左岸には、雷神山横穴群と岩欠横穴群といった横穴墓も所在している。

奈良・平安時代の遺跡は時代別としては最も多く市内に所在し、調査例も多い。県内有数の大規模集落として知られるのは、久慈川右岸の段丘上標高55mの上ノ宿遺跡である。平成18年度と平成20年度の2度の調査で、合わせて118軒の堅穴住居跡が確認され、風字硯や耳皿2点などの遺物が出土しており、この地域の拠点集落であったと考えられている。また岡原遺跡では多文字・人面墨書土器や朱墨書土器が出土しており、源氏平遺跡では底面に墨書され内側に漆紙文書が付着した土師器坏や、刻書された瓦が出土した。このほか「丈」の烙印が出土した上村田小中遺跡や、茨城県指定有形文化財「丈永私印」の銅印が出土した小野中道遺跡など、丈部氏関連と考えられる遺跡が確認されている。

中世の遺跡としては、久慈川右岸の部垂城跡、宇留野城跡、前小屋城跡、那珂川左岸の長倉城跡、野口城跡、小場城跡、玉川左岸の東野城跡などに代表される城館跡が所在しており、中でも前小屋城跡は泉坂下遺跡の北西約500mに所在する。

第1表 泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	番号	遺跡名	種類	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世
1	泉坂下遺跡	集落跡			○						23	堂山A遺跡	集落跡			○	○				
2	部垂城跡	城館跡							○		24	坪井上遺跡	集落跡	○	○	○					
3	松吟寺遺跡	集落跡	○		○	○					25	念仏塚	経塚								○
4	松吟寺古墳群	古墳群			○						26	念仏塚遺跡	集落跡				○				
5	宮中遺跡	集落跡	○		○						27	西坪井遺跡	集落跡			○	○	○			
6	上ノ宿遺跡	集落跡	○	○	○						28	上岩瀬富士山遺跡	集落跡			○	○				
7	上宿上坪遺跡	集落跡	○	○	○	○					29	富士山古墳群	古墳群			○	○				
8	仲下遺跡	集落跡	○	○	○	○					30	川岸遺跡	集落跡							○	
9	宇留野城跡	城館跡						○			31	岩瀬城跡	城館跡	○		○	○				
10	大塚遺跡	集落跡	○								32	上岩瀬中坪遺跡	集落跡			○	○				
11	六丁遺跡	集落跡									33	本宮遺跡	集落跡	○	○	○					
12	駄木所遺跡	集落跡									34	瀨前遺跡	集落跡			○	○				
13	前小屋館跡	城館跡			○	○					35	上坪遺跡	集落跡						○		
14	上高作遺跡	集落跡									36	滝前遺跡	集落跡	○							
15	春日神社前遺跡	集落跡			○	○					37	城菩提城跡	城館跡								
16	根本後坪遺跡	集落跡									38	新宿古墳群	古墳群			○	○				
17	根本遺跡	集落跡									39	久保遺跡	集落跡			○	○	○			
18	根本古墳群	古墳群			○						40	下久買遺跡	集落跡			○	○	○	○		
19	北村田B遺跡	集落跡									41	十林寺古墳群	古墳群			○	○				
20	一騎山古墳群	古墳群			○	○					42	瓜連遺跡	集落跡	○	○	○	○				
21	高野A遺跡	集落跡			○						43	寺山寺院跡	寺院跡							○	
22	堂山B遺跡	集落跡						○													

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要 (第2図, 第2表)

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在し、久慈川右岸の低位段丘面上に立地している。標高20m～21mで、東側の水田面からの比高差は2mほどであり、現況は水田(陸田)、宅地、原野である。

まず平成18年に調査されたトレンチを第1トレンチとして調査区の中心に捉え、これを南北に延長し、また東西に直交する形でトレンチを設定し、状況に応じてこれらを補足するトレンチを入れる方針をとった。

最初に南に向かって第2・3トレンチ、西へ向かって第4・5トレンチ、北へ向かって第6・7トレンチ、東へ向かって第8・9トレンチを設定し、調査を進めた。これらがある程度進捗してきたところで、補足の必要が生じた部分に第10～16トレンチを追加で設定し、そのうち第11・16トレンチの調査に着手した。残したトレンチは次回に調査する。

最終的に今次調査では合計10本のトレンチで計379㎡を調査し、縄文時代前期から近世までの幅広い時代の遺構・遺物を確認した。

遺構は縄文時代の土坑1基、弥生時代の土坑11基、性格不明遺構1基、平安時代の竪穴住居跡7軒、土坑2基、中世の土坑5基、溝3条、時期不明の土坑13基、溝2条、性格不明遺構1基が確認されている。弥生時代の土坑11基のうち6基は再葬墓遺構、3基は土器棺墓である。また中世の土坑6基のうち5基は墓塚である。

遺物は収納コンテナ(内寸530mm×356mm×234mm)で15箱ほど出土している。主な遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、陶器、瓦質土器、土製品・石器、石製品、古銭、銅製品である。中でも縄文時代晩期の土器がとりわけ目につく。

第2節 基本層序

調査区における土層の堆積は、平成18年調査の報告書「泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—」(平成23年8月25日、鈴木素行編集・発行)に倣い、整地・耕作により攪乱された層を第Ⅰ層、ローム層を第Ⅲ層、その中間の層を第Ⅱ層と大きく分類し、そこからアルファベットを付して分層し、さらに細分するものはアラビア数字を付して表記することとした。

また、遺物の出土位置など判別が困難な場合については、例えば第ⅠB1層及び第ⅠB2層から出土したものを、合わせて第ⅠB層からの出土と表記するなど、便宜的に総称として用いた箇所もある。

なお、これらの層位についてはトレンチごとに差異があるため、図についてはそれぞれのトレンチの項にて記載する。

第Ⅰ層

第Ⅰ層は現在の耕作土で、締まりは弱い。灰褐色。

第ⅠB1層は水田耕作の床土の層で、かなり堅く締まる。暗褐色。

第ⅠB2層も同様に水田耕作の床土で、堅く締まるが第ⅠB1層と比べると弱い。暗褐色で第ⅠB1層と比べるとやや黒みが強い。このため遅れて第ⅠB層を2つに分層したものである。

第ⅠC層は調査区域南西端に設定した第11トレンチの11・12区にのみ見られる層で、水田耕作の床土層の一部であるが黄褐色粒子を含有するため、第ⅠB層とは異なる扱いとした。暗褐色で堅く締まる。

第Ⅱ層

第Ⅱ1層は遺物包含層で褐色土。締まりは強い、粘性中。この層が失われているトレンチも多い。

第Ⅱ2層は遺物包含層で暗褐色土。締まりは強い、粘性中。普遍的に存在する。

第Ⅱ3層は遺物包含層で暗褐色土。締まりは強い、粘性中。ただし第Ⅱ2層と比べると締まりはやや弱く、黒みはやや強い。

第ⅡB層は暗褐色土と黄褐色ローム土の混合層であり、ローム粒子が不均一に混じる、第Ⅲ層への漸移層である。締まり中。

第Ⅲ層

第Ⅲ層は黄褐色ローム層であり、締まりは強い。最上面に今市スコリア（Nt-I）と考えられる橙色の火山礫を混入する。

なお、Nt-Iの上位にはほぼ同一時期に降灰した七本桜バミス（Nt-S）と呼ばれる白色の火山灰が堆積しているはずであるが、上層に取り込まれたためか層としてはみとめられなかった。

第Ⅳ層

平成18年の調査時に確認された黄褐色のローム層である。今次調査においては第Ⅲ層上面を確認面としているため、第Ⅳ層はほとんど用いていない。

なお、第Ⅳ層以下の土層堆積状況については、後述する第4号性格不明遺構の調査等で粘土層及び礫層が所在することが判明しているものの、基本土層として把握する作業に適する調査箇所を見出せず、次回以降の課題とした。

第2表 泉坂下遺跡遺構一覧表

No.	遺構番号	位置		時期	備考
		グリッド	トレンチ		
1	SD1	C8h7, C8h8, C8i7, C8i8	11トレ	中世	
2	SD2	C8h9, C8i9	11トレ	中世	
3	SD3	C9h8, C9i8	11トレ	中世	
4	SD4	F9a8, F9a9, F9b8	3トレ	不明	
5	SD5	C6i8, C6i9	5トレ	不明	
6	S12	F8a1, F8a2, F8b1, F8b2	3トレ	平安	
7	S13	F8a7~F8a8, F8b8, F8b9	3トレ	平安	
8	S14	F6h8, F6i8	9トレ	平安	
9	S15	G6e8, G6i8	9トレ	平安	
10	S16	E6f8~E6h8	4トレ	平安	
11	S17	E6a8	4トレ	平安	
12	S18	C7h6, C7h7, C7i6, C7i7	11トレ	平安	
13	SK5	E6j8, F6a8	4トレ	弥生	平成18年調査時に確認、再調査
14	SK10	F7b2	2トレ	不明	
15	SK11	F7a2, F7a3, F7b2, F7b3	2トレ	平安	
16	SK14	F7b1, F7b2	2トレ	不明	
17	SK15	E5h7	6トレ	不明	
18	SK16	D6b9	5トレ	不明	
19	SK18	C9h5, C9h6, C9i5, C9i6	11トレ	中世	
20	SK19	E6d8	4トレ	弥生	土器付墓
21	SK20	E6b8	4トレ	弥生	土器付墓
22	SK21	E6b8	4トレ	弥生	土器付墓
23	SK22	E6a8	4トレ	中世	
24	SK23	F6d8, F6e8	8トレ	弥生	再調査
25	SK24	F6e8, F6d8	8トレ	弥生	再調査
26	SK25	F6d8	8トレ	弥生	再調査
27	SK26	F6b8, F6c8	8トレ	弥生	再調査
28	SK29	E6b8	4トレ	平安	
29	SK30	F6d8	8トレ	弥生	再調査
30	SK31	C7h7, C7h8	11トレ	中世	
31	SK32	D6c8	5トレ	縄文	
32	SK33	D6h8	5トレ	不明	
33	SK34	E6e8	4トレ	弥生	
34	SK37	D6e8, D6e9	5トレ	中世	
35	SK38	C6i8	5トレ	中世	
36	SK39	F7b3, F7b4	2トレ	不明	
37	SK40	E6i8, E6j8	4トレ	不明	
38	SK41	E6b8, E6c8	4トレ	不明	
39	SK42	E6e8	4トレ	弥生	
40	SK43	E6e8, E6f8	4トレ	不明	
41	SK45	E5h8	6トレ	不明	
42	SK46	E5h8~E5h9	6トレ	不明	
43	SK47	E5h9	6トレ	不明	
44	SK48	E5h9	6トレ	不明	
45	SX4	E6h8, E6i8	4トレ	弥生	
46	SX5	E5h7~E5h9	6トレ	不明	

第3節 遺構と遺物

本節においては、今回の調査で確認された遺構と遺物をトレンチごとにまとめて解説し、所見を付す。以下、トレンチ順に記す。

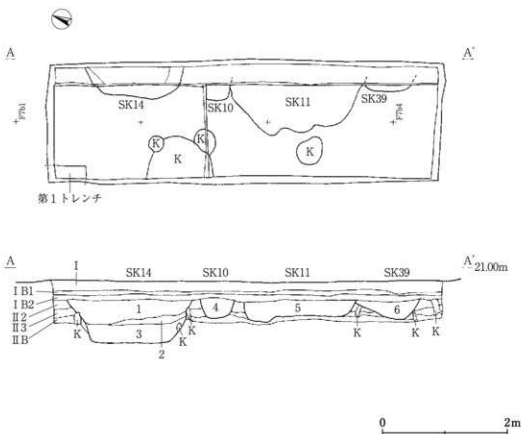
1 第2トレンチ (第3図)

(1) 調査概要

F7a1区からF7a4区、またF7b1区からF7b4区にかけて設定した、長さ7.5m、幅2mのトレンチである。第1トレンチの南側に接して設定しており、再葬墓遺構の分布範囲の南の限界を掴むことを主目的としたトレンチである。なお、位置の確認のため、あえて第1トレンチと一部重複させている。

第II 2層上面で遺構確認に努め、F7a1区及びF7b1区付近では正確を期すため、北端から2.5mまでをさらに15cm掘り下げて確認している。

また、東壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第III層上面まで掘削することを基本とした。



第3図 第2トレンチ実測図

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①平安時代

(i) 土坑

第11号土坑 (SK11, 第3図)

位置 F7a2区, F7a3区, F7b2区, F7b3区に位置する。第Ⅱ2層上面及び東壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西側が不整形であるが、概ね円形となると考えられる。径は200cm程度であろう。確認面からの深さは32cmである。

重複関係 北側にある第10号土坑に切られ、南側にある第39号土坑を切っている。

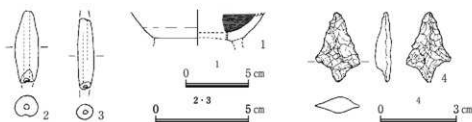
土層 覆土は1層からなり、ロームブロックを比較的多く含む状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

5 黒褐色(10YR3/2) ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, Nt-S少量, ローム中ブロック極少量, 焼土粒子極少量, 粘土小ブロック極少量, 締まり強, 粘性弱

遺物出土状況 土器52点, 石器4点, 木片1点が出土している。うち土師器1点(高台付坏1), 土製品2点(管状土錘2), 石器1点(石鏃1)を掲載する。(第4図, 第3表)

所見 出土遺物から平安時代の所産と考えられる。性格は不明である。



第4図 第11号土坑出土遺物実測図

第3表 第11号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第4図 1	土師器	高台付坏	体~底部, 10%	— [7.0]	貼り付け高台(剥離痕のみ), 内面ミガキ, のち黒色処理	精良, 石英粒, 褐色粒子微量	良好	内面黒色, 外面明褐色	覆土中層	—	PL19

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第4図 2	管状土錘	(3.8)	1.4	0.2	(5.0)	中央部が太く, 両端は細くなる。裏側に粘土板接合痕。長軸方向のナデ	精良, 石英・黒色砂粒少量, 雲母微粒微量	やや不良。ムラあり	にぶい黄褐色	覆土中	—	PL19 一部欠損
3	管状土錘	(3.4)	0.9	0.2	(2.8)	全体に細身。長軸方向のナデ	精良, 石英・黒色砂粒少量, 雲母微粒微量	良好	にぶい黄褐色	覆土中	—	PL19 一部欠損

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第4図 4	石鏃	2.7	1.7	0.7	1.9	メノウ	有茎。打製。刃部交互剥離。裏面は平らだが, 正面は盛り上がる	覆土中	—	PL19

②時期不明

(i) 土坑

第10号土坑 (SK10, 第3図)

位置 F7b2区に位置し、第II2層上面及び東壁のセクションで確認できた。

重複関係 南側に位置する第11号土坑を切っている。

規模と形状 短軸50cm程度の隅丸長方形と考えられる。また確認面からの深さは34cmである。

土層 覆土は1層からなり、ロームブロックを多く含む状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 4 濃い黄褐色 (10YR 4/3) ローム小ブロック多量、ローム粒子多量、Nt-S極少量、締まり中、粘性弱

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第14号土坑 (SK14, 第3図)

位置 F7b1区、F7b2区に位置する。第II2層上面及び東壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるが、円形になるものと考えられる。確認面からの深さは68cmである。壁は外傾して立ち上がる。

土層 覆土は3層からなり、南側から一方的に堆積した状況が窺われ、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 (10YR 3/2) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、焼土小ブロック極少量、土器片・礫極少量、締まり中、粘性弱
2 暗褐色 (10YR 3/4) ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、Nt-S極少量、締まり中、粘性やや弱
3 黒褐色 (10YR 2/3) ローム粒子中量、ローム中ブロック極少量、Nt-S極少量、小礫極少量、締まり弱、粘性強

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第39号土坑 (SK39, 第3図)

位置 F7b3区、F7b4区に位置する。第II2層上面及び東壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるが、楕円形になるものと考えられる。確認面からの深さは28cmである。南壁は急激に立ち上がり、北壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

重複関係 北側にある第11号土坑に切られる。

土層 覆土は1層からなり、堆積状況は不明である。

土層解説

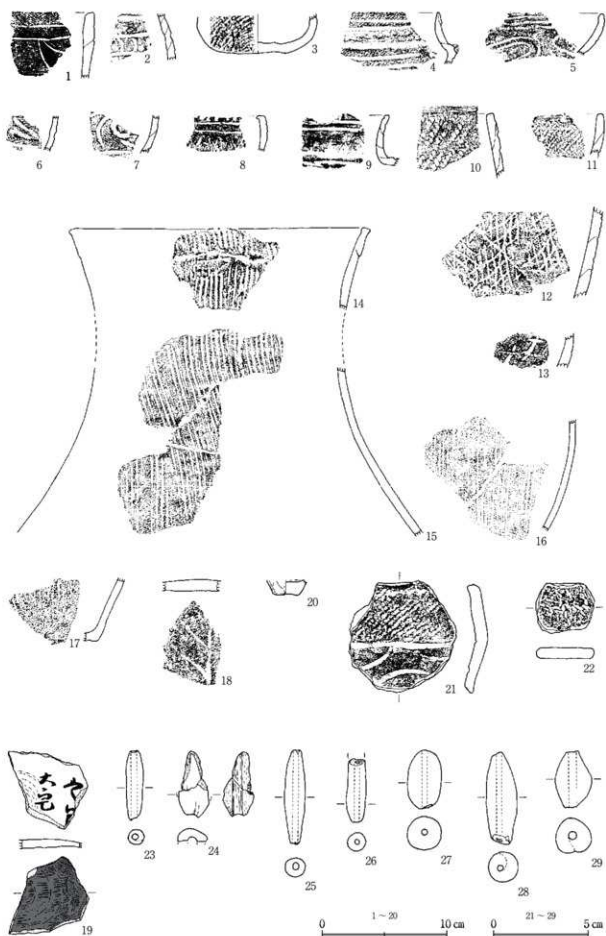
- 6 黒褐色 (10YR 2/3) ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、土器片・小礫極少量、締まり弱、粘性弱

遺物出土状況 出土していない。

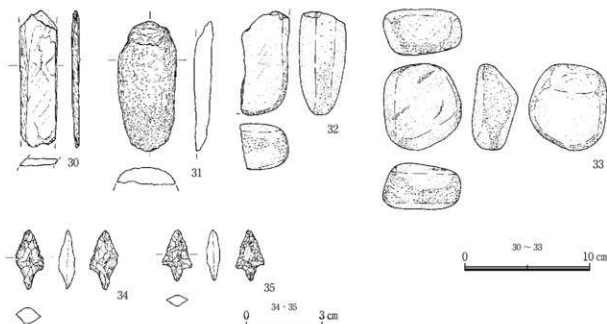
所見 平安時代以前とは考えられるが遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第5・6図、第4表)



第5図 第2トレンチ出土遺物実測図(1)



第6図 第2トレンチ出土遺物実測図(2)

第4表 第2トレンチ出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第5図 1	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	内彎気味、わずかに外傾。細密沈線施文後沈線で区画して磨り消し。沈線は横走2条の下に弧状2条。内面斜位のナデ	石英・メノウ・黒色砂粒・灰色砂粒少量、雲母細粒微量	普通	外面灰黄褐色・黒褐色。内面にぶい褐色。内部黒色	I層	—	PL19 安行3b式
2	縄文土器	小形壺	胴部5%	—	内彎・内傾。頸部でやや外反。外面頸部近くはミガキ、その下に細縄文を地文に上下の沈線2条とその間の弧状沈線により区画する磨消縄文。内面ナデ、輪横み痕	石英、灰色砂粒少量、海綿骨針微量	良好	表面褐灰色、表面直下にぶい黄褐色。内部黒褐色	F7a1, II層	—	PL19 大洞BC式
3	縄文土器	小形浅鉢	胴～底部50%	— 3.7	上げ底。胴部は内彎し大きく外傾、のち強く内彎して立ち上がり、頸部で外反。頸部ナデ、胴部縄文。底面・内面ナデ	石英中量、長石・黒色砂粒・灰色砂粒少量、雲母細粒微量	良好、一部焼けムラ	にぶい赤褐色。一部黒褐色	IB層	—	PL19 晩期前半
4	縄文土器	広口壺	口縁～胴部5%	—	強く内彎する胴部から屈曲し内傾・外反して立ち上がり口縁に至る。口縁部を肥厚させ単節縄文施文のち横走沈線。頸部ミガキ、赤彩。頸部に赤色顔料わずかに残存。胴部に縄文施文。突起を付け左右に沈線。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、雲母細粒微量	良好、一部焼けムラ	にぶい黄褐色。一部褐灰色	IB層	—	PL19 大洞C2式か
5	縄文土器	小形浅鉢	口縁～胴部5%	—	胴部から内彎しながら口縁に至る。底部直下に3条の横走沈線。胴部に沈線の曲線文。内面ナデ	石英・黒色砂粒中量、長石・灰色砂粒少量、雲母細粒微量	二次焼成、もうろい	外面にぶい黄褐色。内面にぶい赤褐色。内部黒褐色	IB層	—	PL19 大洞C2式か
6	縄文土器	小形鉢	胴部5%以下	—	内彎。外傾。器厚薄い(4mm)。外面細かい単節縄文を地文に磨消縄文手法により無文部を作る。外面赤彩。内面ナデ	普通。石英・黒色砂粒少量、雲母細粒微量	不良、もうろい	外面灰黄色。内面・内部黒褐色	IB層	—	PL19 大洞C2式か
7	縄文土器	小形鉢	胴部5%以下	—	内彎。外傾。器厚は薄い(4mm)。細縄文。弧状の沈線により区画する磨消縄文、その下に横走沈線。内面ナデ	石英・黒色砂粒・灰色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	良好	黒褐色。にぶい褐色	F7b3, II層サブトレ	—	PL19 大洞C2式か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第5図 8	縄文 土器	小形 鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	胴部から内彎しながら口縁に至る。肩部にキザミ。直下外面に2条の横走沈線。沈線間ミガキ。胴部に網目状懸糸文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面灰黄褐色	F7b2、II層サブトレ	—	PL19 晩期中葉の粗製土器
9	縄文 土器	壺	口縁～ 頸部、 5%以下	— — —	強く内傾する胴部から強く屈曲し外反して立ち上がり口縁に至る。肩部下に横走沈線2条。頸・胴部の屈曲部と胴部に横走沈線(胴部地文横文が)。口縁部内面横走沈線。内外面丁寧なナデ	良好。石英・黒色砂粒・褐色砂粒・白色針状物質少量、雲母細粒微量	良好	内外面灰黄褐色	I B層	—	PL19 大洲A式か
10	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— — —	内彎。内傾。口縁端部角縁。外面に粗い縄文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量	良好	外面にぶい橙色・褐灰色。内面にぶい黄褐色・褐灰色	F7b1、II層	—	PL19 後・晩期粗製土器
11	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— — —	内彎。わずかに外傾。外面縄文。口縁下3cmを横走沈線で区画。内面斜位のナデ	石英・長石・メノウ・チャート・黒色砂粒少量、雲母細粒微量	良好	灰褐色	排土中	—	PL19 後・晩期粗製土器
12	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面網目状懸糸文。内面斜位のナデ	石英少量、黒色砂粒微量	良好	内外面にぶい黄褐色	I B層	—	PL19 後・晩期粗製土器
13	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎。外傾。外面粗い網目状懸糸文。内面ナデ	石英・長石・黒色砂粒少量、雲母細粒微量	やや不良	外面にぶい橙色。内面灰黄色	F7b1、II層	—	PL19 後・晩期粗製土器
14	弥生 土器	壺	口縁～ 頸部、 5%以下	[23.8] — —	外反・外傾して立ち上がる。複合口縁(肥厚せず)。口縁端部角縁。外面縦位の条痕文(単位3条)。口縁部下位には条痕文施文後に別工具で鋭い短条痕文。内面横位のナデ	石英(粗粒含む)・長石・チャート・灰色砂粒少量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部暗灰色	排土中	—	
15	弥生 土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	外反・外傾した頸部。外面縦位の条痕文(単位3条)。内面斜位のナデ	石英(粗粒含む)・長石・チャート・灰色砂粒少量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部暗灰色	F7b1、II層	3片	PL19 中期。
16	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	外面縦位の条痕文(単位3条)。内面斜位のナデ	石英(粗粒含む)・長石・チャート・灰色砂粒少量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部暗灰色	F7b1、II層	2片	同一個一 同一思 われる破 片が他に 10片以上
17	弥生 土器	壺	胴～底 部、5% 以下	— — —	底部から胴部にかけて外傾して立ち上がる。上部にわずかに縦位の条痕文(単位3条)。内面に炭化物が付着	石英(粗粒含む)・長石・チャート・灰色砂粒少量	良好、 焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部暗灰色	F7b1、II層	—	
18	弥生 土器	壺	底部、 50%	— — —	上げ底気味にわずかに彎曲する。木葉痕。内面ナデ	石英(粗粒含む)・長石・チャート・灰色砂粒少量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部暗灰色	F7b1、II層	—	
19	土師器	壺	天井部、 20%	— — —	ロクロ成形の平たい天井部で周縁部わずかに内彎。中央部につまみ(欠失)貼り付けの際のナデ。回転ヘラ切り。のち手持ちナデ。内面丁寧なミガキ。のち黒色処理。ロクロ痕残る	石英・メノウ・黒色砂粒少量	良好	外面にぶい橙色。内面黒色	I B層	—	PL19 天井部に 墨書「□ □大宅」
20	土師器	ミニ チュア 土器	底部、 50%	(1.3) 2.1	平らな底部から外傾して立ち上がる。内外面ナデ	石英・チャート粒子少量	普通	ぶい橙色。内部褐灰色	I層	—	PL19

挿入番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
21	土器片 円盤	6.0	5.5	—	28.4	縄文土器深鉢の胴～口縁部を転用。周縁部折断整形。土器としては内彎気味・外傾する胴部から屈曲して外傾する口縁部。口縁部外面結節縄文。胴部に横走沈線と弧状沈線文、ミガキ。内面ナデ	石英少量、チャート・メノウ白色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色 内面にふい褐色	1B層一括	—	PL19 完存
22	土器片 円盤	3.1	2.6	—	6.6	縄文土器深鉢胴部を転用。周縁部折断、整形。外面朝日状燃糸文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、メノウ・雲母細粒微量	普通	外面黒褐色 内面褐色	1層	—	PL19 完存
23	管状土鉢	3.8	0.9	0.3	2.4	全体に細身。長軸方向のナデ	精良。石英・黒色砂粒少量、メノウ・雲母細粒微量	良好	にふい黄褐色	F7b1. II層	—	PL20 完存
24	管状土鉢	(3.4)	(1.7)	0.5	(2.9)	太形。長軸方向のナデ。孔内面に植物繊維圧痕(成形用軸痕か)	良好。石英・メノウ・黒色砂粒・凝灰岩粗粒少量	良好	にふい黄褐色	F7b1. II層	2片	PL20 残存率40%
25	管状土鉢	5.0	1.1	0.3	5.2	細身。長軸方向のナデ	精良。石英細粒・黒色細砂粒微量	良好	にふい黄褐色	F2b3. II層	—	PL20 完存
26	管状土鉢	(3.4)	1.0	0.2	(3.8)	全体に細身。長軸方向のナデ	精良。石英・黒色砂粒少量	良好	にふい黄褐色	F2b3. II層	—	PL20 残存率80%程度か
27	管状土鉢	3.1	1.9	0.3	9.6	太形(裏形)。長軸方向のナデ	普通。石英・長石・黒色砂粒中量	良好	黒色	F2b3. II層	—	PL20 完存
28	管状土鉢	(4.9)	1.7	0.3	(10.0)	やや大形。裏側に粘板接合痕。長軸方向のナデ	普通。石英(粗粒含む)・メノウ・チャート・褐色砂粒・灰色砂粒少量	良好	にふい黄褐色	F7b2. II層	—	PL20 残存率80%程度か
29	管状土鉢	3.0	2.0	0.4	(7.4)	短く太い。裏側に粘土板接合痕。長軸方向のナデ	普通。石英・長石・黒色砂粒・灰色砂粒少量	良好。焼けムラあり	にふい黄褐色。一部黄灰色	1B層一括	—	PL20 一部キズ

挿入番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
30	石剣	(10.8)	(3.0)	(0.6)	(24.5)	粘板岩	両側縁を長軸に近い斜め方向の研磨により調整(擦痕残存)	1B層	—	PL20 破片。残存率5%以下
31	石棒	(10.3)	(4.6)	(1.4)	(81.3)	粘板岩	図上端は端部の可能性。表面敲打痕。図の下部約3.7cmは敲打痕が密集しやや細身。調整が進んだ部分か	1B層	—	PL20 破片。残存率5%以下
32	敲石	(8.2)	(3.7)	(3.7)	(158.6)	砂岩	やや扁平な礫を使用。調整なし。端部と側面の一部を敲打に使用。表裏は磨石として利用の可能性	1B層	—	PL20 残存率40%程度か。新世代の砂岩
33	敲石	6.8	6.1	3.5	195.3	砂岩	やや扁平な礫を使用。調整なし。両端と側面の3面を敲打に使用	1B層	—	PL20 完存。新世代の砂岩
34	石鏃	2.3	(1.1)	0.7	(1.2)	メノウ	有茎。打製。一部損壊により剥離。やや厚みがある。褐色	1B層	—	PL20 残存率90%
35	石鏃	2.0	1.2	0.5	0.8	メノウ	有茎。打製。刃部交互剥離。透明感ある良質のメノウ。茎先端部のみ赤褐色	1B層	—	PL20 完存

遺物出土状況 土器1,024点,石器107点,骨片8点が出土している。うち,縄文土器13点(深鉢5,小形浅鉢2,小形鉢3,壺1,広口壺1,小形壺1),弥生土器5点(壺5),土師器2点(蓋1,ミニチュア土器1),土製品9点(土器片円盤2,管状土錘7),石器6点(石剣1,石棒1,敲石2,石鎌2)を掲載する。晩期の縄文土器を中心に石剣・石棒が出土するなど,さながら縄文晩期の遺跡の様相を呈している。14～18は同一個体の弥生中期の壺であり,第1号土坑から近いこともあり,再葬墓遺構の所在を匂わせるものであり,今後付近をさらに精査していく必要がある。19は土師器蓋で,天井部に「□□大宅」の墨書がある。

(3) 所見

再葬墓遺構は確認されなかった。このため第1トレンチの第1号土坑,すなわち平成18年の学術調査で人面付壺形土器が出土した墓塚が,現時点での再葬墓遺構の南限である。しかし遺構外に弥生中期の壺が散見されるため,今後の調査で付近をさらに精査することで南限が変わる可能性は十分にある。

なお,遺構こそ確認されなかったが,縄文晩期の遺物が比較的目立ち,その存在には今後も注意していく必要がある。

2 第3トレンチ (第7図)

(1) 調査概要

F7a6区からF9a9区まで、またF7b6区からF9b9区に設置した、長さ46m、幅2mの南北に長いトレンチである。第2トレンチの南側に設定した、泉坂下遺跡の所在する低位段丘面の南の限界を囲むことを主目的としたトレンチである。

第II 2層上面で遺構を確認した。なお、南端では第4号溝の確認のためF9a8区、F9a9区、F9b8区は第III層上面まで掘り下げたほか、南方へトレンチを拡張している。

また、西壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第III層上面まで掘削することを基本とした。

遺構以外の土層で、セクションで示したものは以下のとおりである。

土層解説

- | | |
|--------------------|------------------|
| 11 明褐色 (7.5YR 5/6) | ロームブロック、締まり弱、粘性中 |
| 12 褐色 (7.5YR 4/6) | ロームブロック、締まり弱、粘性中 |

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①平安時代

(i) 竪穴住居跡

第2号竪穴住居跡 (S12, 第7図)

位置 F8a1区、F8a2区、F8b1区、F8b2区に位置する。第II 2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西半分がトレンチ外へ延びているため長軸の長さは不明、短軸は184cm、長軸の方位がN-57°-Eの隅丸長方形と推定される。壁高は24cmで、外傾して立ち上がっている。

土層 覆土は3層からなり、レンズ状の自然堆積である。2が床面と考えられるが明瞭ではない。

1は耕作の影響を大きく受けている。

土層解説

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 (7.5YR 2/3) | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性弱 |
| 2 暗褐色 (7.5YR 3/3) | ローム粒子多量、締まり強、粘性中 |
| 3 褐色 (7.5YR 4/3) | ローム小ブロック少量、ローム粒子極少量、締まり強、粘性弱 |
| 4 黒褐色 (7.5YR 2/2) | ローム粒子少量、締まり中、粘性弱 |

床 セクションでわずかに確認できるが明瞭ではない。

竈 東壁中央部やや北寄りに白色粘土で付設されている。付近の覆土には焼土粒子が散っており、ローム粒子が混じる。

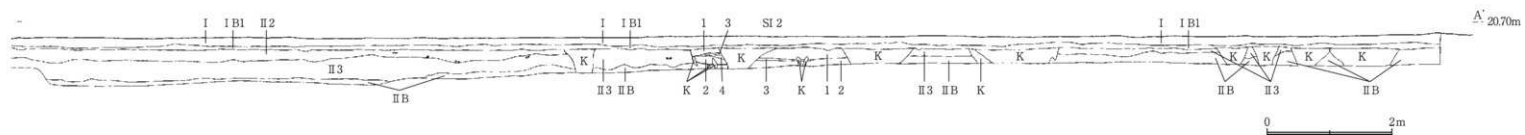
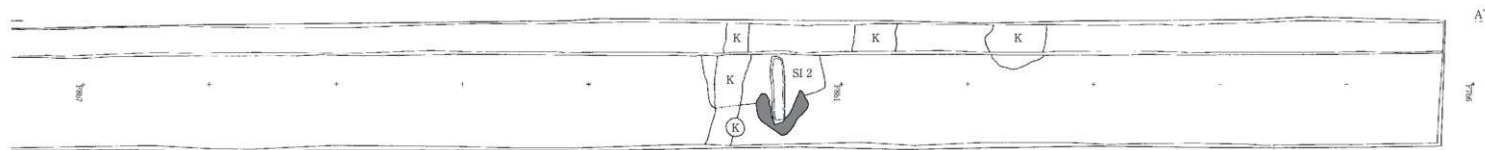
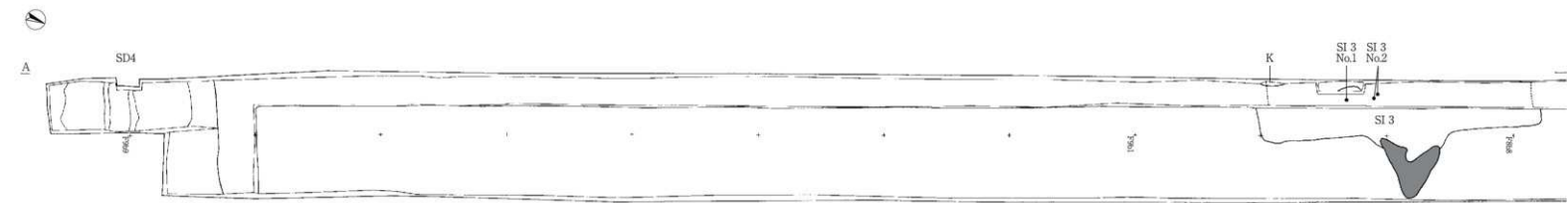
柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状から平安時代の所産と判断した。

第3号竪穴住居跡 (S13, 第7図)

位置 F8a7区からF8a0区、F8b8区からF8b9区に位置する。第II 2層上面及び西壁のセクションで確認できた。



第7図 第3トレンチ実測図

規模と形状 西半分がトレンチ外へ延びているため長軸の長さは不明、短軸は440cm、長軸の方がN-62°Eの隅丸長方形と推定される。壁高は22cmで、外傾して立ち上がっている。

土層 覆土は4層からなり、レンズ状の自然堆積である。8及び10は貼床材が散ったものと考えられる。

土層解説

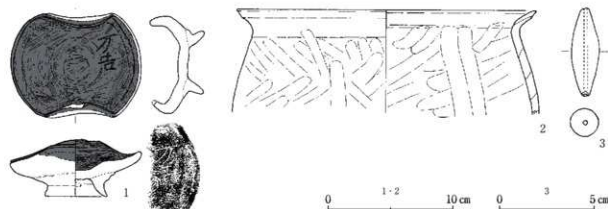
- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 5 黒褐色 (10Y R 3 / 2) | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、締まり強、粘性弱 |
| 6 暗褐色 (10Y R 3 / 4) | ローム粒子極少量、締まり強、粘性弱 |
| 7 極暗褐色 (7.5Y R 2 / 3) | ローム粒子極少量、締まり強、粘性弱 |
| 8 褐色 (7.5Y R 4 / 3) | 粘土粒子多量、ローム粒子中量、締まり強、粘性中。貼床材か |
| 9 黒褐色 (7.5Y R 2 / 2) | ローム粒子極少量、締まり強、粘性弱 |
| 10 褐色 (7.5Y R 4 / 3) | 粘土粒子多量、ローム粒子中量、締まり強、粘性中。貼床材か |

床 貼床の一部が確認できる。

竈 東壁中央部に砂質粘土で付設されている。

柱穴 サブトレンチ底面で1か所確認した。

遺物出土状況 土師器2点(耳皿1、甕1)、土製品1点(管状土錘1)が出土している。1は耳皿で、体部内面に「万吉」の線刻がある。(第8図、第5表)



第8図 第3号竈穴住居跡出土遺物実測図

第5表 第3号竈穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合	備考	
第7図 1	土師器	耳皿	ほぼ 完形	10.4	皿は内彎気味に大きく開き、 両端を上折り曲げて耳皿に 作る。底部には貼付け高 台。内面は丁寧なミガキ、の ち黒色処理	石英(礫含 む)少量、 チャート礫・ 雲母細粒微 量	良好	内面黒色、他 は浅黄色	サブト レ内	—	PL20 体部内面 に「万吉」 の線刻 (ミガキ 後、焼成 前)	
				4.5								
				5.0								
第7図 2	土師器	甕	口縁・ 体部、 10%	[23.4] (8.2) —	体部上半は内彎しながら立 ち上がり、頸部から外反。口 縁部は外方につまむ。口縁部 は横ナデ。内外面ナデ	石英・長石 チャート粒 含む。雲母粒 少量	やや 不良	にぶい橙 色、 橙色	サブト レ内	2片	PL20	
				—								
挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第7図 3	管状 土錘	4.7	1.6	0.2	7.6	中央部を太く、両端を細く 作る。長軸方向のナデ	精良。石英粒 少量	良好	淡黄色	覆土中	—	PL20

所見 出土遺物から9世紀後葉から10世紀前葉の所産と考えられる。なお、線刻がある耳皿の出土は特筆すべき点である。

②時期不明

(i) 溝

第4号溝 (SD4, 第7図)

位置 F9a8区, F9a9区, F9b8区に位置する。第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 南部がトレンチ外に延びているが、確認できるだけで上端の幅265cm、確認面からの深さ62cmである。走向はトレンチにはほぼ直交し、N-67°-Eを向く。これは付近の等高線ともほぼ直交するものである。壁高は60cmであるが、底面から20cm付近で大きく外傾する。

土層 覆土は3層からなり、レンズ状の自然堆積である。中世の所産であれば第II2層を切っているはずであるが明瞭でなく、縄文以前の所産である可能性がある。

土層解説

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 13 黒褐色 (10Y R 3/1) | ローム小ブロック少量、ローム粒子多量、締まり中、粘性弱 |
| 14 黒褐色 (7.5Y R 2/2) | ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱 |
| 15 黒褐色 (7.5Y R 3/1) | ローム粒子極少量、締まり弱、粘性弱 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わず、セクションからすると縄文以前の可能性はあるが、時期の決定には至らなかった。なお、走向から第11トレンチの第3号溝と同一である可能性も考えられる。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第9・10図, 第6表)

遺物出土状況 土器1436点、石器273点、鉄製品1点が出土している。うち、縄文土器46点(深鉢39, 鉢5, 小形浅鉢1, 壺1)、弥生土器2点(壺1, 小形壺1)、土師器6点(坏1, 高台付坏2, 甕1, ミニチュア土器2)、青磁1点(碗1)、陶器1点(甕1)、土製品2点(管状土錘2)、石器・石製品6点(石刀1, 凹石2, 石鏃3)を掲載する。今回設定したトレンチの中では前期の縄文土器が最も多く出土した。また、所在する遺構と関連のある平安時代・中世の遺物も分布している。

(3) 所見

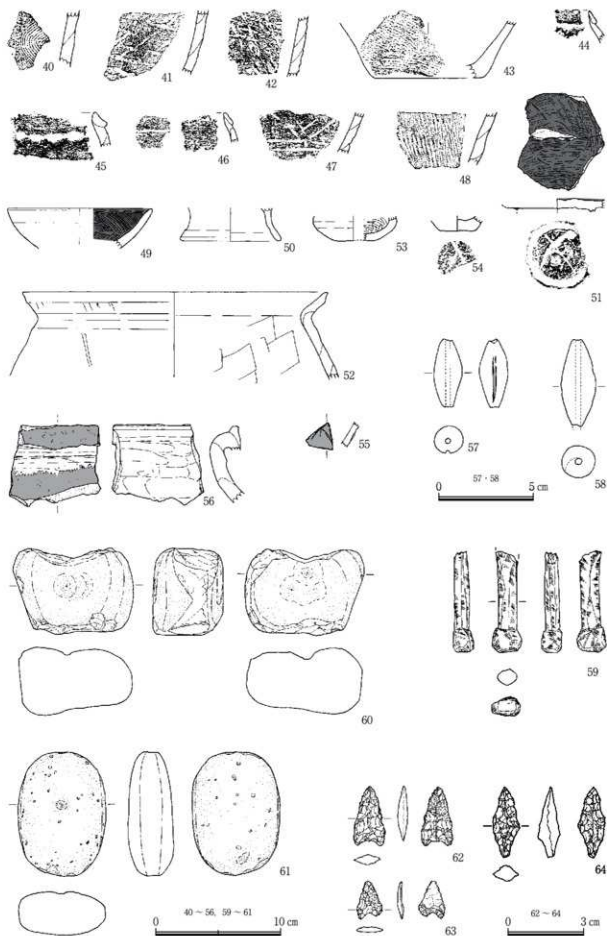
サブトレンチ内の第III層が南傾することを想定して設定したトレンチであるが、明確な傾斜は現れず、結果として低位段丘面の南限を掴むことはできなかった。今後はより南方にトレンチを設定する必要がある。

他のトレンチと同様、縄文晩期の遺物が比較的多く見受けられるが、第3トレンチで特徴的なのは前期土器の出土であろう。

また、平安時代の遺構が確認された。平安時代の遺跡は低位段丘面一帯に広く分布する可能性が濃厚である。



第9図 第3トレンチ出土遺物実測図(1)



第10図 第3トレンチ出土遺物実測図(2)

第6表 第3トレンチ出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第9図 1	縄文 土器	深鉢	胴部下 半、 5%以下	— —	やや内彎気味に外傾して立ち上がる。外面無節の縄文、内面ナデ	繊維土器(繊維痕顕著)。石英少量、灰色砂粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面にふい褐色。内面灰黄褐色。内部褐灰色	F8a5、II層	—	PL21 植房式
2	縄文 土器	深鉢	胴部下 半、 5%以下	— —	やや外傾しながら直線的に立ち上がる。外面無節の縄文、内面ナデ	繊維土器(繊維痕顕著)。石英少量、灰色砂粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面にふい褐色。内面灰褐色。内部褐灰色	F8a5、II層	—	PL21 植房式。 1と同一 個体か
3	縄文 土器	深鉢	胴部下 半、 5%以下	— —	外反気味、外傾。粘土板貼付後施文。器厚厚い(15.7mm)。外面蒸条工具で横位の沈線。内面ナデ	繊維土器(繊維痕顕著)。石英中量、メノウ・黒色砂粒少量	やや不良	褐灰色	F8a6、II層	—	PL21 植房式
4	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	器厚厚い(12.2mm)。外面縄文(3段の摺り?)、内面縦位のナデ	繊維土器(繊維痕顕著)。石英少量、灰色砂粒微量	やや不良	外面にふい褐色。内面・内部褐灰色	F8a5、II層	—	PL21 植房式
5	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	外傾する波状口縁波頂部。器厚厚い(11.3mm)。外面葦状工具による左から右への押し引き文3条。内面横位のミガキ	繊維土器。石英・褐灰色砂粒少量	良好	外面にふい黄褐色。内面・内部褐灰色	F8a6、II層	—	PL21 植房式
6	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	外面節描波状文(単位5条)。内面ナデ	繊維土器。石英・黒色礫・白色礫少量。雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にふい褐色。内部黒褐色	3区、 I B層	—	PL21 植房式
7	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	外傾。3条(以上)の横走する連続刺突文。内面ミガキ気味のナデ	繊維土器。石英・黒色礫・白色礫少量。雲母細粒微量	やや不良	外面にふい黄褐色。内面・内部褐灰色	2区、 I B層	—	PL21 植房式
8	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	外反気味、外傾。外面横位の連続刺突文2条。内面ナデ	繊維土器。石英少量。黒色砂粒・長石微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部黒色	4区、 I B層	—	PL21 植房式
9	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%以下	[17.0] —	強く内彎。外傾。口縁部下外面に横走する弧状条線文。胴部ナデ。内面横位のケズリ後、やや粗い横位のミガキ	石英少量。長石・灰色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい赤褐色	7区、 I B層	—	PL21 加曾利B 式
10	縄文 土器	深鉢	胴部上 位、 5%以下	— —	やや外傾して立ち上がる。器厚薄い。外面横走沈線3条へラ状工具で刺突。上段は横方向からの刺突で窓を2個作る。下段はキザミ状で連続	良好。石英中量。長石・黒色砂粒少量。雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にふい褐色。内部褐灰色	F8a1、 II層	—	PL21 後期末～ 晩期初頭
11	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	外反気味、外傾。口縁部外面に工具を横に動かしてキザミ。その下に細い横走沈線1条。胴部はミガキ気味のナデ。内面横位のナデ	石英少量。黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐灰色	2区、 I B層	—	PL21 後期末～ 晩期初頭
12	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	わずかに外反、外傾。蒸条文施文後横走沈線を施し磨り消し。内面ナデ	石英中量。長石・黒色砂粒少量。雲母細粒微量	やや不良。焼けムラ	にふい黄褐色。一部黒褐色	3区、 I B層	—	PL21 後期末～ 晩期初頭
13	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	内彎気味、内傾。外面縄文施文後、2条の沈線施文。その間は磨消し。内面ナデ	石英少量。黒色砂粒・灰色礫微量	普通	外面にふい黄褐色。内面浅黄褐色・褐灰色	4区、 I B層	—	PL21 後期末～ 晩期初頭

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第9図											
14	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎・内傾し口縁端部に向かって肥厚する。口縁部外面に鋭いキザミ連続。口縁部下に横走糸線文及び糸線による縦位の波状文。内面横位のナデ	石英・長石・メノウ礫・灰色礫・褐色礫少量, 黒雲母細粒微量	普通, 若干焼けムラ	サンドイッチ状, 内外面にぶい黄褐色, 内部黒色	6区, 1B層	—	PL21 後期末～晩期初頭の粗製土器
15	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内傾する複合口縁。外面にキザミ。口縁部下に縦位の弧状沈線。内面斜位のナデ	石英中量, メノウ礫・チャート礫・黒色礫少量, 雲母細粒微量	普通	ぶい黄褐色	6区, 1B層	—	PL21 後期末～晩期初頭の粗製土器
16	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	やや内傾する複合口縁。外面にヘラ状工具による粗いキザミ。内面ナデ, 一部に輪積み痕	石英・黒色砂粒中量, 長石・メノウ少量	普通	サンドイッチ状, 内外面にぶい黄褐色, 内部褐色灰色	3区, 1B層	—	PL21 後期末～晩期初頭の粗製土器
17	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎気味, 内傾。複合口縁外面に細い棒状工具によるキザミ。口縁部下に結節縄文, 内面ナデ	石英(礫含む)少量, 雲母細粒, 海綿骨針微量	普通	外面にぶい黄褐色, 内面にぶい黄褐色	2区, 1層	—	PL21 後期末～晩期初頭の粗製土器
18	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	やや内彎, 内傾。複合口縁にヘラで左から右にキザミ(楕円を作る)。胴部外面縄文, 内面ナデ	石英・黒色砂粒・灰色砂粒少量, 雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色, 内面の一部にぶい黄褐色	4区 付近排土中	2片	PL21 後期末～晩期初頭の粗製土器
19	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内彎気味, 外傾。口縁端部に突起(現状2個)。外面縄文, その下に磨消縄文手法と沈線で入組三叉文。内面ミガキ	石英・メノウ礫・灰色砂粒・黒色砂粒少量, 黒雲母細粒微量	良好	黒褐色	5区, 1B層	—	PL21 大洞B1式か
20	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	粗製。外反気味, 内傾。口縁部外面ナデ, 胴部外面楕円形と三日月形の貼付文, 内面ナデ	石英少量, 長石・メノウ・褐色礫・黒色砂粒・灰色砂粒微量	普通	外面にぶい褐色, 内面にぶい黄褐色	3区, 1B層 F7a0, II層	2片	PL21
21	縄文土器	小形浅鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎・外傾して立ち上がる。器厚薄い(4.1mm)。やや肥厚する口縁端部に2個の小突起貼付け。外面細縄文を磨り消して4条の横走沈線, 中段二溝間の截痕, 内面丁寧なナデ	石英・灰色礫中量, 長石・褐色砂粒少量, 黒雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状, 内外面にぶい褐色, 内部褐色灰色	F8a8, II層	—	PL21 大洞BC式
22	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	— — —	外反気味, 外傾。外面磨消縄文手法による雲形文か。内面ナデ	石英少量, メノウ・黒色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色, 内面灰黄褐色	5区, 1B層	—	PL21 大洞C2式
23	縄文土器	鉢	胴部, 5%	— — —	強く内彎, 強く内傾。外面縄文を地文とし沈線と磨消縄文手法により円文施文, 内面ケズリ状のナデ	石英・長石少量, メノウ・黒色雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状, 内外面褐色, 表面下にぶい褐色, 内部褐色灰色	1～3区 付近排土中	—	PL21 大洞C2式
24	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	— — —	器厚薄い(4.3mm)。外傾しわずかに内彎気味に立ち上がる。外面細縄文の下に沈線1条, その下位は丁寧なナデ(一部ミガキ), 内面斜位のナデ	良好。石英・褐色砂粒少量, 灰色砂粒微量	良好	外面灰褐色・黒褐色, 内面黒褐色	F8a4, II層	—	PL21 大洞A式か
25	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内傾, 内彎。外面結節縄文, 内面ナデ	石英中量, チャート礫・黒色砂粒少量, 雲母細粒微量	普通	ぶい褐色	3区, 1B層	—	PL21 晩期前葉～中葉
26	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	内彎気味, 外傾。外面結節縄文, 内面ナデ	石英少量, 黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通, 焼けムラ	サンドイッチ状, 外面灰黄褐色, 内面灰褐色, 内部黒色	4区, 1B層	—	PL21 晩期前葉～中葉

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第9図 27	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	やや内彎。内傾。口縁端部角 型、外面縄文・結節縄文、内 面ミガキ	石英少量、メ ノウ・雲母細 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 褐色。内部褐 灰色	1～3 区付近 排土中	—	PL21 後・晩期 前葉 ～中葉
28	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎。外傾。口縁端部平坦。 外面縄文。口縁端部から内面 ナデ。内外面輪積み痕	石英少量、黒 色砂粒・灰色 砂粒・雲母細 粒微量	良好	にぶい橙色	4区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
29	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	直線の。外傾。口縁端部平坦。 外面縄文。口縁端部横位の強い ナデ。内面斜位の丁寧なナ デ	石英少量、黒 色砂粒・褐色 砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色 、内部褐色	4区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
30	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	内彎、わずかに内傾。外面やや 粗い縄文。内面ナデ	石英中量、メ ノウ・長石・ チャート礫 少量、雲母細 粒微量	普通、 焼けム ラあり	にぶい橙色	3区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
31	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	内彎気味、わずかに内傾。外 面やや細かい縄文。内面ナデ	石英中量、メ ノウ・長石・ チャート礫 少量、雲母細 粒微量	普通	にぶい橙色	3区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
32	縄文 土器	鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	内彎、外傾。貼付口縁（内面 に貼り付け）、口縁端部平坦。 外面縄文。口縁端部から内面 ナデ	石英中量、褐 色砂粒・雲母 細粒微量	良好	にぶい赤褐 色	5区、I B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
33	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	器厚薄い（6.0mm）、外面弧状 （縦位の波状文か）の条線文 （施文具の単位は6条か）、内 面横位のナデ	粗悪。石英・ 灰色礫中量、 長石・メノウ ・黒色砂粒少 量、海綿骨針 微量	普通	外面黒褐色、 内面灰褐色、 内部にぶい 褐色	F8a4、 II層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
34	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	頸部で屈曲して外傾。僅かに 内彎。外面横位の条線文、頸 部以下に斜位の条線文。内面 横位のナデ	石英少量、黒 色砂粒・灰色 砂粒・雲母細 粒微量	良好	外面にぶい 赤褐色。内面 灰褐色	4区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
35	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎・内傾。端部に向ってやや 肥厚。外面ケズリ気味のナ デ後。縦位・横位の条線文、 内面ナデ	石英・黒色砂 粒・黄褐色砂 粒少量、雲母 細粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰黄 褐色。内面に ぶい黄褐色 、内部褐色	4区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
36	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	内彎、ほぼ直立。外面条線に よる縦位の直線文と縦位の 弧状（波状か）文、内面横位 のナデ	石英少量、灰 色砂粒・褐色 砂粒・メノウ 微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰褐 色。内面にぶ い黄褐色。内 部褐色	4区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土 器。外面 炭化物付 着
37	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	内彎気味。内傾。口縁部外面 横位の条線文、胴部に縦位の 弧状（波状か）条線文、内面 ナデ	石英少量、黒 色砂粒・褐色 砂粒微量	普通、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面淡 黄褐色・橙 色。内部褐色	F8a6、 II層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
38	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面縦位と 波状の条線文	石英・灰色砂 粒・チャート 礫・黒色砂粒 少量、黒雲母 細粒微量	良好	外面にぶい 黄褐色。内面 にぶい黄褐 色	F8a5、 II層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
39	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— — —	内彎気味。内傾。外面横位の 条線文、内面ナデ	石英少量、灰 色砂粒・褐色 砂粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色 、内部褐色	4区、 1B層	—	PL21 後・晩期 粗製土器

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第10図											
40	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	直線的、外傾。外面ナデ後、 条線による段位の波状文。内 面丁寧なナデ	石英少量、黒雲 母細粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面にふ い黄橙色。内 面暗灰褐色。 内部褐灰色	4区、 1B層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
41	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— —	内彎気味、外傾。外面粗い網 目状熱糸文、内面斜位のナデ	石英粒中量、 石英塵・ チャート塵・ 黒色砂粒少 量、黒雲母 細粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐 色・黒色。内 面にふい褐色 。内部灰褐色	F8a4、 II層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
42	縄文 土器	壺	胴部、 5%以下	— —	内彎気味、わずかに外傾。外 面網目状熱糸文、内面斜位の ケズリ、のちナデ	石英(礫含 量)少量、黒 色砂粒・灰色 砂粒・雲母 細粒微量	良好、 堅微	外面黒褐色。 内面・内部赤 褐色	4区、 1B層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
43	縄文 土器	深鉢	胴～ 底部、 5%	— — —	底部から外傾して立ち上がる。 外面熱糸文、内面斜位の ナデ	石英(礫含 量)中量、褐 色砂粒・黒色 砂粒・金雲母 細粒微量	やや不 良、焼け ムラ	サンドイッチ 状。外面にふ い褐色。内面 明赤褐色・暗 赤褐色。内部 黒色	9区、 1B層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
44	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— —	内傾する複合口縁。胴部は内 彎。内外面横位のナデ	石英中量、黒 色砂粒少量	良好	にふい黄橙 色	5区、 1B層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
45	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— —	粗製。内彎、内傾。複合口縁。 内外面ナデ。指頭痕顕著	石英中量、黒 色砂粒少量、 雲母細粒微量	やや不 良、焼け ムラ	サンドイッチ 状。外面にふ い褐色。内面 にふい黄褐色 。内部褐灰色	F8a4、 II層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
46	縄文 土器	深鉢	口縁 部、5% 以下	— —	内傾する複合口縁。胴部内 彎。外面横位のナデ。内面斜 位のナデ。内外面に輪積み痕	石英中量、黒 色砂粒少量、 雲母細粒微量	やや不 良	外面灰褐色。 内面橙色	F7a1、 II層	—	PL22 後・晩期 粗製土器
47	弥生 土器	小形 壺か	胴部下 半、5%	— —	内彎気味、外傾。外面沈線に よる三角文と横走沈線。内面 ナデ	石英・灰色砂 粒少量、雲母 細粒微量	やや不 良	サンドイッチ 状。内外面灰 褐色。内部黒 褐色	4区、 1B層	—	PL22 中期
48	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— —	内彎気味、外傾。外面熱糸文、 内面丁寧なナデ	精良。石英・ 褐色砂粒微量	良好、 焼けム ラあり	内外面にふ い黄橙色。外 面一部黒色	4区、 1B層	—	PL22 中期
49	土師器	坏	口縁～ 体部、 15%	[114] — —	内彎、大きく外傾。外面ロウ コナデ、内面ミガキ、のち黒 色処理	石英・メノウ ・チャート・泥 岩塵・雲母細 粒微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面 黒色	6区、 1B層	—	PL22
50	土師器	高台付 杯	高台部、 5%	(26.0) — [80]	足高の貼付高台。内外面ナデ	精良。石英・ 白色礫少量、 雲母細粒微量	良好	にふい黄橙 色	3区、 1B層	—	PL22
51	土師器	高台付 杯	底部、 30%	— 5.4	底部へラ切り、のち高台貼り 付け、ろくろナデ。内面はほ 2方向の丁寧なミガキ、のち 黒色処理。底部外面(高台 内)に植物質工具による刻線 「×」(右上から左下→左上か ら右下)	精良。石英少 量、長石・雲 母細粒微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面 黒色	3区、 1B層	2片	PL22
52	土師器	壺	口縁～ 体部、 5%	(23.6) — —	内彎・内傾する胴部から頸部 で強く反り口縁部に至る。 端部つまみ上げ。口縁部内 面から頸部外面横ナデ、胴部 外面へラケズリのちナデ、内 面ナデ	石英(礫含 量)少量、黒 色砂粒・褐色 砂粒微量	良好	にふい褐色	6区、 1B層	—	PL22

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第10図 53	土師器	ミニチュア土器(小形壺)	体～底部, 25%	— (20) [3.1]	平底から内彎・外傾して立ち上がり, 肩部で大きく内彎・内傾。最大径6.6cm(肩部)。外面ヘラナデ, 内面粗いミガキ	石英少量, 長石・褐色砂粒・灰色砂粒微量	やや不良, 焼けムラ焼けムラ	褐色色・にぶい黄褐色	F8a8, II層	—	PL22
54	土師器	ミニチュア土器	底部, 30%	— 30.0	底部木葉痕。胴部外傾。内面指ナデ	石英少量, 長石・褐色砂粒微量	良好	外面橙色, 内面にぶい褐色	4区, I B層	—	PL22
55	青磁	碗	体部, 5%以下	— —	わずかに内彎気味, 外傾。外面浮き彫りの蓮弁文先端部。内外面施軸	精良	良好	内外面 軸オリーブ灰色, 器体灰白色	6区, I層	—	PL22 龍泉窯系, 13C後半—14C前半。平置きで実測
56	陶器	甕	口縁部, 5%以下	[38.4] — —	内傾・外反する頸部から大きく外反する口縁部。端部は断面N字状(緑帯部一部欠損。軸の掛かり具合からは幅4cm程度か)。内外面横位のナデ。緑帯部・肩部外面に軸	石英(礫含む)少量	良好	内外面にぶい赤褐色・褐色。軸灰オリーブ色	5区, I層	—	PL22 常滑, 13C後半

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第10図 57	管状土鉢	3.6	1.6	0.2	5.9	中央部を太く、両端を細く作る。裏側に溝状のくぼみ(理由等不明)。長軸方向のナデ	石英少量, 黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	にぶい黄褐色	F8a8, II層	—	PL22 完存
58	管状土鉢	(4.6)	1.8	0.3	(10.7)	中央部を太く、両端を細く作る。長軸方向のナデ。粘土板接合痕あり	石英少量, 黒色砂粒・雲母微粒・海綿骨針微量	やや不良, 焼けムラあり	灰白色, 褐色	3区, I B層	—	PL22 一部欠損

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第10図 59	石刀	(7.9)	2.3	1.4	(31.3)	粘板岩	両頭の石刀の先端部(未成品)。先端部に自然面を残すが、他はすべて粗い研磨痕	5区, I B層	—	PL22 1/4程度か
60	凹石	6.9	(9.5)	5.6	514.0	砂岩	やや扁平な礫を利用。両面に凹み。両面とも使用箇所の変遷あり	F8a4, II層	—	PL22 一部欠損
61	磨石(凹石)	9.7	6.8	3.5	309.2	多孔質安山岩	扁平で楕円形の礫使用。6面すべて磨石として利用。凹石としての使用痕あり	1区, I B層	—	PL22 完存
62	石鐮	2.4	1.3	0.4	1.0	チャート	無茎。挟りは2mm。全体に剥離調整。刃部交互剥離	9区, I層	—	PL22 完存
63	石鐮	(1.5)	1.0	0.2	(0.3)	メノウ	薄い剥片の打点個を先端として利用。無茎。挟りは2mm。主に表面に調整。表面は基部のみ調整	3区付近排土中	—	PL22 一部欠損
64	石鐮	2.8	1.2	0.9	1.9	チャート	有茎。全面調整。刃部交互剥離。鎌身基部付近両面が剥離しきれず分厚い	1区, I B層	—	PL22 完存

3 第4トレンチ (第11図)

(1) 調査概要

E6a8区からE6js区に設定した、長さ20m、幅2mのトレンチである。第1トレンチの西側に、第1トレンチと直交方向に設定しており、再葬墓遺構の分布範囲の西の限界を掴むこと及び遺構の広がりやを掴むことを主目的としたトレンチである。なお、第4・5トレンチ付近は、低位段丘の緩やかな尾根にあたる位置である。

第Ⅱ1層上面で遺構確認に努めた。なお、E6js区では、第5号土坑の確認のためトレンチを東方に拡張している。また、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。ただし、E6js区については第5号土坑の保護のためサブトレンチは掘削していない。

なお、第4トレンチで確認された再葬墓遺構1基及び土器棺基3基(第5・19・20・21号土坑)については、今回は遺跡保護のため遺構の掘り込みはしておらず、確認された土器は取り上げずに、山砂を2～5cmほど土器上を含む土坑全体に敷き、水をかけて数分間馴染ませた後、掘り上げた表土をかけて埋め戻している。

遺構以外の土層で、セクションで示したものは以下のとおりである。

土層解説

31 明褐色(7.5YR5/6)	ローム大ブロック多量、ローム粒子多量、締まり弱、粘性弱
37 褐色(7.5YR4/6)	ロームブロック。締まり弱、粘性中
38 褐色(7.5YR4/6)	ロームブロック。締まり弱、粘性中

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第5号土坑 (SK5, 第12図)

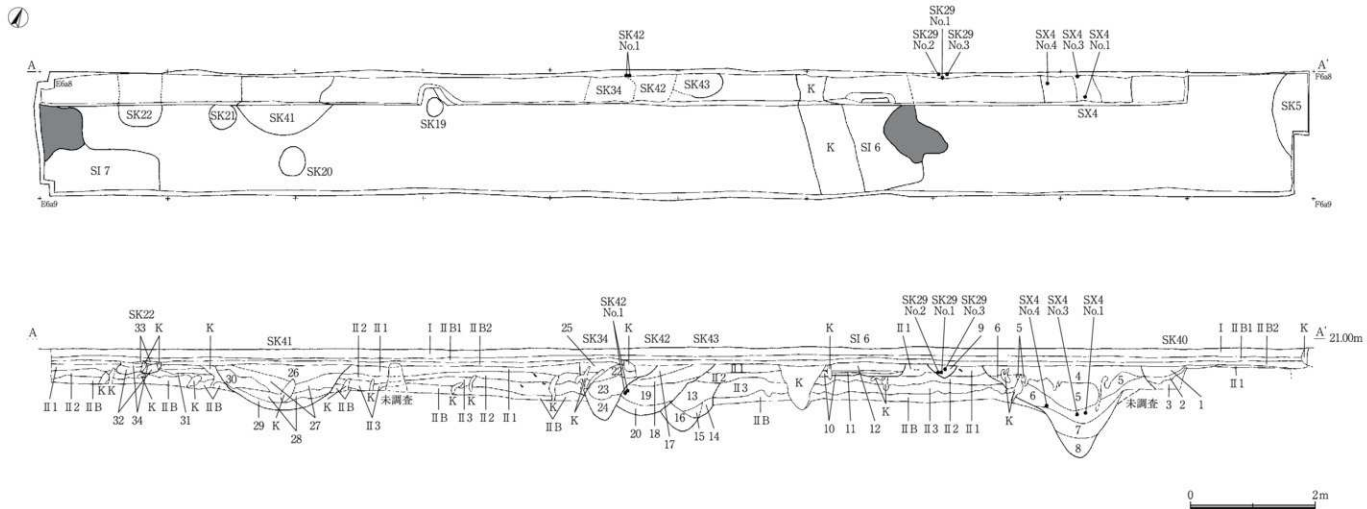
位置 E6js区に位置し、東部はF6a8区に延びている。本土坑の東部は平成18年調査時の第1トレンチで部分的に確認されていたものであり、西部がコンクリート畦畔ブロックを隔てて今回改めて確認された。第Ⅱ1層上面で確認でき、覆土は第Ⅱ1層よりわずかに黒味が強い。覆土は第Ⅱ1層と比べるとしまりが弱く、手触りでは比較的容易に判別できた。

規模と形状 平成18年調査分と合わせると径135cmのやや不整な円形となる。

遺物出土状況 確認面で土器3点を確認した。そのうち土器7及び土器8は平成18年の調査時に確認されていた個体である。土器9は今回新たに確認された。第5号土坑では平成18年確認のもの合わせて9点の土器が埋納されていたことになる。9点すべてが口縁を南東～南南東に向けた横位で確認されている。なお、土器7・8・9はいずれも取り上げていない。

土器7 平成18年に確認されていた壺形土器である。主軸の向きはN-133°-Eで、口縁部は南東を向く。今回確認された3点の土器では最も北側にあり、胴部の縄文や胴部上端の刺突文などの特徴が平成18年の調査報告書に記載された特徴と一致する。

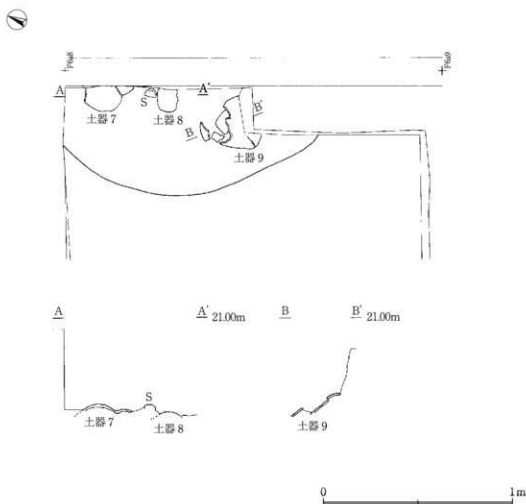
土器8 平成18年に確認されていた壺形土器である。主軸の向きはN-151°-Eで、口縁部は南南東を向く。土器7の南側、土器9の北側にある。割れているが完存している。胴部の縄文が平成18年の調査報告書記載と一致する。



第11図 第4トレンチ実測図

土器9 新たに確認された壺形土器であり、胴下部上面に割れがある。胴部には条線文が施文されている。主軸の向きはN-143°-Eで、口縁部はトレンチ外であるが南東を向くと考えられる。土器8の南側にある。

所見 平成18年調査で弥生時代中期の再葬墓とされていたものである。土器1点が新たに確認されたが、性格等の所見に変更はない。



第12図 第5号土坑実測図

第19号土坑 (SK19, 第11図)

位置 E6as区に位置し、第II層上面で確認できた。

規模と形状 長軸30cm, 短軸25cm, 長軸の方位N-22°-Wのやや不整な楕円形である。

遺物出土状況 遺構確認面には1点の土器が確認できた。この土器1は取り上げていない。

土器1 弥生中期の小形壺形土器であり、土器棺とみられる。底部を西南西、口縁部を東北東に向けて横位で確認された。体部の南半分は耕作による攪乱で失われている。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の土器棺墓と考えられる。

第20号土坑 (SK20, 第11図)

位置 E6bs区, E6cs区に位置し、第II層上面で確認できた。

規模と形状 長軸47cm, 短軸40cm, 長軸の方位N-63°-Wのやや不整な楕円形である。

遺物出土状況 遺構確認面には1点の土器が確認できた。この土器1は取り上げていない。

土器1 弥生中期の小形壺形土器であり, 土器棺とみられる。球形に近い胴部から頸部が立ち上がり, 口縁部は外反する。胴部は縄文が施文され, 頸部から口縁部は無文である。

底部を西南, 口縁部を北東に向けて横位で確認された。割れているがほぼ完存する。

所見 出土遺物から, 弥生時代中期の土器棺墓と考えられる。

第21号土坑 (SK21, 第11図)

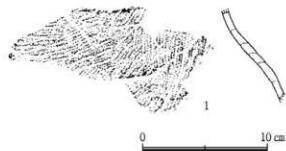
位置 E6b8区に位置し, 第II層上面で確認できた。

規模と形状 長軸47cm, 短軸40cm, 長軸の方位N-5°-Wのやや不整な楕円形である。

遺物出土状況 遺構確認面には1点の土器が確認できた。この土器は取り上げていないが, 遊離した一部破片を採取している。

土器1 弥生中期の小形壺形土器であり, 土器棺とみられる。耕作による攪乱のため, 体部の下部がわずかに残存するのみである。(第13図, 第7表)

所見 出土遺物から, 弥生時代中期の土器棺墓である。土器の出土状況から, 第19・20号土坑に比べて遺構底面がやや高いものと推測される。



第13図 第21号土坑出土遺物実測図

第7表 第21号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第13図 1	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内埴・内傾する胴部。徐々に外反して頸部に至る。外面左下がりの附加条縄文。内面ナデ。内面輪積み痕	石英・長石粒少量, 雲母微粒少量	普通, 焼けムラあり	浅黄色, 一部灰褐色	覆土中	8片	PL23中期

第34号土坑 (SK34, 第11図)

位置 E6e8区に位置し, 第III層上面及びサブトレンチ北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 セクションで確認できる上端の幅は120cm, 深さは90cmである。

重複関係 東側の第42号土坑を切っている。

土層 覆土は5層からなり, レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 21 褐色 (7.5YR 4/3) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 締まり中, 粘性弱
- 22 黒褐色 (7.5YR 2/2) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, 締まり強, 粘性弱
- 23 黒褐色 (7.5YR 3/2) ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 締まり中, 粘性弱
- 24 褐色 (7.5YR 4/3) ローム小ブロック多量, ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 締まり中, 粘性弱
- 25 黒褐色 (7.5YR 3/2) ローム粒子少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 土器43点、石器9点、骨片1点が出土している。うち、縄文土器1点（深鉢1）、弥生土器3点（壺3）を掲載する。いずれも小片であるうえ、この第34号土坑は第42号土坑を切っており、またその第42号土坑が第43号土坑を切っているという状況から、混入の可能性が考えられる。（第14図、第8表）

所見 出土遺物から弥生時代中期の所産と考えるが、性格は不明である。



第14図 第34号土坑出土遺物実測図

第8表 第34号土坑出土遺物観察表

神図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
14	1	弥生土器	頸部、5%以下	—	内傾する肩部から屈曲、内傾して直線的に立ち上がり、緩やかに屈曲して外に開く。外面縦位、内面横位のナデ	石英・チャート・メノウ・黒色砂粒中量	良好	にぶい褐色	覆土中	—	PL23
	2	弥生土器	胴部中位、5%以下	—	内傾、外傾。器壁は薄い。外面細かい委積文。内面ケズリ、砂粒の動き顕著	粗悪。石英・チャートは中粗粒多量、雲母細粒微量	良好	外面ににぶい黄褐色、内面明黄褐色	覆土中	—	PL23 5トレ中に同一個体複数。外面に炭化物付着
	3	弥生土器	胴部中位、5%以下	—	外傾して立ち上がる。附加糸縄文。内面ナデ	石英・チャート・メノウ・黒色砂粒中量、雲母細粒微量	良好	黒褐色	覆土中	—	PL23
	4	縄文土器	口縁部、5%以下	—	内傾。外面肥厚（複合口縁）。無文。肥厚部に縄糸文か（器表荒れで確認不可）	石英・チャート・黒色砂粒の細粒中量、雲母細粒微量	やや不良、焼けムラあり	サンドイッチ状。内外面ににぶい黄褐色、内部黄灰色	覆土中	—	PL23

第42号土坑（SK42、第11図）

位置 E6e8区に位置し、第Ⅲ層上面及びサブトレンチ北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 セクションで確認できる深さは76cmである。

重複関係 西側の第34号土坑に切られ、東側の第43号土坑を切っている。

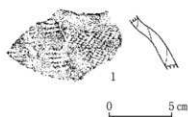
土層 覆土は4層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 17 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子中量、締まり中、粘性弱
- 18 黒褐色 (7.5YR2/2) ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱
- 19 紫褐色 (7.5YR2/3) ローム粒子少量、礫少量、締まり中、粘性中
- 20 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム小ブロック少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 弥生土器1点（壺1）が出土している。（第15図、第9表）

所見 出土遺物から弥生時代中期の所産と考えるが、性格は不明である。



第15図 第42号土坑出土遺物実測図

第9表 第42号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第15図 1	弥生土器	壺	肩部、5%以下	— —	内甕・内傾して立ち上がり、頸部に至る。外面縄文、内面粘土継積上げ痕	石英・チャート・メノウ、黒色砂粒中量	やや不良、黒斑あり	サンドイッチ状。内外面にぶい黄橙色。内部黄灰色・黒褐色	覆土中	2片	PL23 中期

(ii) 性格不明遺構

第4号性格不明遺構 (S X 4, 第11図)

位置 E 6 h 8区, E 6 i 8区に位置する。サブトレンチ内の第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。第Ⅱ2層上面では確認できなかった。

規模と形状 上端の幅160cm、深さ144cmの断面V字形の溝になると考えられたが、走向等の追跡調査を第2次調査に持ち越さざるを得ず、性格不明遺構の扱いのままにしてある。確認部分での走向はトレンチにほぼ直交してN—46°—Wであり、これは付近の等高線と平行になる。なお、掘り込みは下部で急斜面になって粘土層を抜きその下の礫層にまで達しており、底面の幅は約30cmである。

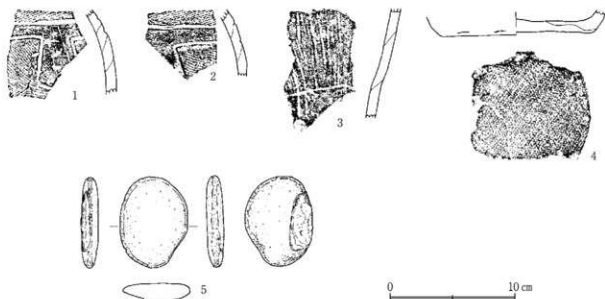
土層 覆土は5層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 4 暗褐色 (7.5YR 3/4) ローム粒子極少量。締まり強、粘性弱
- 5 褐色 (7.5YR 4/4) N t - S 少量。ローム粒子極少量。締まり強、粘性弱
- 6 黒褐色 (7.5YR 3/2) ローム粒子極少量。締まり中、粘性弱
- 7 黒褐色 (7.5YR 2/2) ローム粒子極少量。締まり中、粘性弱
- 8 黒色 (7.5YR 2/1) ローム粒子極少量。締まり中、粘性弱

遺物出土状況 土器124点、石器5点が出土している。うち、弥生土器4点(壺4)、石器1点(砥石1)を掲載する。1と2は同一個体の可能性のある中期前半の壺形土器である。4は中期後半の壺形土器底部であり、底面に布目痕・初圧痕1粒がある。(第16図, 第10表)

所見 最も新しい出土遺物が弥生時代中期後半のものであることから、弥生時代中期後半以前の所産と考えられ、再葬墓と同時期に所在していた可能性も否定できない。次回以降の調査により、溝かどうかを確認し、溝であればその走向及び性格等を明らかにする必要がある。



第16図 第4号性格不明遺構出土遺物実測図

第10表 第4号性格不明遺構出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
16図1	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内埴, 内傾。横走沈線と屈曲した沈線で区画し, 縄文を充填する。外面無文部・内面ナデ	石英・メノウ・灰色砂粒少量, 雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状, 内外面褐灰色, 内側にふい黄褐色	覆土中層	—	PL23 中期前半, 2と同一個体か
16図2	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内埴, 内傾。横走沈線と屈曲した沈線で区画し, 縄文を充填する。外面無文部・内面ナデ	石英・メノウ・灰色砂粒少量, 雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状, 内外面褐灰色, 内側にふい黄褐色	覆土最下層	—	PL23 中期前半, 2と同一個体か
16図3	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	外傾して直線的に立ち上がる。外面条痕文, 内面ナデ	長石・石英・チャート・メノウ・黄褐色砂粒少量, 雲母細粒微量	良好, 一部焼けムラあり	外面黄橙色, 内面褐灰色	覆土中層	2片	PL23 中期
16図4	弥生土器	壺	底部, 5%以下	— — [12.0]	平底。胴部は内埴気味に外傾して立ち上がる。底面布目痕, 初圧痕1粒。胴部内外面・底部内面ナデ	長石・石英・チャート・メノウ・黒色砂粒少量	良好, 一部焼けムラあり	にふい黄橙色, 一部褐灰色	E6h8, 覆土中層	2片	PL23 中期後半

挿図番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
16図5	敲石	7.1	5.3	1.2	(77.2)	粘板岩	楕円形の扁平な礫を利用。主に長径縁に敲打痕。一部に集中して使用した痕跡。裏面の剥離は使用に伴うもの可能性	覆土中	—	PL23 一部欠損

②平安時代

(i) 竪穴住居跡

第6号竪穴住居跡 (S I 6, 第11図)

位置 E 6 f 8区からE 6 h 8区に位置する。第II 1層上面及び北壁のセクションで確認できた規模と形状 北部がトレンチ外へ延び、西部が攪乱されているため、規模は不明である。主軸の方位がN—58°—Wの隅丸方形になると考えられる。壁高は20cmで、外傾して立ち上がる。

土層 覆土は1層からなり、堆積状況は不明である。11・12は硬化しており、床面と考えられる。

土層観察

- 10 暗褐色 (7.5Y R 3 / 3) ローム粒子少量、締まり強、粘性弱
- 11 暗褐色 (7.5Y R 3 / 4) ローム粒子少量、締まり強、粘性弱
- 12 暗褐色 (7.5Y R 3 / 4) ローム粒子少量、締まり強、粘性弱

床 平らに踏み固められていることがセクションで確認できる。

竈 東壁中央部の南寄りに砂質粘土で付設されている。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状から平安時代の住居跡と考えられる。

第7号竪穴住居跡 (S I 7, 第11図)

位置 E 6 a 8区に位置し、第II 1層上面で確認できた。

規模と形状 北部及び南部がトレンチ外へ延びており、隅丸の北東角がかるうじて確認できる。主軸の向きはN—14°—Wである。

床 確認していない。

竈 北壁中央部に付設されている。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状から平安時代の住居跡と考えられる。

(ii) 土坑

第29号土坑 (S K 29, 第11図)

位置 E 6 h 8区に位置し、北壁のセクションで確認できた。第II 1層上面では発見できなかった。

規模と形状 セクションで確認できる上端の幅は48cm、深さは20cmである。

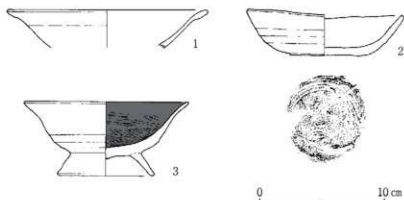
土層 覆土は1層からなり、堆積状況は不明である。

土層解説

- 9 暗褐色 (7.5Y R 3 / 4) ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱

遺物出土状況 土器13点が出土している。うち、土師器3点(高台付坏2、坏1)を掲載する。(第17図, 第11表)

所見 出土遺物から平安時代、10世紀代の所産と考えられる。



第17図 第29号土坑出土遺物実測図

第11表 第29号土坑出土遺物観察表

神岡 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第17図 1	土師器	高台付 台环	口縁～ 体部 10%	[16.0] 3.6 —	内壁・外傾して立ち上がり、 口縁近くで外反・強く外傾。 器厚薄く、口縁部でやや肥 厚。内外面ロクロナデ。外面 水挽き痕明瞭	精良。石英・ 褐色粒子・雲 母細粒微量	良好	にぶい黄橙 色	覆土中	—	PL23 器形の高 微から高 台付と推 定
2	土師器	环	口縁～ 底部 80%	12.5 3.6 6.5	平底から外傾して内彎気味 に立ち上がる。体部下位に稜 を持つ。底面回転系切り(調 整なし。回転台時計回り)。体 部内外面ロクロナデ	精良。石英・ 雲母細粒微量	良好	灰黄色～黄 灰色	覆土中	7片	PL23
3	土師器	高台付 台环	口縁～ 高台 70%	[13.0] 5.9 7.7	貼付高台、高くハの字状に張 る。体部は外傾し、下半で内 彎気味。上半近くで外反。外 面から高台ロクロナデ。上半 は器厚薄い。内面ミガキ、の ち黒色処理	精良。石英粒 子・雲母細粒 微量	やや不 良。ム ラあり	内面黒色。外 面ににぶい橙 色・明赤褐色	覆土中	2片	PL23

③中世

(i) 土坑

第22号土坑 (SK22, 第11図)

位置 E6a8区に位置し、第Ⅱ1層上面及びサブトレンチ北壁のセクションで確認できる。

規模と形状 北半分がトレンチ外に延びるため長軸の長さは不明、短軸68cm、長軸の方位N-22°-1Wの隅丸長方形である。

土層 覆土は3層からなり、人為堆積である。

土層解説

32 灰褐色 (7.5YR4/2) ローム粒子少量、締まり強、粘性弱

33 灰褐色 (7.5YR4/2) ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、締まり強、粘性弱

34 褐色 (7.5YR4/4) ローム粒子少量、締まり弱、粘性弱

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状及び覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

④時期不明

(i) 土坑

第40号土坑 (SK40, 第11回)

位置 E6is区, E6js区に位置する。第Ⅲ層上面及びサブトレンチ北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 第Ⅱ1層上面で確認できないうえ、大半が未調査であり、不明である。

土層 覆土は3層からなる。一方からの堆積が観察され、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 (7.5YR3/3) | ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱 |
| 2 褐色 (7.5YR4/4) | ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、締まり中、粘性弱 |
| 3 極暗褐色 (7.5YR2/3) | ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため、時期・性格は不明である。

第41号土坑 (SK41, 第11回)

位置 E6bs区, E6cs区に位置する。第Ⅱ1層上面及びサブトレンチ北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北半分がトレンチ外に延びるため長軸の長さは不明、短軸160cm、長軸の方位N-22°-Wの楕円形である。

土層 覆土は5層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 26 暗褐色 (7.5YR3/3) | ローム粒子少量、締まり中、粘性弱 |
| 27 褐色 (7.5YR4/3) | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性弱 |
| 28 褐色 (7.5YR4/6) | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、締まり弱、粘性弱 |
| 29 明褐色 (7.5YR5/6) | ローム大ブロック多量、ローム粒子多量、締まり弱、粘性弱 |
| 30 褐色 (7.5YR4/3) | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性弱 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため、時期・性格は不明である。

第43号土坑 (SK43, 第11回)

位置 E6es区, E6fs区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 セクションで確認できる深さは75cmである。

重複関係 西側の第42号土坑に切られている。

土層 覆土は4層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 13 褐色 (7.5YR4/3) | ローム粒子極少量、締まり中、粘性弱 |
| 14 褐色 (7.5YR4/6) | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性弱 |
| 15 褐色 (7.5YR4/3) | ローム粒子少量、締まり中、粘性弱 |
| 16 暗褐色 (7.5YR3/4) | ローム粒子少量、締まり中、粘性弱 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 他遺構との重複関係から弥生以前とは考えられるが、詳細は不明である。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第18～23図, 第12表)

遺物出土状況 土器1,438点, 石器433点, 骨片6点が出土している。うち, 縄文土器59点(深鉢28, 台付鉢3, 浅鉢14, 鉢5, 小形鉢2, 壺4, 小形深鉢1, 小形壺2), 弥生土器15点(壺14, 小形壺1), 土師器9点(坏1, 盤1, 甕6, ミニチュア土器1), 須恵器1点(甕1), 青磁1点(碗1), 土製品1点(管状土錘1), 石器・石製品26点(石剣1, 石棒4, 石錘1, 打製石斧1, 敲石4, 磨石5, 凹石2, 台石1, 砥石1, 剥片1, 搔器1, 石錐1, 石鏃3)を掲載した。晩期中葉～後葉の縄文土器を中心に石剣・石棒が出土するなど, さながら縄文晩期の遺跡の様相を呈している。特に晩期後葉の大洞A式の土器が出土している点が注目される。また再葬墓遺構に近いこともあり, 弥生土器も見られる。

(3) 所見

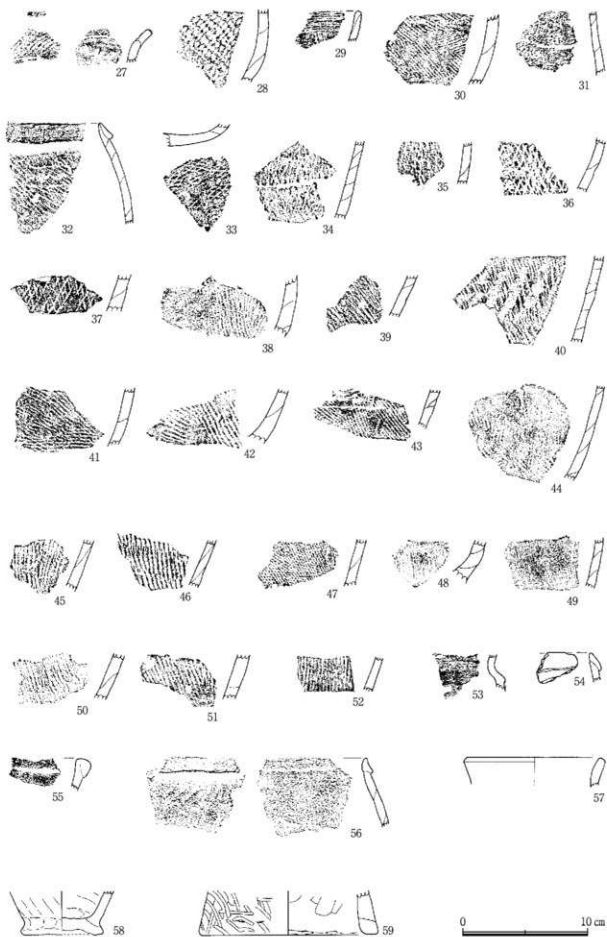
第5号土坑のような壺形土器が複数埋納されたタイプの再葬墓は, それ以西には分布していないことが確認され, 再葬墓分布の西限は掴むことができた。

しかし, 第4トレンチでは当初想定していなかった課題が2点発生した。1点目として, 第19・20・21号土坑の3基が確認された, 壺形土器が単数で埋納された土器棺墓の存在である。埋納された壺形土器は総じて小形で, 明らかに傾向の異なる埋葬遺構が確認されたことにより, その性格や分布状況をこれから把握していく必要があり, E6b8区からE6a8区付近の北側・南側の精査は今後の調査の重要ポイントとなった。2点目として, 第4号性格不明遺構の存在である。V字形溝になる可能性が高いが, 覆土から確認された遺物で最も時代の新しいもので弥生中期後半であり, 再葬墓と同時代に所在した可能性もある。その存在の意味するところは当遺跡の理解に大きく影響する可能性があり, 今後一層慎重に調査する必要がある。これら2点の課題については, 第1・8トレンチで確認されている再葬墓遺構群との関連性も含め, 次回以降の調査において最優先で調査する必要があるだろう。また第34・42号土坑といった弥生中期の土坑が確認されたうえ, 遺構外からも弥生の遺物が多く, 第4トレンチ付近は今後の調査で重要な位置を占めることとなった。

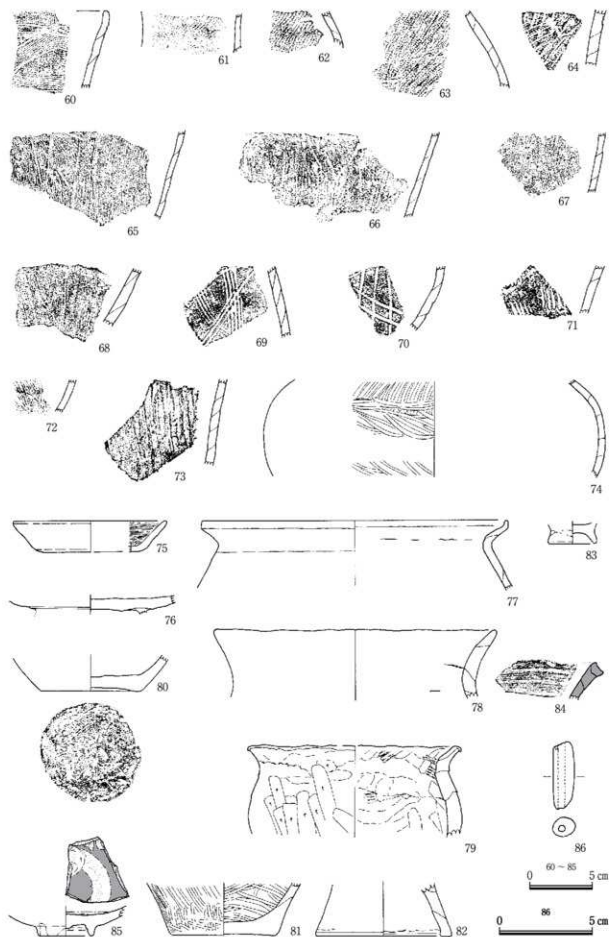
また, 今回調査した区域に共通して言えることだが, 縄文晩期の遺物が多く確認される点には注意すべきであろう。なお, 第4トレンチにおいても平安時代・中世の遺構が確認されている。



第18図 第4トレンチ出土遺物実測図(1)



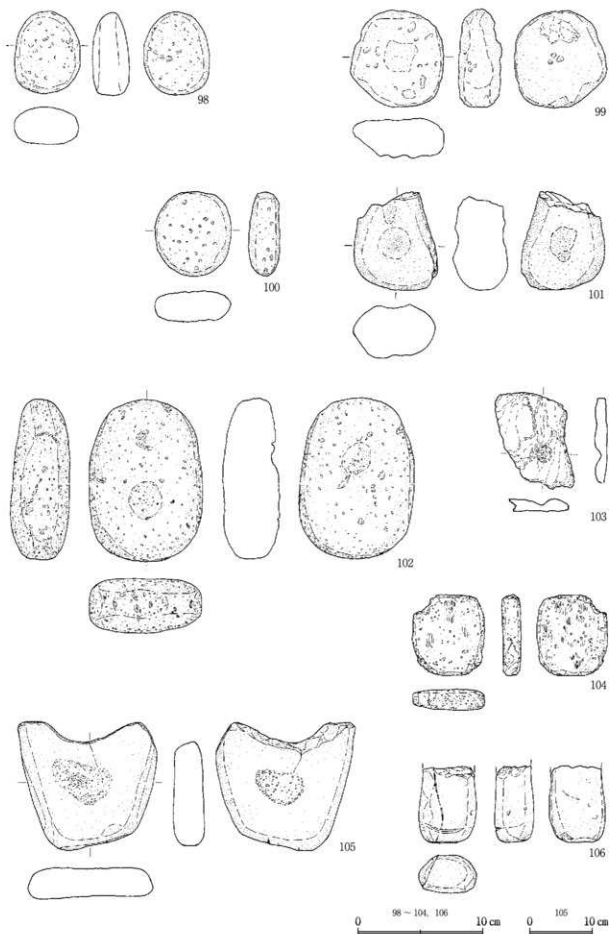
第19図 第4トレンチ出土遺物実測図(2)



第20図 第4トレンチ出土遺物実測図(3)



第21図 第4トレンチ出土遺物実測図(4)



第22図 第4トレンチ出土遺物実測図(5)



第23図 第4トレンチ出土遺物実測図(6)

第12表 第4トレンチ出土遺物観察表

検出番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
18図 1	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	波状口縁波頂部の裝飾。外傾。器本体の口縁部に三角形の突起を貼り付け、左右を沈線とヘラオサエ、中央に砥にキザミ。内面ナデ	石英中量、メノウ・黒色砂粒少量、褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面にふい橙色	3区、1B層	—	PL24堀之内式か
2	縄文土器	台鉢	口縁部・胴部20%	[320] (132)	内彎し大きく外傾する胴部から強く屈曲してわずかに内彎気味・外傾して口縁部に至る。端部は2~2.5cmごとに強いキザミ。外面口縁部から肩部まで縄文施文。沈線で区画し磨消縄文手法により中間に三叉文を作る。胴部外面ナデ。下縁はわずかに外反し、台に接合するものと思われる。内面ナデ	石英(礫)含有子長砂少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内面黒褐色	1B層	2片	PL24晩期中葉
3	縄文土器	浅鉢	胴部5%以下	—	内彎、外傾。外面磨消縄文手法による雲形文、内面ナデ	石英少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面・内面黒褐色。内面灰黄褐色	E668、II層	—	PL24大洞C1式
4	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	わずかに内彎・外傾。口縁端部に棒状工具による斜めのキザミ。口縁部下外面に輪積み痕。内外面ナデ	精良。石英粒・黒色砂粒少量。雲母細粒少量	良好	にふい橙色	E668、I B層	—	PL24
5	縄文土器	浅鉢	口縁部5%	—	内彎、外傾。口縁端部外側に部分的に粘土層貼付け。外面縄文を3条の横走沈線で区画。上段に刺突2か所。内面ナデ	精良。石英粒・黒色砂粒少量。雲母細粒微量	やや不良	にふい黄褐色	4区、I B層	—	PL24大洞C1式

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第18図 6	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部 5%	— —	内嚢・外傾。口縁端部に沈線。外面に沈線、B突起貼付。胴部に連続刺突文、磨消縄文。内面ミガキ	精良。石英粒・褐色砂粒少量、雲母細粒微量	やや良、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL24 大洞C2式
7	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部 5%以下	— —	内嚢・外傾。外面口縁部下の2条の隆起線の間に連続刺突文、その下に縄文を地文とする雲形文。内面は口縁部下に横走沈線1条、横位のナデ	石英・黒色砂粒・褐色砂粒少量、雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL24 大洞C2式
8	縄文土器	深鉢	胴部 5%以下	— —	内嚢・外傾。外面刺突文、横走沈線。斜位の条線文か(器壁荒れて不明)	石英少量、雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良	外面灰褐色。内面に灰褐色	4区、1B層	—	PL24 大洞C2式 内面炭化物付着
9	縄文土器	鉢	胴部(上半) 5%以下	— —	わずかに内嚢、大きく外傾。外面横走沈線2条、下位に縄文。内面ナデ	石英(礫含む)少量、灰色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色	排土中	—	PL24 内面炭化物(漆か)付着
10	縄文土器	浅鉢	胴～底部 10%	— —	丸底から連続し内嚢して立ち上がる。大きく外傾。外面雲形の磨消縄文、底部との間に沈線。底面ナデ。内面粗ミガキ	石英・黒色砂粒・灰色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	普通	内外面褐色	4区、1B層	—	PL24 大洞C2式
11	縄文土器	浅鉢	胴部 5%	— —	内嚢して大きく外傾。外面縄文に三叉文、内面ナデ	石英、黒色砂粒・褐色砂粒(シャモットか)少量	やや不良、器壁荒れ	黄褐色	3区、1B層	—	PL24 大洞C2式
12	縄文土器	浅鉢	胴部 5%	— —	わずかに内嚢気味で大きく外傾。外面磨消縄文、内面ナデ	石英・チャート・灰色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面に灰黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL24 大洞C2式
13	縄文土器	浅鉢	胴部 5%	— —	内嚢、大きく外傾。外面磨消縄文による雲形文、内面横位のナデ	石英・褐色砂粒少量、長石・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面に灰黄褐色。内部灰白色	E6d8、II層	—	PL24 大洞C2式
14	縄文土器	深鉢	胴部 5%以下	— —	直線の、外傾。外面横走沈線3条による区画の中を縄文で充填、内面ナデ。器厚薄い(4mm)	石英少量、黒雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色	E6d8、II層	—	PL24
15	縄文土器	小形鉢	口縁部 5%以下	— —	やや外反、外傾。口縁端部に突起、外面口唇部下に沈線2条、下位に縄文。内面口唇部下に細い沈線2条、ナデ	石英少量、灰色砂粒微量	普通	外面に灰黄褐色。内面黒色	E6b8、II層	—	PL24
16	縄文土器	壺	胴部 5%	— —	外反気味、内傾。外面頸部に連続刺突文、肩部に磨消縄文手法による雲形文、内面ナデ	石英中量、黒雲母細粒少量	普通	外面黒褐色。内面灰黄褐色	3区、1B層	—	PL24 大洞C2式
17	縄文土器	浅鉢	口縁部 10%	— —	内嚢。大きく外傾。端部にキザミ、端部内側に沈線、外面磨消縄文。内面ミガキ	石英少量、長石・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	E6e8、II層	—	PL24 大洞C2式
18	縄文土器	浅鉢か	胴部 5%以下	— —	わずかに内嚢、外傾。外面太い沈線により工字状文、内面ナデ	石英・褐色砂粒少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面に灰黄褐色。内部褐色	E6d8、II層	—	PL24 大洞C2式
19	縄文土器	浅鉢	胴部 5%	— —	わずかに内嚢、大きく外傾。外面長い眼鏡状工字文、内面ナデ	石英少量、黒雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面に灰黄褐色	排土中	—	PL24 大洞A式
20	縄文土器	鉢	口縁～頸部 5%以下	[12.4] — —	精緻。頸部で強く屈曲し外反、外傾する波状口縁。波頂部外面に粘土層で眼鏡状文を作り、波の腰部に小さな突起。頸部に細い沈線1条、内面には波頂に沿って沈線。内外面ミガキ	石英少量、黒色砂粒・灰色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。黒色処理。内部褐色	4区、1B層	—	PL24 大洞C2式 またはA式か

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第18図											
21	縄文土器	小形深鉢	口縁部5%以下	—	内彎気味、外傾。波状口縁の波頂部。外面は波頂部から左下に降りる沈線と細い棒状工具による刺突。内面ナデ	石英少量、褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	にぶい黄褐色	E6d8, II層	—	PL24
22	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	外傾する口唇部外面に隆帯を貼付け、一部を山形にし、左右に沈線施文(長い眼輪状文)。その下位の沈線に細いきザミ。内面に横走沈線1条、他はナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	4区, I層	—	PL24 大洞A式か
23	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	口縁端部に突起を付け先端が尖る工具で刺突。突起両側の口縁端部に沈線1条。外面口縁突起下に沈線(有突起)	石英少量、チャート・灰色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい橙色。内部褐色	E6b8, II層	—	PL24
24	縄文土器	浅鉢か	口縁部5%以下	—	内彎気味で外傾する口縁部。器壁は薄い。口縁端部下と頸部外面にそれぞれ横走沈線2条。口縁端部下内面に細い横走沈線1条。外面ミガキ。内面ナデ。沈線に赤彩	精良。石英細粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面にぶい黄褐色	E6d9, II層	—	PL24 大洞A式か
25	縄文土器	小形壺	口縁部30%	—	精製。内彎する胴部から唇部して外傾する口縁部。口唇部内面を肥厚させ横走沈線1条。口唇部外面に工字文(σ字)。胴部上端を肥厚させ沈線2条。その下に横文。強く内彎する胴部から唇部して外反する頸部。頸部ミガキ。肩部を盛り上げ。横走沈線2条。胴部横文。肩部の沈線は横文を著明して並文。内面丁寧なミガキ。最大径15cm(胴部)	石英少量、黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	II層	3片	PL24 大洞A式。25と同一個体
26	縄文土器	浅鉢	口縁部5%	—	精製。薄手。わずかに内彎気味で外傾。口縁端部内側に沈線。外面工字文(σ字)。内面ミガキ。口縁部内外面に赤色顔料の痕跡	石英少量、金・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内部褐色	3区, I層	—	PL24 大洞A式。25と同一個体
第19図											
27	縄文土器	小形鉢	口縁部5%以下	—	外反・外傾。波状口縁。肩部にキザミ。口縁部外面に細い文。肩部に横走沈線。口縁部内面に細い横走沈線。内面ナデ	石英・メノウ・灰白色砂粒少量。雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内面にぶい黄褐色。内部褐色	1区, I層	—	PL25
28	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内彎。外傾。外面横文。内面横位のナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	E6b8, II層	—	PL25 後・晩期粗製土器
29	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	内彎気味。外傾。外面横位の条線文。その下部に縦位の条線文	石英少量、黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内面にぶい橙色。内部褐色	E6d9, II層	—	PL25 晩期。粗製土器
30	縄文土器	壺	胴部5%以下	—	内彎。外傾。外面横文。内面ナデ	石英少量、チャート・雲母細粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面褐色	E6b8, II層	—	PL25
31	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	やや外反気味。内傾。外面縦位の条線文(直線、波状)。内面斜位のナデ	粗悪。石英・黒色礫中量。褐色礫少量	やや不良	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内部褐色	E6a8, I層	2片	PL25 後・晩期粗製土器
32	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	内彎。内傾。複合口縁。口縁部外面ナデ。胴部横糸文。輪積み痕。口縁部内面ミガキ。胴部ナデ	石英・チャート・黒色礫少量。雲母細粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面黒褐色	E6a8, I層	2片	PL25 後・晩期粗製土器
33	縄文土器	浅鉢	胴部5%	—	丸底から連続し内彎しながら大きく外傾して立ち上がる。底部を含め外面朝日状横糸文。内面ヘラナデ	石英・チャート・黒色砂粒少量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面褐色	3区, I層	—	PL25 後・晩期粗製土器。胴部外面に灰化物付着

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第19図											
34	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	粗製。内埴。外傾。外面網目状燃糸文。内面横位のナデ	石英中量、黒色砂粒少量	良好	外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色	4区、I層	2片	PL25後・晩期粗製土器。胴部に炭化物付着
35	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	わずか内埴。外傾。外面網目状燃糸文。内面ナデ	石英少量、褐色砂粒・金雲母細粒微量	普通	外面にぶい黄褐色。内面褐色	E6d8、II層	—	PL25後・晩期粗製土器
36	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	内埴。外傾。外面網目状燃糸文。内面丁寧なミガキ。内外面一部輪積み痕	石英少量、長砂石・黒色礫少量、褐色礫微量	良好、焼けムラ	ぶい黄褐色	E6b8、II層	—	PL25後・晩期粗製土器
37	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	外傾。外面網目状燃糸文。内面ナデ	石英・メノウ・灰色砂粒少量、雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	4区、I層	—	PL25後・晩期粗製土器
38	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	内埴・外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英・チャート・黒色礫少量、雲母細粒微量	良好	ぶい黄褐色	I層	—	PL25後・晩期粗製土器
39	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	内埴気味。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英・黒色礫・灰色礫少量、雲母細粒・褐色礫微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面にぶい褐色。内部明褐色	3区、I層	—	PL25後・晩期粗製土器
40	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	粗製土器。外傾。外面燃糸文。輪積み痕、斜位の押捺痕。内面横位・斜位の丁寧なナデ	石英・礫少量、雲母細粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色	4区、I層	—	PL25後・晩期粗製土器
41	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	内埴。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、雲母細粒微量	普通	内外面褐色	4区、I層	—	PL25後・晩期粗製土器。胴部外面に炭化物付着
42	縄文土器	深鉢	胴部下5%以下	— — —	内埴。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	良好。石英・黒色細粒少量	良好、堅緻	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色	3区、I層	—	PL25後・晩期粗製土器
43	縄文土器	壺	胴部5%以下	— — —	わずか内埴。外傾。外面燃糸文。内面横方向のナデ。外面に輪積み痕と粘土継ぎ目	石英少量、黒色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面褐色	E6b8、II層	—	PL25後・晩期粗製土器
44	縄文土器	深鉢	胴部下5%以下	— — —	内埴。外傾。外面条線文。内面斜位・縦位のナデ	石英・チャート・礫少量、雲母細粒微量	普通二次焼成	サンドイッチ状。外面黄褐色。内面褐色。内部褐色	排土中	—	PL25後・晩期粗製土器
45	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	やや内埴。外傾。外面燃糸文。内面斜位のナデ	石英少量、砂岩礫・雲母細粒微量	普通	外面・内部褐色。内面にぶい黄褐色	排土中	—	PL25後・晩期粗製土器
46	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	外傾。外面燃糸文。内面丁寧なナデ	石英少量、メノウ・チャート微量	良好	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	4区、I層	—	PL25後・晩期粗製土器
47	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	— — —	直線的。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英少量、雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面褐色。内部褐色	E6j8、II層	—	PL25後・晩期粗製土器
48	縄文土器	台鉢	胴部下5%以下	— — —	内埴。外傾。外面下端は外反。外面燃糸文。内面ナデ	石英・チャート・礫少量、灰色礫・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰黄褐色・黒褐色。内面にぶい黄褐色。内部黒色	E6f8、II層	—	PL25後・晩期粗製土器

採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
19	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内湾・外傾。外面細かい燃糸文、内面ナデ。指頭圧痕	石英・チャート少量、雲母細粒微量	普通	にぶい黄褐色	E6b8, II層	—	PL25後・晩期粗製土器
50	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	直線的・外傾。外面燃糸文、内面斜位のナデ	石英少量、チャート・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面内面にぶい黄褐色、内部褐灰色	E6a8, II層	—	PL25後・晩期粗製土器
51	縄文土器	深鉢	胴部下5%以下	—	内湾・外傾。器壁は厚い。右下がりの燃糸文、内面ナデ	石英(確含む)少量、長石・メノウ・黒色砂粒微量	二次焼成あり	外面にぶい黄色、内面灰黄褐色	E6d9, II層	—	PL25後・晩期粗製土器
52	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	直線的・外傾。外面燃糸文、内面ナデ。輪積み痕で潤滑	石英粒・黒色砂粒少量、金雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色、内面灰白色	E6d9, II層	—	PL25後・晩期粗製土器
53	縄文土器	壺	頸部5%以下	—	内傾する胴部から強く屈曲し外反して立ち上がる。外面角形の棒状工具による刺突文、内面ナデ	やや粗。石英中量、砂岩礫少量、雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色、内部褐灰色	4区, IB層	—	PL25後・晩期粗製土器
54	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	わずかに内傾。複合口縁。無文	石英少量、褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面褐灰色、内面にぶい黄褐色	E6b8, II層	—	PL25後・晩期粗製土器
55	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	肥厚する波状口縁。端部下に沈線1条、内面ナデ	石英少量、長石・雲母細粒微量	良好	外面灰黄褐色、内面黒褐色	4区, IB層	—	PL25後・晩期粗製土器
56	縄文土器	深鉢	口縁～胴部5%以下	—	内湾・内傾。口縁部でやや外反。複合口縁。口縁部内外面横位のナデ。胴部内外面斜位のナデ。口縁部内面輪積み痕	石英・黒色砂粒・灰色砂粒・褐色砂粒少量	良好	外面にぶい褐色、内面にぶい黄褐色	4区, IB層	—	PL25後・晩期粗製土器
57	縄文土器	小形壺	口縁部5%以下	—	外反気味、外傾。内外面ナデ	石英少量、灰色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色	3区, IB層	—	PL25後・晩期粗製土器
58	縄文土器	深鉢	胴～底部5%以下	—	平底の周縁部に粘土継積上げ。底部外縁がすばまった後、胴部が外傾して直線的に立ち上がる。内外面ナデ	石英少量、チャート・メノウ・泥岩礫微量	やや不良	外面灰褐色、	3区, IB層	—	PL25
59	縄文土器	台鉢	胴台部5%	—	直線的・内傾。器厚厚い(14.7mm)。底面平坦。外面ヘラケズリもちろむいへらミガキ。内面ヘラケズリもちろむナデ	石英少量、長石・灰色砂粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面黒褐色、内面にぶい黄褐色、内部褐灰色	4区, IB層	—	PL25
20	弥生土器	壺	口縁～胴部5%以下	—	14.2 精製。外傾して直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに内湾。器厚薄い。口縁部外面に縦位の擬縄文の文様帯。胴部に擬縄文を地文に磨消縄文手法による三角文。擬縄文施文部に赤色顔料	石英・黒色砂粒少量、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面褐灰色、内面にぶい褐色	II層	2片	PL26中期後半。一部外面に灰化付着
61	弥生土器	壺	頸部	—	わずかに外反、ほぼ直立。外面附加条縄文、中間に無文帯。内面横位のナデ。輪積み痕	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面灰黄褐色、内面黒褐色	E6d8, II層	2片	PL26中期
62	弥生土器	壺	頸部5%以下	—	内湾気味から上部で外反気味。内傾。外面附加条縄文、内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面黒色	E6d8, II層	—	PL26中期
63	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	内湾・外傾。外面附加条縄文、内面ナデ・輪積み痕	石英・チャート・黒色礫少量、雲母細粒微量	良好	にぶい橙	E6b8, II層	—	PL26中期

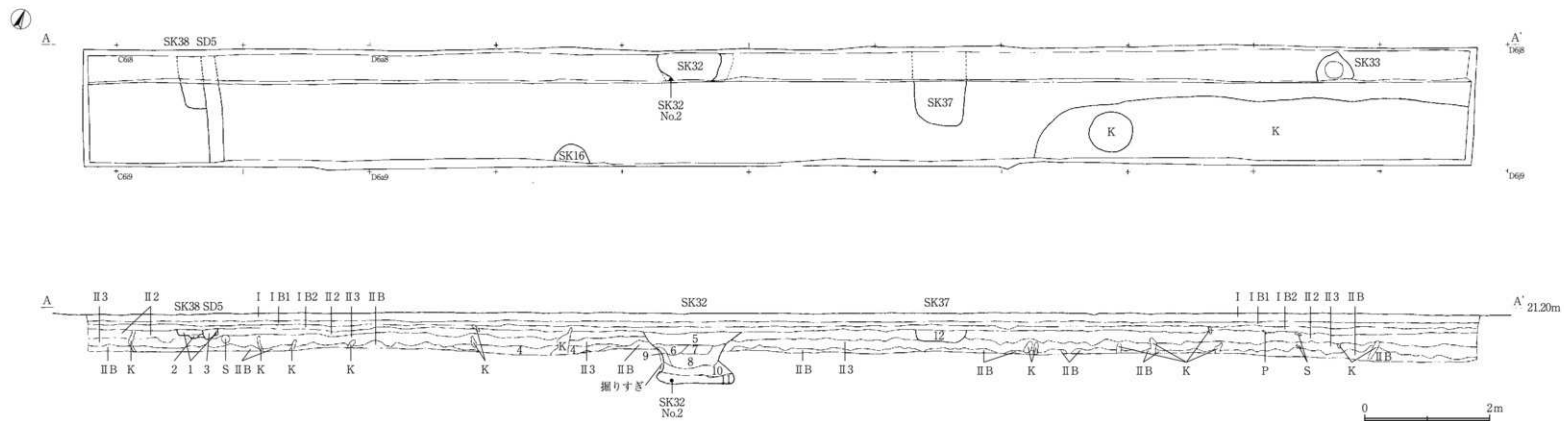
採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第20図											
64	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	わずかに外反・外傾。外面附加条痕文、内面ナデ	石英・黒色砂粒少量・雲母細粒微量	良好	外面にぶい褐色、内面褐色	4区、I層	—	PL26中期。内面に割れ口・内面側に炭化物付着
65	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面条痕文、内面斜位(右下→左上)の粗いケズリ。器厚薄い(3.5~5.5mm)	石英・凝灰岩塵少量、黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	外面にぶい黄褐色・黒褐色、内面にぶい褐色	E6e8、II層	2片	PL26中期。66・67と同一個体か
66	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	直線的。外傾。外面条痕文、内面斜位(右下→左上)の粗いケズリ。器厚薄い(4.7~6.7mm)	石英・凝灰岩塵少量、黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ、次焼成	外面にぶい黄褐色、内面黒褐色、内部黒褐色	E6d8、II層	2片	PL26中期。65・67と同一個体か。内面に炭化物付着
67	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面条痕文、内面斜位(右下→左上)の粗いケズリ。器厚薄い	石英(礫を含む)・長石・凝灰岩塵少量、雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面灰黄褐色、内面にぶい褐色	E6d8、II層	—	PL26中期。65・66と同一個体か
68	弥生土器	壺か	胴部5%以下	—	内彎気味、外傾。外面縦位の細かい条痕文、内面ナデ	石英・金雲母細粒微量	良好	外面にぶい褐色、内面褐色	E6d9、II層	—	PL26中期
69	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	わずかに内彎、内傾。外面ナデのち交差する粗い条痕文(単位5本)、内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好、堅緻	サンドイッチ状。外面暗赤褐色、内面明赤褐色、内部褐色	E6i8、II層	—	PL26中期
70	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	内彎、外傾。外面交差する粗い条痕文、内面ナデ	石英少量、チャート・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部褐色	E6g8、II層	—	PL26中期
71	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	わずかに外反・外傾。外面短条痕文、条痕の単位は5本、内面横位のナデ	石英少量、チャート・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部褐色	E6g8、II層	—	PL26中期
72	弥生土器	小形壺	胴部5%	—	内彎、外傾。器壁薄い。外面条痕文、内面ナデ	石英少量、メノウ・金雲母微量	良好	外面黒色、内面にぶい褐色	4区、I層	—	PL26中期
73	弥生土器	壺	胴部下半、5%以下	—	わずかに外反・外傾。外面ケズリ、内面斜位のへらナデ	石英・凝灰岩塵少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面褐色	E6e8、II層	—	PL26中期
74	弥生土器	壺か	胴部10%	—	やや扁平な球形。最大径[27cm(胴部)]。外面ナデ、一部ミガキ。内面ナデ	石英少量、灰色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面褐色、内面灰黄褐色	E6i8、II層	2片	PL26中期
75	土師器	環	口縁~底部10%	[11.0] 2.5 [8.0]	平底から外傾して立ち上がる。やや外反。外面ろくろナデ、内面丁寧なミガキ	精良。石英・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	にぶい黄褐色	3区、I層	—	PL26
76	土師器	盤	底部20%	—	底部回転へら切りの平らな底部に高台貼り付け。高台内径7.0cm。内面ミガキ	石英少量、赤褐色塵・凝灰岩塵・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部灰黄褐色	3区、I層	—	PL26
77	土師器	甕	口縁~底部5%以下	[24.0]	内彎・内傾する体部から外反・外傾する口縁部。端部はつまみ上げ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ	石英(礫含む)少量、チャート・長石・灰褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色、内面灰褐色、内部褐色	E6i8、II層	—	PL26

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第20図	78	土師器	白付 甕	口縁部5%以下	[22.4]	外反・外傾する直口縁。内外面傾位のナデ後、肩部付近外面傾位のミガキ気味のナデ	石英・チャート(礫含む)・灰色砂粒少量、黒色砂粒、雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部黒褐色	1B層	—	PL26 82と同一個体か
	79	土師器	甕	口縁部5%	[17.0]	内壁・内傾する体部から屈曲して外反・外傾する口縁部。粗製。内外面ハケ調整、のちナデ。外面ヘラケズリ。内外面に輪楕み	石英・チャート礫少量、雲母細粒微量	良好	にぶい黄褐色	3区、1B層	—	PL26
	80	土師器	甕	体部底5%	— 7.8	平底から体部が内湾しながら外傾して立ち上がる。体部内外面ナデ(外面斜位、内面傾位)。底部外面木葉痕。内面楕状のナデ	石英中量、チャート(礫含む)・メノウ、長石・灰色砂粒、雲母細粒微量	良好、焼けムラ	橙色、一部黒色	3区、1B層	—	PL26
	81	土師器	甕	体部底5%	— 8.4	平底から体部がやや外反気味に外傾して立ち上がる。体部底外部面ミガキ気味のヘラナデ。内面ヘラナデ(一部ミガキ)	石英少量、灰色砂粒、海綿管針微量	普通、焼けムラ	にぶい黄褐色、灰褐色	S K19 東側、II層	2片	PL26
	82	土師器	白付 甕	脚部5%以下	—	内傾して直線的に立ち上がる。全面ナデ	石英・メノウ・チャート礫、灰色礫少量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部黒褐色	E6a8、1B層	—	PL26 78と同一個体か
	83	土師器	ミニア 土器	底脚部25%	— (1.8) [3.9]	内傾する脚部から外反して体部へ移行。手づくね。全面ナデ。外面・体部内面に赤色顔料(泥漿塗布か)	石英少量、長石・雲母細粒微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、一部黒褐色、内部褐灰色	5区、1層	—	PL26 器形不明、赤色顔料から碗と推定
	84	須恵器	甕	口縁部5%以下	—	外反、大きく外傾。端部ヘラナデ。内外面ヨコナデ	石英少量、メノウ・褐色砂粒、雲母細粒微量	土師器良好	外面にぶい黄褐色、内面黒褐色	3区、1B層	—	PL26
	85	青白磁	碗 (皿)	体部底10%	— [4.4]	内湾・外傾して立ち上がる体部に削り出し高台。内外面釉施。見込み蛇目軸割き。高台内施釉後ロクろケズリ。重ね焼き。砂目	磁器胎土	良好	釉：明緑灰色、胎土：灰白色	3区、1B層	—	PL26 器形不明、赤色顔料から碗と推定

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第20図	86	管状土鉢	(3.5)	1.1	0.3	(3.4)	全体に細身。長軸方向のナデ	石英少量、褐色砂粒微量	やや不良、焼けムラ	にぶい黄褐色、褐色、灰褐色	E6g8、II層	—	PL26 一部欠損

挿図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第21図	87	石剣	(4.4)	(2.0)	(0.6)	(3.8)	粘板岩 表面研磨痕	4区、1B層	—	PL27 破片
	88	石棒	(5.6)	(3.4)	(0.7)	(18.7)	粘板岩 復元径4cm前後。表面敲打痕。一部にぶい赤褐色部分は板状痕か	4区、1B層	—	PL27 破片
	89	石棒	(7.2)	(3.1)	(0.9)	(24.6)	粘板岩 復元径3.4cm前後。表面敲打痕	4区、1B層	—	PL27 破片
	90	石棒	(11.2)	(3.6)	(1.2)	(58.8)	粘板岩 復元径4.5cm前後。表面敲打痕	4区、1B層	—	PL27 破片
	91	石棒	(13.2)	(4.0)	(1.2)	(54.8)	粘板岩 復元径[5.0]cm。表面敲打痕	4区、1B層	2片	PL27 破片
	92	石錘	5.0	3.2	(0.6)	(14.7)	粘板岩 扁平な楕円礫を利用。有溝	4区、1層	—	PL27 一部欠損
	93	打製石斧	(4.4)	4.7	1.3	(34.1)	粘板岩 短冊状の石斧の刃部。片刃。一部に使用痕	4区、1B層	—	PL27 破片
	94	敲石	9.7	2.7	2.9	87.8	砂岩 断面三角形の棒状礫を利用。両端付近に敲打痕	2区、1B層	—	PL27 完存
	95	敲石	7.4	3.4	2.6	93.5	砂岩 断面三角形の細長い礫を利用。両端部に敲打痕	3区、1B層	—	PL27 完存
	96	敲石	4.3	4.1	4.1	100.4	花崗岩 ほぼ球形の礫を利用。長軸両端に敲打痕	1区、1B層	—	PL27 完存

棟号 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第21回 97	敲石	7.8	6.4	4.1	290.1	玢岩	不整半円形状のやや扁平な礫を利用。端面と側面の一部に敲打痕	3区、 I層	—	PL27 完存
第22回 98	磨石	6.7	5.3	3.1	153.3	多孔質 安山岩	扁平で不整楕円形の礫利用。磨面は6面。1面は敲石としての使用か	E6a8、 I層	—	PL27 完存
99	磨石 (凹石)	7.7	7.4	3.5	237.7	多孔質 安山岩	扁平で不整長方形の礫利用。磨面は4面。1面に凹石としての使用痕あり	1区、 I層	—	PL27 完存
100	磨石	6.3	6.0	2.4	126.0	多孔質 安山岩	楕円形の扁平な礫を利用。全面を使用	4区、 I層	—	PL27 完存
101	凹石	(7.7)	6.6	4.4	(278.5)	砂岩	太い棒状の礫を使用。表裏にくぼみ3か所。折損面にかかる浅いくぼみは折損前、かからなくぼみは折損後のものか。端面は平滑であるが自然面	4区、 I層	—	PL27 一部欠損
102	磨石 (凹石)	12.7	8.9	4.5	730.0	多孔質 安山岩	楕円形の扁平な礫を利用。全面を使用。表裏面に凹石としての使用痕	SK19 北側、 II層	—	PL27 完存
103	凹石	9.2	5.6	1.6	75.3	滑石	不整形の薄い滑石塊を利用。一面に径1.3cm、深さ0.5cmの凹み。緑灰色	3区、 I層	—	PL28 完存か
104	磨石	6.4	5.7	1.9	(89.0)	多孔質 安山岩	長方形の扁平礫を利用(整形して利用か)。表裏面に使用痕	2区、 I層	—	PL28 一部欠損
105	台石	20.4	21.9	4.9	257.0	砂岩	扁平で不整台形の大型礫利用。両面に敲打痕	E6a8 I層	—	PL28 完存
106	砥石	(6.1)	4.6	3.1	(107.0)	凝灰岩	手持ち用砥石。断面不整楕円形の棒状礫の一端を使用。稜は石質の差による。溝は後世の傷か	4区、 I層	—	PL28 一部欠損
第23回 107	使用痕 のある 剥片	5.6	2.8	1.6	18.1	珪質頁岩	打点から斜めに延びる不定型剥片を利用。先端は折断。表面は横からの大きな剥離を入れるが自然面を残す。裏面右側中央部に使用痕とみられる小剥離が連続	4区、 I層	—	PL28 完存、 縄文
108	掻器	6.6	4.4	1.4	34.2	珪質頁岩	自然面を多く残す横長の不定型剥片を一部折断して利用。一端に連続剥離をして刃部形成。鋼線に見られる細かい剥離は使用痕か	4区、 I層	—	PL28 完存、 縄文
109	石錐	(2.3)	(0.8)	0.6	(1.2)	石英	現存中央部がわずかに膨らむ。軸がわずかにS字状に屈曲。全面調整。鋼線の剥離は交互剥離	4区、 I層	—	PL28 両端折損
110	石鎌か	(4.9)	0.9	0.6	(2.0)	チャート	身幅が狭いが石錐よりは広いため鎌で、調整が丁寧で尖る方を鎌身と見た。有茎。一部自然面を残す。刃部交互剥離	E6a8、 I層	—	PL28 基先端折損
111	石鎌 未成品	3.3	1.7	0.8	3.3	珪質頁岩	自然面を一部残す横長剥片を利用。縦長で使用し表裏とも左側面に剥離痕(右側縁に剥離の作業)	E6e8、 II層	—	PL28 完存
112	石鎌	(2.0)	1.2	0.5	(1.0)	石英	有茎。全面調整。刃部交互剥離	E6f8、 II層	—	PL28 先端と茎折損



第24図 第5トレンチ実測図

4 第5トレンチ (第24図)

(1) 調査概要

C6h8区からD6i8区, C6h9区からD6i9区にまたがる、長さ24m、幅2mのトレンチを設定した。第4トレンチの西側に設定しており、泉坂下遺跡の所在する低位段丘上の遺構の広がりを掴むことを主目的としたトレンチである。なお、第4・5トレンチ付近は、低位段丘の緩やかな尾根にあたる位置である。

平面での遺構の確認は、第Ⅱ2層上面を精査して行なった。また北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

遺構以外の土層で、セクションで示したものは以下のとおりである。

土層解説

- 4 黒褐色 (25Y3/1) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり弱, 粘性強。遺構覆土ではなく、ロームのわずかな凹みに自然堆積してきた層である

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

① 縄文時代

(i) 土坑

第32号土坑 (SK32, 第25図)

位置 D6c8区に位置し、第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できる。

規模と形状 開口部の径が85cm、底面の径が120cm、確認面からの深さが89cmの袋状土坑である。底面はほぼ平坦である。

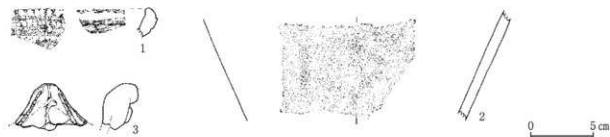
土層 覆土は7層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 5 黒褐色 (10YR3/1) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
6 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒子中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
7 暗褐色 (10YR3/3) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
8 黒褐色 (10YR2/2) ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強
9 暗オリーブ褐色 (25Y3/3) Nt-S多量, ローム粒子中量, Nt-I極少量, 締まり中, 粘性弱
10 黒褐色 (25Y3/1) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強
11 黒色 (25Y2/1) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 礫・土器片少量, 締まり中, 粘性強

遺物出土状況 土器13点, 石器7点が出土している。うち、縄文土器3点(深鉢2, 浅鉢1)を掲載する。(第25図, 第13表)

所見 出土遺物から、縄文時代中期の袋状土坑と考えられる。



第25図 第32号土坑出土遺物実測図

第13表 第32号土坑出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状 況	接合 状況	備考
第25図 1	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	内彎気味、外傾。端部に棒状 工具によるキザミ。口縁部外 面に細組の押引文2条。内面 ナデ	砂質。石英・ 長石・チャ ート・メノウ中 量。褐色砂粒 少量	良好	外面極暗赤 褐色。内面灰 褐色。内部赤 褐色	覆土中	—	PL29 五領ヶ台 式。2と同 一個体か
2	縄文 土器	深鉢	胴部下 部、 5%	— — —	直線的、外傾。現存部分で径 17～24cm前後。無文。外 面縦位のナデ。内面上部は縦 位。下部は横位のナデ。外面 器表荒れ	砂質。石英・ 長石・チャ ート・メノウ 中量。褐色砂 粒。黒色砂粒 少量	普通、 下部二 次焼成	外面にふい 赤褐色。内面 暗赤褐色	覆土下 層	—	PL29 五領ヶ台 式。1と同 一個体か
3	縄文 土器	深鉢	口縁部 突起、 5%以下	— — —	外傾する山形突起。波頂部外 面に粘土紐を縦位に貼り付 け、それに重ねて横位に2段 の粘土紐貼り付け。山形にそ って頂部を除く両側に各1 条の押引文。内面ナデ	石英・メノ ウ・金雲母粒 中量	良好	内外面にふ い橙褐色	覆土中	—	PL29 阿玉台式

②中世

(i) 土坑

第37号土坑 (SK37, 第24図)

位置 D6es区, D6eg区に位置する。第Ⅱ2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 北部がトレンチ外に延びているため長軸の長さは不明だが、短軸は77cm、長軸の方
位N—22°—Wの不整な隅丸長方形である。確認面からの深さは18cmで底面は平坦である。

土層 覆土は1層からなり、ロームブロックが多く混入する状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 12 褐灰色 (10YR4/1) ローム粒子中量、暗黄灰色粘土大ブロック中量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少
量、締まり強、粘性中、全体に粘土質

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状や覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

第38号土坑 (SK38, 第24図)

位置 C6is区に位置し、第Ⅱ2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

重複関係 東側を第5号溝に切られる。

規模と形状 北部がトレンチ外に延び、東部が切られるため規模は不明、長軸N—30°—Wの隅
丸長方形と考えられる。

土層 覆土は2層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 (10YR2/2) ローム粒子少量、Nt-S極少量、小礫極少量、締まり強、粘性中、やや粘土質
2 黒褐色 (10YR3/1) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中、やや粘土質

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状から中世の墓塚と考えられる。

③時期不明

(i) 土坑

第16号土坑 (SK16, 第24図)

位置 D6b9区に位置し、第Ⅱ層上面で確認できた。

規模と形状 南部がトレンチ外に延びているが、径が55cmのはほぼ円形であると考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 柱穴の可能性も考えられるが、性格・時期等は不明である。

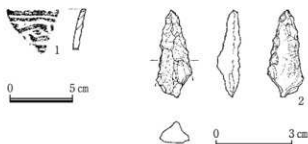
第33号土坑 (SK33, 第24図)

位置 D6h8区に位置し、第Ⅲ層上面で確認できた。第Ⅱ層上面では確認できなかった。

規模と形状 開口部の径が60cm、底面の径が28cmで、平面形はほぼ円形である。

遺物出土状況 土器2点、石器2点が出土している。うち、縄文土器1点(小形深鉢1)、石器1点(石鏃1)を掲載する。1は流れ込みの可能性が高く、時期決定には至らない。(第26図, 第14表)

所見 柱穴の可能性も考えられるが、性格・時期等は不明である。



第26図 第33号土坑出土遺物実測図

第14表 第33号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第26図 1	縄文土器	小形深鉢	口縁部、5%以下	—	外反気味、やや外傾。平縁に細かいキザミ。口縁端部下に横走沈線1条。その下に上下を横走沈線で区画した半歯状文。内面ナデ	石英・雲母・黒色砂粒少量	良好	外面暗褐色、内面黒褐色	覆土中	—	PL29 大洞BC式

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第26図 2	石鏃	(3.5)	(1.4)	0.8	(3.1)	オパール	有茎(茎部折損、推定)。長形。分厚。刃部交互剥離。裏面の水晶結晶部分は調整困難のため荒い	覆土中	—	PL29 一部欠損

(ii) 溝

第5号溝 (SD5, 第24図)

位置 C6i8区, C6i9区に位置する。第II2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

重複関係 西側にある第38号土坑を切っている。

規模と形状 上端の幅22cm, 確認できる深さ15cmである。走向はトレンチにはほぼ直交してN-28°-Wを向く。これは付近の等高線ともほぼ直交するものである。

土層 覆土は1層からなり, その覆土の状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

3 褐灰色(10YR4/1) 小礫中量, 砂少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性中, やや粘土質

遺物出土状況 出土していない。

所見 比較的小規模の溝であり, 耕作等に伴うものと考えられる。中世以降と考えられるが, 時期は不明である。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第27～32図, 第15表)

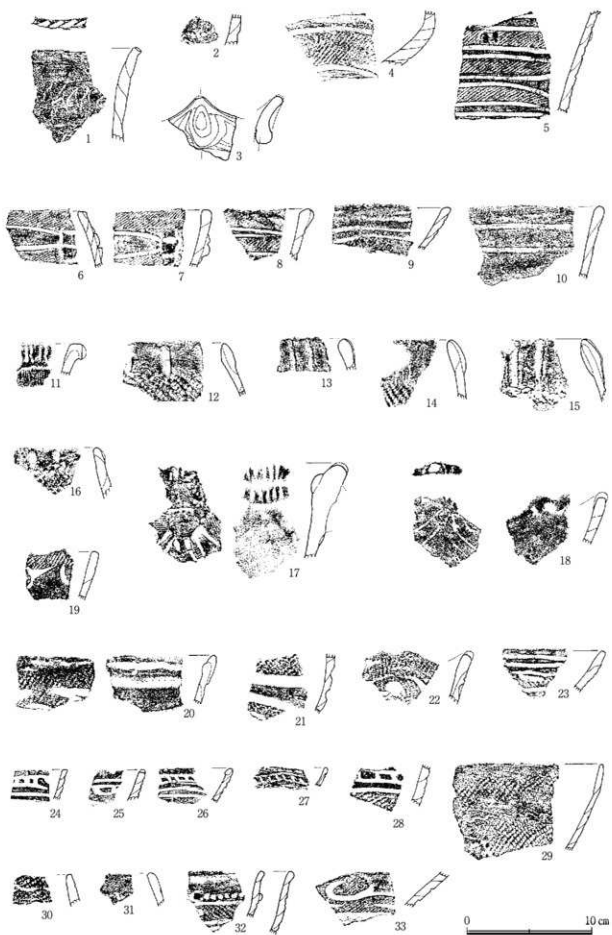
遺物出土状況 土器1,084点, 石器217点, 骨片73点が出土している。うち, 縄文土器122点(深鉢73, 鉢19, 浅鉢17, 小形鉢4, 台付浅鉢1, 壺6, 小形壺1, 台付鉢1), 弥生土器3点(壺2, 小形壺1), 土師器2点(坏1, 高台付坏1), 土製品3点(土器片円盤3), 石器・石製品16点(石棒2, 石錘4, 敲石5, 磨石1, 凹石1, 砥石1, 石鏃1)を掲載する。晩期の縄文土器を中心に石棒が出土するなど, 第2・4トレンチ以上に縄文晩期の色が濃い。大洞C2式期のものが大半を占めている。

(3) 所見

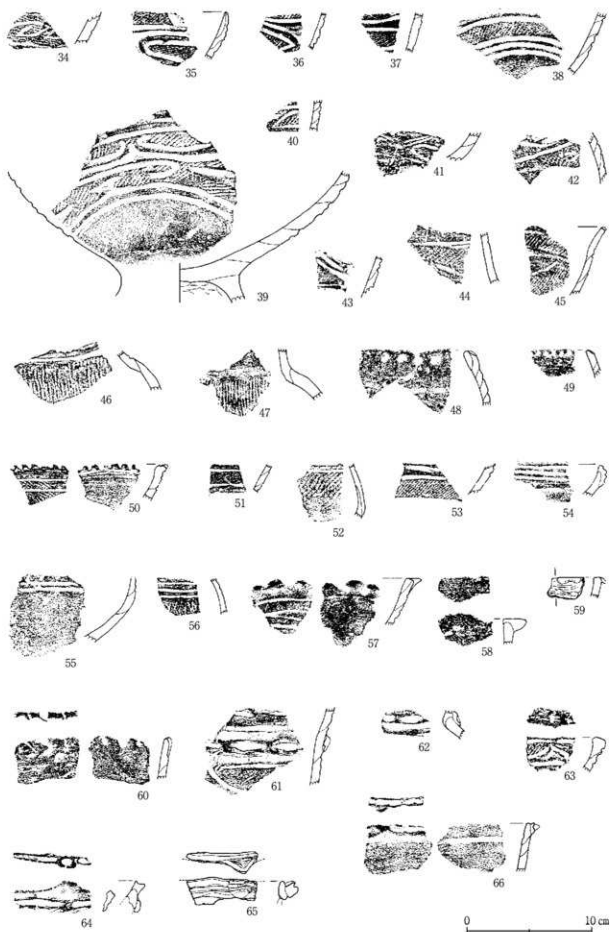
特筆されるのは, 縄文時代晩期の遺物が他トレンチと比較して極めて多く, また石棒などの石製品も多く確認されたことである。第1章第1節で述べたとおり, 当初泉坂下遺跡が着目され学術調査されたのは, 石棒製作遺跡の実態解明の可能性が考えられたからであった。第5トレンチ付近はそのカギを握る区域と考えられる。また, 弥生時代中期の再葬墓遺構と縄文晩期の関連という観点からも, 第2次確認調査においては, 第5トレンチ付近のより慎重な調査を行う必要があるだろう。

なお, 縄文時代中期の袋状土坑が確認されたことも興味深い。中期の遺物の出土は比較的少ないが, 第5トレンチ付近にさらに遺構が分布する可能性があり, 注意すべきである。

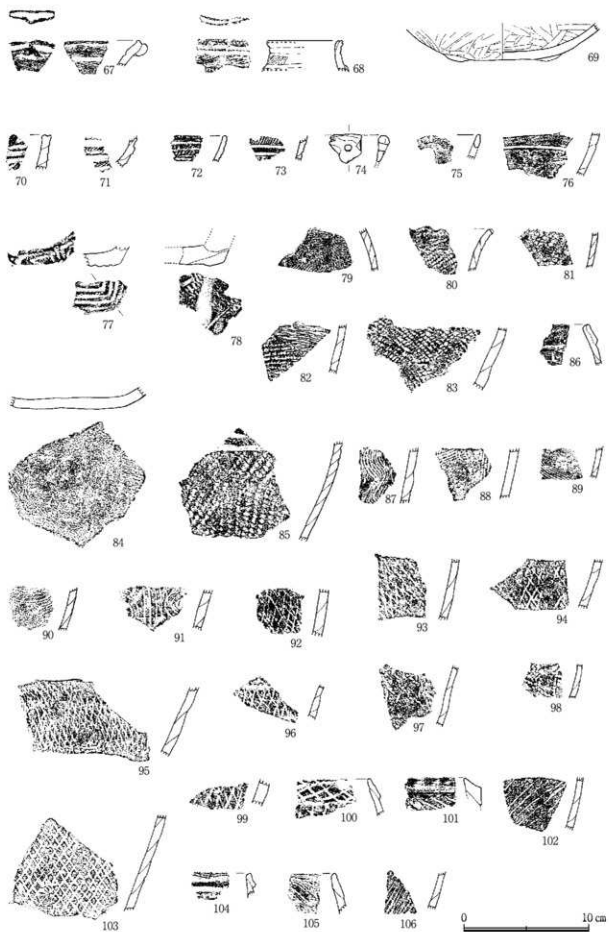
また, 中世墓塚が2基確認されたことについては, 他のトレンチと同様に一帯が広範囲にわたる墓域として用いられたことが窺える。



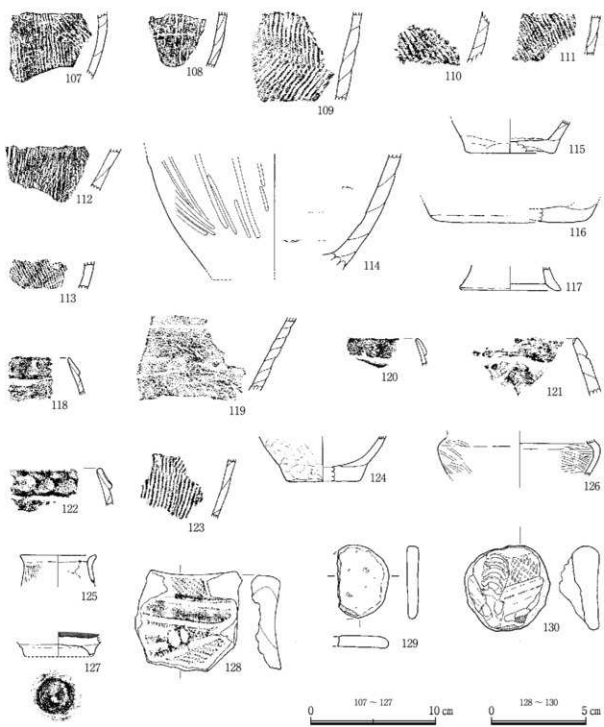
第27図 第5トレンチ出土遺物実測図(1)



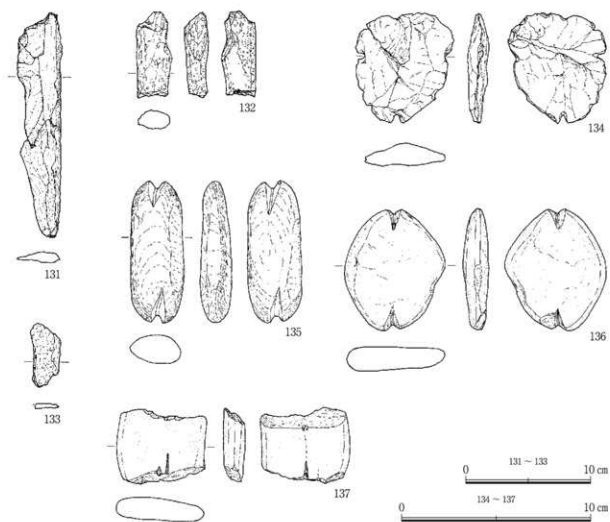
第28図 第5トレンチ出土遺物実測図(2)



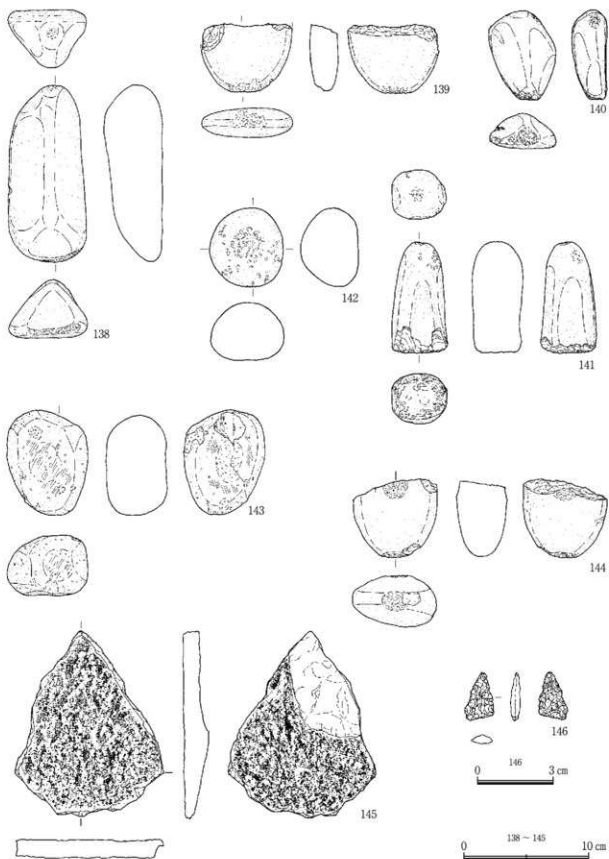
第29図 第5トレンチ出土遺物実測図(3)



第30図 第5トレンチ出土遺物実測図(4)



第31図 第5トレンチ出土遺物実測図(5)



第32図 第5トレンチ出土遺物実測図(6)

第15表 第5 トレンチ出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第27図 1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 5%以下	— —	外反・外傾。口縁端部に棒状工具によるキザミ。内面口縁部無文。胴部波状貝殻文。内面ナデ	石英中量、メノウ・長石少量、雲母細粒微量	良好、堅緻	内外面灰黄褐色	2区、1B層	—	PL29 浮島Ⅱ式
2	縄文土器	深鉢	胴部 5%以下	—	外面弧状の押引文、内面ナデ	石英中量、メノウ・雲母細粒微量	良好	にぶい橙色	4区、1B層	—	PL29 阿玉台式
3	縄文土器	鉢	口縁部 5%以下	—	外反・外傾する波状口縁の波頂部。波頂外面に彫形の輪状突起帯を貼り付け、下部から左ミに突起帯を貼り付け、ナデ・ミガキ。内面ミガキ	石英少量、メノウ・チャート・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内面赤褐色。中心部灰黄褐色	4区、1B層	—	PL29 加曾利E式
4	縄文土器	鉢	胴部 5%以下	—	内彎、強く外傾。器壁厚い。縄文を地文に上下を沈線でごく文、磨り消し	石英少量、メノウ・灰色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面・内部黒褐色。内面にぶい褐色	D6h8、Ⅱ層	—	PL29 加曾利E式
5	縄文土器	深鉢	胴部 5%	—	精製。わずかに外反、外傾。地文縄文に横走沈線と正位・逆位の弧状沈線と無文部、弧状文。貼付瘤2個（1対）。内面ナデ	石英少量、チャート・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	灰褐色	1B層	—	PL29 晩期初頭
6	縄文土器	深鉢	口縁部 5%以下	—	内彎、内傾。外面縄文を地文に磨消縄文手法により正位・逆位の弧状沈線と無文部、弧状の取束部に縦長の貼り付け瘤、横2条のキザミ。口縁端部～内面ナデ	石英少量、長石・黒色砂粒・金雲母細粒微量	良好	内外面にぶい褐色	4区、1B層	—	PL29 晩期初頭
7	縄文土器	深鉢	口縁部 5%以下	—	わずかに内彎、外傾。平縁の直口縁。縄文を地文に弧状の沈線でごく文し。内部を磨り消す。沈線の取束点に縦長の貼り付け瘤、2か所に横位のキザミ。口縁端部ミガキ、内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・金雲母細粒微量	良好	内外面灰黄褐色	4区、1B層	—	PL29 晩期初頭
8	縄文土器	深鉢	口縁部 5%以下	—	内彎気味、外傾。平縁の直口縁。口唇部張り付けにより肥厚。縄文を地文に沈線による区画、一部磨り消し。口縁端部～内面やや粗いミガキ	石英少量、灰色砂粒・金雲母微量	普通	サンドイッチ状。内外面黒褐色	4区、1B層	—	PL29 晩期初頭
9	縄文土器	浅鉢	口縁部 5%以下	—	内彎、外傾。口縁端部は平面的。外面には不安定な沈線4条。下位に縄文	石英少量、黒色砂粒・灰色砂粒・砂岩礫微量	やや不良	外面一部褐色。その他黒褐色	排土中	—	PL29 晩期初頭
10	縄文土器	深鉢	口縁部	—	外反気味、外傾。外面口縁部下に横走沈線2条施文後ナデ。内面ナデ、一部ミガキ状	石英少量、黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部部黒灰色	1B層	—	PL29 晩期初頭
11	縄文土器	深鉢	口縁部 5%以下	—	粗製。極度に肥厚・突出させた口縁端部外面に鋭利なヘラ状工具によるキザミ、胴部縦位の条縄文。内面ナデ	石英・灰色砂粒少量、メノウ微量	やや不良	外面にぶい黄褐色。内面灰白色	排土中	—	PL29 後期末～晩期初頭の粗製土器
12	縄文土器	深鉢	口縁～胴部 5%以下	—	やや内彎、内傾。肥厚させた口縁の外面に棒状工具によるキザミ（左から右へ動かす）。胴部に結節縄文。内面横位のナデ、口唇部下位に	石英少量、褐色砂粒・黒色砂粒微量、雲母細粒極微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL29 後期末～晩期初頭の粗製土器
13	縄文土器	深鉢	口縁部 5%以下	—	内傾。肥厚させた口縁部外面に粗いキザミ（ヘラ状工具を左から右に動かし施文）。内面ナデ	石英少量、褐色砂粒・黒色砂粒・金雲母微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	2区、1B層	—	PL29 後期末～晩期初頭の粗製土器

採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第27図											
14	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢・内傾。肥厚させた口縁内面にキザミ。キザミからは細いヘラ描きの縦線が垂下。刷部外面縄文。内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐灰色	4区、1B層	—	PL29後期末～晩期初頭の粗製土器
15	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢・内傾。口縁部は内外面に粘土板を貼り付けて肥厚させ。外面に棒状工具を石に滑らせながらキザミ。刷部に結節縄文。内面横位のナデ	石英少量、メノウ・褐色砂粒・金雲母微量	良好	にふい黄褐色	排土中	—	PL29後期末～晩期初頭の粗製土器
16	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内傾。肥厚させた口縁部外面にやや太い棒状工具によるキザミ。刷部外面縄文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、雲母細粒・メノウ微量	やや不良	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面に内褐色。内部褐色	排土中	—	PL29後期末～晩期初頭の粗製土器
17	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	山形突起の頂部をヘラ状に作りキザミ。基部内面と側面に粘土紐を巻くキザミ。突起外面の裝飾は剥離。直下に縁状裝飾帯。両側には縄文を沈線で区画し磨消。内面ナデ	石英少量、長石・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面灰褐色。内部褐灰色	排土中	—	PL29安行3aまたはb式
18	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	— —	わずかに内嚢。外傾。波状口縁頂部に粘土紐を貼り付けて突起を作り、端部と内面に刺突。外面浅い沈線による2重の山形文。内面ナデ	石英少量、ナール・メノウ・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面に褐色。内部明褐色	4区、1B層	—	PL29安行3b式か
19	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢気味で外傾する波状口縁。外面口唇部に縄文。下位部に磨消縄文手法による無文ナデ・三文文・弧状沈線。内面ナデ	石英少量、灰色砂粒・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL29前甗式か
20	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢気味。内傾。貼付口縁。縄文を地文として磨消縄文手法により施文。太い沈線により雲形文を作る。口縁部に内面に広い横走沈線2条	石英少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面明赤褐色。内面褐色	4区、1B層	—	PL29前甗式
21	縄文土器	深鉢	刷部5%以下	— —	内嚢。外傾。外面縄文を地文に磨消縄文手法による広い沈線と無文帯。内面やや粗いミガキ	石英（礫含む）・メノウ少量、褐色砂粒・雲母微量	良好	外面褐色。内面にふい褐色	1区、1B層	—	PL29前甗式
22	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	— —	外傾。波状口縁の1単位2山。外面縄文。磨消縄文手法により円文。内面ナデ	石英少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面灰黄褐色	1区、1B層	—	PL29前甗式
23	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢。大きく外傾。外面縄文を地文に横走沈線2条。半円状文。内面ナデ。輪積み痕	石英・メノウ少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	普通、焼けムラ	内外面灰黄褐色・黒褐色	1区、1B層	—	PL29大淵BC式
24	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	— —	小形。精製。内嚢気味。外傾。外面（地文縄文か）やや崩れた半円状文と横走沈線。内面ミガキ	精良。石英・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面にふい黄褐色。内面一部黒色	5区、1B層	—	PL29大淵BC式
25	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢気味。外傾。口唇部にキザミ。外面横走沈線2条と、内面ナデ	石英少量、黒色砂粒・灰色砂粒・雲母微量	普通、焼けムラ	外面褐色・褐色。内面褐色	1区、1B層	—	PL29大淵BC式
26	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	— —	小形。精製。内嚢。外傾。外面（地文縄文か）沈線2条間にいわれる二溝間の載痕。その下に横走沈線2条。縄文。内面口唇部肥厚。ミガキ	精良。石英・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内面黒色	5区、1B層	—	PL29大淵C1式
27	縄文土器	小形鉢	口縁部5%以下	— —	内嚢気味。外傾。外面いわれる二溝間の載痕。内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面褐色	4区、1B層	—	PL29大淵C2式

採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第27図	28	縄文土器	鉢	胴部上位, 5%以下	—	内嚢気味。外傾。磨消縄文。沈線及びいよわゆる二溝間の截痕。内部ナデ	石英・メノウ少量, 雲母細粒微量	普通	内外面にふい赤褐色	4区, I層	—	PL29 大洞C2式
	29	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%以下	—	内嚢。外傾。器壁薄い。外面ケズリ。のち縄文・結節縄文施文。内面横位のナデ, 輪積み痕	石英少量, メノウ・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通, 焼けムラ	サンドイッチ状。外面褐色・黒褐色。内面黒褐色。内部黒色	I層	—	PL29
	30	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内傾。外面結節縄文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量, 雲母細粒微量	良好	にぶい黄褐色	4区, I層	—	PL29
	31	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内傾。内外面ナデ。口縁部下に結節縄文	石英・長石・砂岩礫・褐色礫少量	良好	にぶい褐色	D6g8, II層	—	PL29
	32	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	—	胴部内嚢。外傾。にぶく屈曲して口縁部外反・外傾。胴部外面弓形突起貼り付け, 左右に押し引状の連続稜突文。その下位に上下を連続で区画された縄文帯。内面ナデ	石英(礫含む)少量, メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面灰褐色。内面にふい黄褐色	1区, I層	—	PL29 晩期中業
	33	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%	—	精製。大きく外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ミカキ	石英・黒色砂粒少量, 雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内部褐色	4区, I層	—	PL29 晩期中業
第28図	34	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	—	外傾。外面縄文施文後沈線による雲形文。内面ナデ	石英少量, メノウ・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部黒色	排土中	—	PL30 晩期中業
	35	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	精製。器壁薄い。内嚢。外傾。外面縄文。沈線により区画。内面丁寧なナデ	石英(礫含む)少量, ナヤート・メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面にふい黄褐色	1区, I層	—	PL30 大洞C2式
	36	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	—	内嚢・外傾。外面縄文地文。磨消縄文手法による長楕円形区画。内面刺刺。輪積み痕	石英少量, 褐色砂粒・黒色砂粒, 雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面・内部にふい橙色	5区, I層	—	PL30 大洞C2式
	37	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	—	直線の。外傾。外面横走沈線3条。網目状捺糸文。内面ナデ	石英・メノウ少量, 灰色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面・内部褐色。表面直下にふい橙色	1区, I層	—	PL30 大洞C2式
	38	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部, 15%	—	わずか内嚢。強く外傾する。胴部下, 縄文を地文に横走沈線4条。現状で1～2条間に縄文。4条以下無文(底部か)。内面ナデ	石英少量, ナヤート・メノウ・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面にふい黄褐色。内面・内部褐色	1区, I層	—	PL30 大洞C2式
	39	縄文土器	台付浅鉢	胴～底部, 30%	—	八の字状に開く脚台から屈曲して内嚢しながら大きく外傾して立ち上がる。口縁径は28cm前後。器高14～15cm程度か。外面胴部上字は縄文を地文に磨消縄文手法によりK字文・C字文などを付ける。下位無文。内面ナデ	石英(礫含む)中量, 黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	胴部下半～底部サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面・内部にふい橙色。内部褐色	D6h8, II層	—	PL30 大洞C2式
	40	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	わずか内嚢。外傾。縄文を地文に沈線による区画	石英・メノウ少量, 金雲母細粒微量	普通	外面灰褐色。内面灰白色	5区, I層	—	PL30 大洞C2式
	41	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%	—	内嚢。大きく外傾。外面沈線文。器壁流れ。内面ナデ	石英中量, メノウ・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面灰黄褐色。内部灰褐色	D6h8, II層	—	PL30 大洞C2式

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第28図											
42	縄文土器	深鉢	胴部、5%	—	内埴、内傾。外面磨滑縄文、内面横位のナデ	石英(礫含む)少量、メノウ・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内面褐色	2区、1B層	—	PL30大洞C2式
43	縄文土器	深鉢	胴部上半、5%以下	—	内埴気味、外傾。波状口縁の一部。縄文を地文に波状・横走の沈線数条。沈線の収束部には貼付文の剥離痕。内面ナデ	石英少量、メノウ・灰色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面にふい褐色、内面灰褐色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
44	縄文土器	壺か	胴部上半、5%以下	—	外反気味、内傾か。縄文を地文に横走沈線・斜行沈線。内面ナデ、一部ミガキに近いナデ	石英粒少量、長石・雲母細粒微量	良好	灰褐色	覆土中	—	PL30
45	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%	—	胴部内埴、外傾。にぶく屈曲して口縁部外反・外傾。外面磨滑縄文、内面ナデとやや粗いミガキ	石英少量、メノウ・灰色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内面黒褐色	4区、1B層	—	PL30大洞C2式
46	縄文土器	壺	頸～胴部、5%以下	—	強く内傾する球形の胴部から内傾して立ち上がる頸部。頸部外面ナデ、胴部赤系文、境界に沈線。内面ナデ、輪積み痕	石英礫・石英粒・メノウ・黒色礫少量、雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい橙色、内面明赤褐色、内面黒灰色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
47	縄文土器	壺	頸～胴部、5%以下	—	強く内傾する球形の胴部から内傾して立ち上がる頸部。頸部外面ミガキ、胴部赤系文。内面ナデ	石英・灰色礫少量、長石少量	良好	黒色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
48	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	粗製。わずかに内埴、内傾。口縁部わずかに肥厚。口唇部やや大きい棒状口縁でキザミ・キザミの下に縦の細い条線(キザミの目印か)。口縁部下外面に横走沈線2条、内面ナデ	石英中量、メノウ(礫含む)・黒色砂粒・灰色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面褐色、内面褐色	2区、1B層	2片	PL30大洞C2式
49	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内埴気味、内傾。口唇部にキザミ状の連続鋭突。内外面ナデ	石英少量、灰色砂粒・雲母微量	やや不良	外面にふい褐色、内面灰褐色	4区、1B層	—	PL30大洞C2式
50	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	精製。内埴・外傾。口縁端部は沈線地文、その外側に細い粘土線を貼り付けて突出させ棒状工具によるキザミ。下部は縄文を2条の沈線で区画。内面ミガキ	石英少量、雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面・内面黒色	排土中	—	PL30大洞C2式
51	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	器壁薄い。やや内埴、外傾。外面縄文を沈線で区画。内面ナデ	石英少量、チークト・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面黒褐色	1区、1B層	—	PL30大洞C2式
52	縄文土器	壺	胴部、5%	—	内埴し、外傾から内傾して立ち上がる。縄文に横走沈線2条。内面ケズリ	石英中量、メノウ・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面暗赤褐色・黒色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
53	縄文土器	浅鉢	胴部、5%	—	精製。内埴・外傾。外面3条の沈線で区画し磨滑縄文手法により縄文帯を作る。内面ミガキ	精白。石英・褐色礫微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、内面黒褐色、内面黒褐色、内面黒褐色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
54	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内埴・外傾。肥厚させた口縁に横走沈線3本。胴部内外面ナデ	石英・長石・灰色礫少量、雲母細粒微量	良好	褐色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
55	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、10%	—	内埴、大きく外傾。口縁部外面横走沈線2条。内面ナデ	石英少量、石英礫・長石・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内面褐色	D6h8、II層	—	PL30大洞C2式
56	縄文土器	壺	胴部、5%以下	—	小形。内埴、内傾。外面上半横走沈線3条、下半網目状赤系文。内面ナデ、一部ミガキ	石英・メノウ(礫含む)少量、雲母細粒微量	普通	内外面黒色	1区、1B層	—	PL30大洞C2式

押図番号	種別	器種	部位・残存率	口径・高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第28図											
57	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	—	内埴、大きく外傾。口縁端部を外に張り出し、小尖状(花弁状)に作る。外面横走・斜行する沈線。内面ナデ	石英少量、メノウ・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶ、褐色。内部黒褐色	2区、I B層	—	PL30 晩期中葉か
58	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	ほぼ直立する口縁部。端部外面に突出部を作る。内外面ナデ	石英塵・灰色塵少量	やや不良	黒色	D6g8、II層	—	PL30
59	縄文土器	小形鉢	口縁部5%以下	—	内埴気味、外傾。口縁端部を内側にわずかに突出させ、外面にB突起貼り付け。外面粗いミガキ、内面横位のナデ	石英少量、メノウ・雲母細粒微量	普通	外面 灰黄褐色。内面 内部黒色	D6h8、II層	—	PL30 晩期中葉の粗製土器か
60	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	粗製。内埴気味、外傾。口唇部にヘラ状工具による斜めのキザミ(2山1単位)。外面ナデ、輪積み痕。内面やや丁寧なナデ	石英少量、メノウ・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面灰褐色。内部黒色	1区、I B層	—	PL30 晩期中葉の粗製土器か
61	縄文土器	深鉢	胴部5%	—	外反・外傾。外面沈線メガネ状浮帯文、その下に沈線による縄文の区画。内面ミガキ	石英少量、メノウ・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面赤褐色。内面暗褐色。内部褐色	4区、I B層	—	PL30 大割C2式
62	縄文土器	壺	頸部5%以下	—	強く内傾する胴部から屈曲して立ち上がる頸部下。思曲部外面の隆帯に長いキザミ、内面ナデ	石英・長石・灰色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面褐色。内面におい黄褐色。内部褐色	D6h8、II層	—	PL30 大割C2式
63	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	—	内埴、外傾。口縁を一部肥厚させ、端部にキザミ、縄文を施文にした外面に沈線と三角文。内面ナデ	石英少量、黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	1区、I層	—	PL30 大割C2式
64	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	外傾。口縁端部に突起を付け頂部に凹み。口縁端部に沈線、外面長い眼鏡状浮文。内面ナデ。一部に赤色顔料	精良。石英・チャート・黒色塵少量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	D6g8、II層	—	PL30 大割C2式
65	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	外傾。平縁。口唇部外面に横に突出する突起を付け、土器本体から連続する横走沈線施文。内面ナデ。端部から1.5cm下位に横走沈線	石英(礫含む)中量、メノウ(礫含む)・チャート・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐色。内面にぶい黒色	1区、I B層	—	PL30 大割C2式
66	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	内埴、わずかに外傾。口縁端部外面に粘土継を貼り付け突起を作る。端部と外面突起両側に結節沈線。内面口縁部下に沈線施文後ナデ	石英・メノウ・灰色砂粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒色	D6h8、II層	—	PL30 大割C2式
第29図											
67	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	—	精製。外反気味、大きく外傾。口唇部外側に粘土貼り付け眼鏡状浮帯文に作る。口縁端部突出する外形に沿う沈線。内面口縁部下に横走沈線。内外面丁寧なナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・灰色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部褐色	1区、I B層	—	PL30 大割A式か
68	縄文土器	小形壺	口縁・頸部10%	[6.0] (2.5)	精製。外反・内傾する頸部から口縁部。口縁端部外面を肥厚させ端部に沈線。外面に列点。直下に横走沈線2条。頸部と外面同位のミガキ。胴部との境界に隆起線を作り列点文。内面ヘラナデ	石英少量、褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内面にぶい褐色・褐色	D6h8、II層	2片	PL30 大割C2式
69	縄文土器	鉢	胴・底部15%	—	丸底に低い突起(脚)が付く。現状1個。4個で復元(底部方形の可能性)。胴部内埴、大きく外傾。内外面ヘラナデ	石英(礫含む)少量、チャート・メノウ・褐色砂粒・泥岩・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面褐色。内部器表近く中心部褐色	I B層	3片	PL30 大割C2式
70	縄文土器	鉢	口縁部5%以下	—	内埴気味、わずかに外傾。口縁端部オサエによる凹縁と内面への膨らみ。外面横走沈線3条。下位に縄文。内面ナデ	石英・メノウ(礫含む)中量、黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色	5区、I B層	—	PL30 晩期後葉

採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第29図											
71	縄文土器	浅鉢	胴部5%以下	—	小形 精製。口縁部近く。内側、大きく外傾。縄文を施すに沈線・磨消縄文。内面ミガキに近い丁寧なナデ	石英・メノウ少量、赤褐色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい、暗褐色、内部褐色	1区、1B層	—	PL30 晩期後葉
72	縄文土器	小形鉢	口縁部5%以下	—	わずか内傾。外傾。口縁部外面横走沈線2条、その下位横走文、その下位に横走沈線2条。内面ナデ	石英少量、チャート・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい、黄褐色、内面灰黄褐色、内部黒色	1B層	—	PL30
73	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	直線的。外傾。外面磨消文に横走沈線2条、2条間磨消。内面丁寧なナデ、一部ミガキ	精良。石英少量、メノウ微量(含む)	良好	サンドイッチ状。内外面暗褐色。内部灰褐色	2区、1B層	—	PL30 晩期後葉
74	縄文土器	小形鉢	口縁部5%	—	平縁。口唇部外面粘土紐貼付により肥厚。円孔1(焼成前穿孔、径6mm)。端部直下外面(円孔左上)に細い沈線1条。内面ナデ	石英・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面褐色	2区、1B層	—	PL30
75	縄文土器	鉢か	口縁部裝飾か、5%以下	—	器厚薄い。ナデ。表面一部剥離。円孔は焼成前穿孔	石英少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい、褐色。内面褐色	覆土中	—	PL30
76	縄文土器	鉢か	胴部5%以下	—	内傾。外傾。外面沈線2条間ミガキ、下位ミガキ。内面ナデ、一部ミガキ	精良。石英・雲母細粒微量	良好、微緻	外面にふい、赤褐色。内面黒褐色	3区、1B層	—	PL30 晩期後葉
77	縄文土器	浅鉢	底部5%以下	—	方形の底部。底面に沈線4条(以上)を方形にまわす。外傾して立ち上がる胴部外面には沈線による方形区画に三角形の沈線文	石英・メノウ、チャート・シャモット少量	良好	胴部にふい、底面褐色	D6g8、II層	—	PL30 晩期後葉
78	縄文土器	深鉢か	底部5%以下	—	底部外面太い沈線(?)。木葉痕・網代痕。内面ナデ。底部周縁に粘土紐を載せて接合(剥離)	石英(籾含む)少量、褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良	外面灰色。内面にふい、黄褐色	2区、1B層	—	PL30
79	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内傾。内傾。外面細縄文。内面ナデ	石英少量、黒色砂粒・灰色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面・内部黒褐色。内面灰黄褐色	5区、1B層	—	PL30
80	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	外反。外傾。器壁薄い。口縁端部に棒状工具によるキザミ。外面端部無文。下位縄文。内面ミガキ、のち黒色処理	石英少量、チャート・黒色砂粒微量	良好	外面暗赤褐色。内面黒褐色	4区、1B層	—	PL30 後・晩期粗製土器
81	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内傾気味。外傾。器壁薄い。外面腹節縄文。内面ナデ	石英少量、灰色砂粒・金雲母・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にふい、黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL30 後・晩期粗製土器
82	縄文土器	深鉢か	胴部5%以下	—	内傾気味。外傾。器壁薄い。外面上位と下位に附加条縄文。中位に縄文。内面丁寧なナデ	石英少量、黒色砂粒・金雲母・海綿骨針微量	良好、微緻	サンドイッチ状。外面にふい、赤褐色・黒褐色。内面にふい、褐色。内部褐色	3区、1B層	—	PL30 後・晩期粗製土器
83	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内傾気味。外傾。外面縄文。内面ナデ	やや粗悪。石英・黒色砂粒中量。石英礫・褐色砂粒微量	2次焼成	2重のサンドイッチ状。外面褐色。内外面にふい、黄褐色・褐色。内部褐色・黒褐色	D6h8、II層	—	PL30 後・晩期粗製土器
84	縄文土器	深鉢	底部15%	8.0	平底。胴部内傾気味。外傾。胴部外面縄文。底部外面へラ状工具によるナデ。内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にふい、黄褐色。内部黒色	4区、1B層	—	PL31
85	縄文土器	深鉢	胴部5%	—	内傾。外傾。外面粗い縄文に横走沈線2条。内面ナデ	石英(籾含む)少量、メノウ・灰色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい、黄褐色。内面明赤褐色。内部褐色	2区、1B層	—	PL31 後・晩期粗製土器

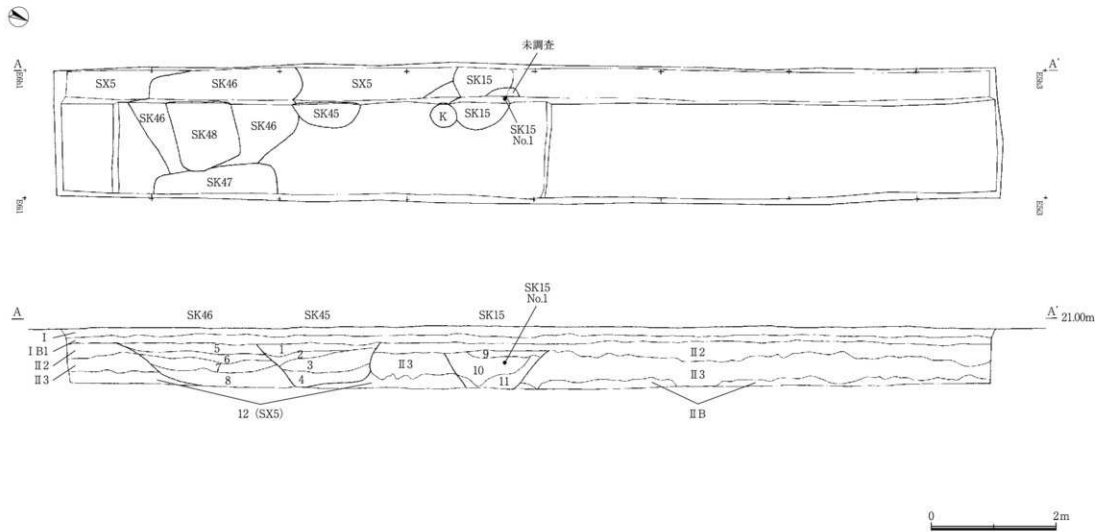
採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第29図											
86	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	内埴、内傾。複合口縁。口縁部～内面ナデ。胴部外面弧状の条線文か	石英少量、黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色・内部褐色	1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
87	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	直線的。外傾。外面条線による縦位の波状文。条線単位は9条。内面ナデ	石英中量、チャート・メノウ・黒色砂粒少量、雲母細粒微量	普通、焼げムラ	内外面にふい橙色	4区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
88	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内埴、外傾。左下がり弧状(波状の一部か)と垂下する直線の条線文。内面縦位のナデ	石英少量、雲母細粒微量	良好	外面にふい赤褐色。内面褐色	覆土中	—	PL31後・晩期粗製土器
89	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	わずか内埴、外傾。外面条線による弧状文(縦位の波状文の一部か)。内面ナデ	石英(礫含む)少量、メノウ・黒色砂粒・赤褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面にふい橙色	2区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
90	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内埴、外傾。外面条線による弧状文(波状の一部か)。内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面浅黄褐色・橙色。内面にふい褐色	2区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
91	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	外反気味、外傾。外面垂下する条線文と左右からの弧状(波状の一部か)条線文。内面ナデ	石英少量、メノウ微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。内部褐色	2区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
92	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	わずか内埴、外傾。外面網目状条線文、内面ナデ	粗悪。石英中量、チャート・メノウ・黒色砂粒・褐色砂粒微量	やや不良	外面にふい黄褐色。内面・内部黒色	1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
93	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内埴、外傾。外面網目状条線文、内面丁寧なナデ	石英少量、メノウ(礫含む)微量	良好	外面灰褐色。内面にふい黄褐色	2区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
94	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	わずか内埴、外傾。外面網目状条線文、内面横位のち縦位のナデ、一部ミガキ状	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好、堅緻、二次焼	外面にふい褐色。内面にふい褐色	1区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
95	縄文土器	深鉢	胴部5%	—	直線的。外傾。外面輪積み痕と粘土紐の凹凸顕著。網目状条線文。内面ナデ	石英少量、褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい褐色。内面黄褐色	2区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
96	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	外反気味、外傾。外面網目状条線文、輪積み痕あり。内面ナデ	石英少量、灰褐色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面暗赤灰色。内面赤灰色。内部褐色	4区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
97	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	直線的。外傾。外面網目状条線文、内面縦位のナデ	石英・黒色粒少量、雲母細粒微量	良好	外面浅黄色。内面にふい褐色	D6g8、II層	—	PL31後・晩期粗製土器
98	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	内埴・外傾。外面網目状条線文、内面ナデ	石英・灰色礫少量、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	表面にふい褐色。内面・内部褐色	D6h8、II層	—	PL31後・晩期粗製土器
99	縄文土器	深鉢	胴部下半、5%以下	—	内埴気味、外傾。外面網目状条線文、内面横位のナデ。粘土粒積上げ痕で弱離	石英粒少量、黒色砂粒微量	良好	外面褐色。内面にふい褐色	覆土中	—	PL31後・晩期粗製土器

採図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第29図	100	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内埴・内傾。複合口縁に網目状燃糸文、胴部に別施文の網目状燃糸文。内面ナデ	石英・灰色砂粒少量、メノウ・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	D6f8, II層	—	PL31後・晩期粗製土器
	101	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	粗製。剥離した複合口縁。端部内外面ナデ、胴部外面網目状燃糸文	石英・黒色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	良好	にぶい黄褐色	排土中	—	PL31後・晩期粗製土器
	102	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	器壁薄い。やや内埴。外傾。外面ナデ、のち燃糸文。内面ミガキに近い丁寧なナデ	石英少量、メノウ・チャート・雲母細粒微量	良好、堅緻	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色	2区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	103	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内埴気味。外傾。外面網目状燃糸文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	良好	外面明黄褐色。内面黄褐色	D6f8, II層	—	PL31後・晩期粗製土器
	104	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内傾する複合口縁の外面に横位の条線文。内面ナデ	石英・チャート少量、黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	4区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	105	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内埴気味。内傾。複合口縁だがほとんど肥厚せず。条線も口唇部から胴部へ連続。内面ナデ	石英少量、褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	2区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	106	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内埴気味。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通、焼けムラ	外面黒色。内面褐色	4区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
第30図	107	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内埴。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英少量、メノウ（礫含む）・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部黒褐色	1区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	108	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内埴。外傾。外面粗い燃糸文。内面ナデ。外面に輪積み痕	石英（礫含む）少量、メノウ・灰色礫微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部黒褐色	2区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	109	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	外反気味。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英（礫含む）・メノウ（礫含む）少量、雲母細粒微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部黒褐色	4区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	110	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内埴。外傾。外面燃糸文。内面横位のナデ	石英少量、泥礫・褐色礫微量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面灰黄色。内部黒色	D6f8, II層	—	PL31後・晩期粗製土器
	111	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	外傾。外面燃糸文。内面ナデ。剥離顕著	石英少量、黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面褐色。内部褐色。内面にぶい褐色	4区、I B層	—	PL31後・晩期粗製土器
	112	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	外反気味。外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英・長石・メノウ・砂岩礫・褐色礫少量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。外面灰褐色。黒色。内面明赤褐色。内部褐色	D6f8, II層	—	PL31後・晩期粗製土器
	113	縄文土器 <small>跡</small>	鉢	胴部、5%以下	—	内埴・外傾。外面燃糸文。内面ナデ	石英少量、長石・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	D6f8, II層	—	PL31後・晩期粗製土器
	114	縄文土器	深鉢	胴部下 部	(9.6) [9.8]	内埴。外傾。外面ナデ、一部ミガキ気味。内面ナデ、輪積み痕	石英少量、チャート微量、海綿骨針極微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面淡黄色。一部黒褐色。内部褐色	I B層	—	PL31後・晩期粗製土器

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第30図											
115	縄文土器	深鉢か	胴部・底部5%以下	— [7.3]	粗製。上げ底気味の底部から外反気味に外傾して立ち上がる。外面横位のナデ、内面ナデ	石英・チャート・砂岩(いれ含む)中量。底面に粘土内植物痕跡	やや不良	サンドイッチ状。内外面浅黄褐色。内部褐色	1B層	—	PL31
116	縄文土器	深鉢	底部5%以下	— [11.7]	平底の周縁部に粘土紐を載せて接合(剥離)	石英中量。チャート(黒含む)少量。褐色砂粒少量	不良。脆い	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	1B層	2片	PL31
117	縄文土器	台付鉢	胴部5%以下	— [8.0]	外反気味。内傾。内側に肥厚し横をもつ。内外面ナデ	石英・メノウ(礫含む)少量。褐色砂粒・雲母細粒微量	やや不良。器壁荒れ	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	1区、1B層	—	PL31
118	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	わずか内壁、内傾。接合口縁部擦薄しい。内外面ナデ。泥紫痕布か	石英中量。チャート・メノウ・黒色砂粒少量。雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面浅黄褐色。内部黒色	4区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
119	縄文土器	深鉢	胴部5%	—	粗製。無文。外反気味。外傾。外面ナデ。輪積み痕顕著。内面丁寧なナデ	石英少量。長石・メノウ・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
120	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	粗製。内壁、内傾。接合口縁部器壁薄い。内外面ナデ	石英少量。チャート(礫含む)・メノウ・褐色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面浅黄褐色。内部黒色	2区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
121	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	粗製。器表不整。わずかに内壁、内傾。接合口縁部内外面ナデ	石英・泥砂・褐色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	4区、1B層	—	PL31後・晩期粗製土器
122	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	わずか内壁、内傾。接合口縁部外面に指頭圧痕。内外面ナデ	石英礫・メノウ・褐色砂粒少量	良好	サンドイッチ状。ぶい黄褐色。内部褐色	D6h8、II層	—	PL31後・晩期粗製土器
123	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	内壁。外傾。外面条痕文。内面縦位のナデ	石英少量。長石微量	やや不良。焼けムラ	外面褐色。内面黄褐色。黒褐色	D6g8、II層	—	PL32中期
124	弥生土器	壺	胴部・底部5%以下	— (3.5) [6.0]	平底から内壁・外傾して立ち上がる胴部。胴部外面ナデ。内面ナデ(一部ヘラか)。底部外面布目痕	石英(礫含む)少量。メノウ・雲母細粒微量	普通。焼けムラ	外面黒褐色。内面にぶい黄褐色。一部黒褐色	1区、1B層	—	PL32中期
125	弥生土器	小形壺	口縁部・胴部10%	— (2.5) [6.0]	内壁・内傾する胴部から屈曲して外反・外傾する口縁部。口縁部内外面横位のナデ。胴部縦位のミガキ。内面横位のヘラナデ	精良。石英・メノウ・黒色砂粒・金雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒色	D6h8、II層	—	PL32中期
126	土師器	環	体部10%	—	内壁・外傾する体部。上部で強く内壁。口縁部付近でやや外に屈曲。内外面ミガキ	精良。石英・メノウ・黒色砂粒・金雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄褐色	5区、1B層	—	PL32
127	土師器	高台付環	底部25%	— [5.2]	平底。底部切り離し後高台貼り付け。三角高台。底部外面ナデ。ヘラ先による円形状連続剥離。内面ミガキのら黒色処理	石英(礫含む)少量。褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色	1区、1B層	—	PL32

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第30図 128	土器片 円盤	6.8	6.1	—	421	縄文後期後葉の土器深鉢口縁部を転用。液状口縁基部。端部外面を肥厚させ縄文地文。その下位に表面に細かいキザミを入れた隆起帯による三角文といわゆる豚鼻状の貼付文。口縁端部と内面ミガキ	石英・褐色砂粒少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	良好、堅緻	外面赤褐色 内面褐色	3区、 1B層	—	PL32 完存
129	土器片 円盤	3.8	(2.7)	—	(8.3)	縄文土器胴部片を転用。外面無文。内外面ナデ。周縁部磨りにより円盤として整形	石英少量、メノウ（礫含む）・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面 にふい 棕色	3区、 1B層	—	PL32 一部欠損
130	土器片 円盤	4.5	4.5	—	31.1	縄文土器深鉢口縁部片を転用。外面縄文を地文に沈凹区画。縦長の貼付文に横位のキザミ4条。胴部条痕文。口縁端部ミガキ。内面粗いミガキ。周縁部磨りにより円盤として整形	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンド フッチ 状。内 外面暗 褐色、 内面褐 灰色	D6C8、 II層	—	PL32 完存

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第31図 131	石棒	(17.8)	(3.2)	(0.6)	(70.1)	粘板岩	破損しているが、一部の面に調整痕（敲打痕）	1B層	2点	PL32 破片
132	石棒	(6.9)	2.8	1.8	(48.9)	粘板岩	やや扁平な棒状の礫を利用。表面調整痕（敲打痕）。調整痕は粗く、調整初めか	D6I8、 II層	—	PL32 破片
133	石棒	(5.0)	(2.4)	(0.5)	(5.6)	粘板岩	破損した薄い剥片。表面に敲打痕（調整痕）	4区、 1B層	—	PL32 破片
134	石錘	5.7	5.2	1.2	33.1	粘板岩	扁平な不整楕円形の礫を利用し、直交する4方向に抉りをもつ。抉りはすべて剥離による	5区、 1B層	—	PL32 完存
135	石錘	7.4	2.9	1.6	53.6	粘板岩	扁平な不整長楕円形の礫を利用。両端に溝	D6I8、 II層	—	PL32 完存
136	石錘	6.4	5.4	1.1	51.6	泥岩	扁平な不整楕円形の礫を利用。両端に溝	D6I8、 II層	—	PL32 完存
137	石錘	4.8	4.1	1.1	32.8	泥岩	扁平な礫を利用して両端を打ち欠き、打ち欠いた部分中央に打撃と研磨により溝を切る。溝は表裏それぞれ1条と2条	D6I8、 II層	—	PL32 完存
第32図 138	敲石	14.0	6.3	4.5	482.7	砂岩	三角柱状の礫を利用。両端に敲打痕	4区、 1B層	—	PL32 完存
139	敲石	(5.6)	7.0	2.3	(123.0)	砂岩	扁平な楕円形の礫を利用。一端に敲打痕	D6I8、 II層	—	PL32 破片
140	敲石	7.2	5.3	2.8	126.5	泥質ファルンフェルス	不整楕円形の礫を利用。尖った一端に敲打痕。他端近くにも小さな敲打痕	3区、 1B層	—	PL32 完存
141	敲石	8.8	4.4	3.8	223.1	砂岩	折れた柱状の礫を利用。主に折れ面を使用し、周辺部に敲打痕。他端にもわずかに敲打痕	D6I8、 II層	—	PL33 完存
142	敲石	6.4	5.8	4.6	238.4	砂岩	不整球形の礫を利用。表面に敲打痕	3区、 1B層	—	PL33 完存
143	磨石	8.4	6.3	4.8	339.1	多孔質安山岩	不整楕円形の礫を利用。表裏と一端に磨面	3区、 1B層	—	PL33 完存
144	凹石	(6.3)	(6.8)	(4.2)	(204.9)	砂岩	やや扁平な楕円形の礫を利用。表裏面中央（推定）に径2cm、深さ3～4mmほどの凹み。一端に敲打痕。敲石としても使用	4区、 1B層	—	PL33 中央部で 折損
145	砥石	14.7	11.6	2.2	393.5	安山岩	扁平な割れ礫を利用。整形痕なし。表裏面に砥面	西端部 遺物集 中区、 1B層	—	PL33 完存
146	石鏝	(1.8)	(1.2)	0.4	(0.8)	メノウ	無茎。全面剥離調整。やや透き通る乳白色	D6I8、 II層	—	PL33 一部欠損



第33図 第6トレンチ実測図

5 第6トレンチ (第33図)

(1) 調査概要

E5h3区からE5h0区に設定した、長さ16m、幅2mのトレンチである。第1トレンチの北側に設定しており、再葬墓遺構の分布範囲の北の限界を掘むことを主目的としたトレンチである。現地状況から、第1トレンチの延長線から7m西へずらして設定した。

第Ⅱ2層上面を精査し、さらに正確を期すため、E5h0区の南側1mを残し、他をさらに15cm掘り下げて確認している。

また、西壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①時期不明

(i) 土坑

第15号土坑 (SK15, 第33図)

位置 E5h7区に位置し、第Ⅱ2層及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、径140cmの円形と考えられる。

重複関係 第5号性格不明遺構を切っている。

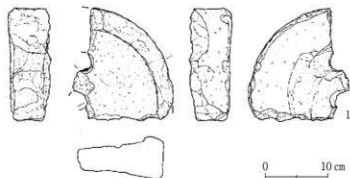
土層 覆土は3層からなり、不規則な堆積状況の人為堆積である。なお、中世の遺構であれば第Ⅱ2層を切っているはずであるが、セクションからそれは確認できない。

土層解説

- 9 黒褐色 (10YR 2/3) ローム小ブロック極少量、ローム粒子中量、Nt-S少量、Nt-I極少量、締まり強、粘性弱
- 10 黒褐色 (10YR 2/2) ローム小ブロック極少量、ローム粒子少量、締まり中、粘性中
- 11 暗褐色 (10YR 3/3) ローム粒子中量、Nt-S少量、礫少量、締まり強、粘性強

遺物出土状況 石製品1点(石臼1)が出土している。(第34図、第16表)

所見 時期を特定するには至らず、性格も不明である。



第34図 第15号土坑出土遺物実測図

第16表 第15号土坑出土遺物観察表

挿図 番号	器種	径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第34図 1	石臼 (上臼)	[29.0]	(6.6)	(1570)	凝灰質 砂岩	中央に軸受け孔(径3.5cm、磨面から3.3cmほどが軸との摩擦により膨らむ)。軸受け孔から心之間で5.8cmほど離れて供給孔(径3.0cm)。上面は平坦で玉縁(幅約3cm、高さ1cm以上)をもつ。磨面は約1cmのふくみを持つ。供給孔からは左向きのものぐばりを持つ(使用時回転は反時計回り)。目はない。割れ面に柄孔の一部と思われる凹み	覆土層	—	PL33 残存率約25% 、穀白か

第45号土坑 (S K 45, 第33図)

位置 E5hs区に位置し、第II 2層及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びているため長軸の長さは不明。短軸は90cm、長軸の方はN-84°-Eの楕円形と考えられる。

重複関係 南側の第46号土坑及び第5号性格不明遺構を切っている。

土層 覆土は4層からなり、不規則な堆積状況の人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色(10YR 3/1) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S少量、Nt-I少量、灰色粘土小ブロック少量、締まり強、粘性中
- 2 黒褐色(10YR 3/2) ローム粒子少量、Nt-S少量、Nt-I少量、灰色粘土小ブロック少量、締まり強、粘性中
- 3 褐色(10YR 4/1) 粘土小ブロック多量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S少量、粘土中ブロック少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中
- 4 黒褐色(10YR 2/2) 灰色粘土小ブロック多量、灰色粘土中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり弱、粘性強

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため、時期・性格は不明である。

第46号土坑 (S K 46, 第33図)

位置 E5hs区からE5ho区に位置する。第II 2層及び西壁のセクションで確認できる。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるため規模は不明だが、隅丸長方形と考えられる。

重複関係 第45・47・48号土坑に切られ、第5号性格不明遺構を切っている。

土層 覆土は4層からなり、不規則な堆積状況の人為堆積である。

土層解説

- 5 黒褐色(10YR 3/1) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中
- 6 黒褐色(10YR 3/2) ローム粒子少量、粘土小ブロック少量、ローム小ブロック少量、Nt-S少量、締まり中、粘性中
- 7 褐色(7.5YR 4/1) 灰色粘土中ブロック多量、灰色粘土小ブロック多量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、灰色粘土大ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性強
- 8 灰黄褐色(10YR 4/2) 灰色～黄灰色粘土中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、灰色～黄灰色粘土小ブロック少量、ローム中ブロック極少量、Nt-S極少量、灰色～黄灰色粘土大ブロック極少量、締まり中、粘性強

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため、時期・性格は不明である。

第47号土坑 (SK47, 第33図)

位置 E5h9区に位置し、第II2層で確認できた。

規模と形状 東部がトレンチ外に延びるため正確な規模は不明だが、軸が190cmの隅丸長方形と考えられる。

重複関係 西側の第48号土坑に切られ、同じく西側の第46号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため、時期・性格は不明である。

第48号土坑 (SK48, 第33図)

位置 E5h9区に位置し、第II2層で確認できる。

規模と形状 長軸の長さは不明、短軸は95cm、長軸の向きはN-52°-Eの隅丸長方形と考えられる。

重複関係 第46・47号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため、時期・性格は不明である。

(ii) 性格不明遺構

第5号性格不明遺構 (SX5, 第33図)

位置 E5h7区からE5h0区に位置する。第III層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 規模・形状とも不明である。わずかに確認できる北壁のプランの走向はN-55°-Wとなるため、遺跡の所在する低位段丘面の等高線と平行になる可能性がある。

重複関係 第15・45・46号土坑に切られている。

土層 覆土は1層からなり、堆積状況は不明である。なお第II2層及び第II3層を切っていることが確認できず、縄文以前の所産の可能性があるが不明瞭である。

土層解説

12 暗褐色(10YR3/3) ローム粒子多量、Nt-S多量、Nt-I中量、締まり中、粘性強

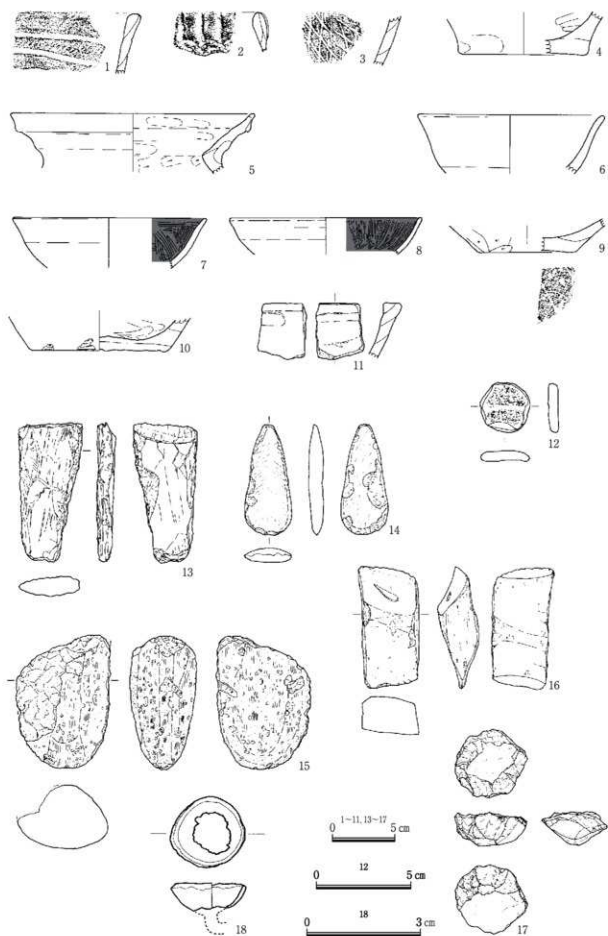
遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期不明である。第4トレンチで確認された第4号性格不明遺構の指向する位置にあるため同一の溝となる可能性がある。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第35図, 第17表)

遺物出土状況 土器229点、石器162点、鉄・銅製品3点が出土している。うち、縄文土器3点(深鉢3)、弥生土器1点(壺1)、土師器6点(壺1、高台付杯3、甕2)、瓦質土器1点(鉢1)、土製品1点(土器片円盤1)、石器・石製品5点(石棒1、小形磨製石斧1、磨石1、砥石1、石核1)、銅製品1(煙管1)を掲載する。南にある第4トレンチ付近の出土遺物は縄文晩期に偏っていたが、第6トレンチでは古墳時代前期や近世といった幅広い時代の遺物が確認できる。



第35図 第6トレンチ出土遺物実測図

第17表 第6トレンチ出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第35図											
1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— (3.4) [16.0]	外反気味、わずかに外傾。外面横走沈線2条、沈線間に縄文を残し、上下は磨り消す。内面ミガキ	石英・黒色砂粒少量、褐色砂粒微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色、内部褐色	Ⅱ層	—	PL34後期後葉
2	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	内傾。肥厚させた複合口縁外面にヘラ状工具を左から右に動かしながらキザミ(約15mmピッチ)。胴部結節縄文、内面ナデ	石英中量、黒色砂粒・灰色砂粒少量、雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色、内部灰白色	Ⅱ層	—	PL34後・晩期の粗製土器
3	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— —	わずかに内彎気味、外傾。外面網目状燃糸文、内面ナデ	石英少量、黒色砂粒微量	良好	にふい黄褐色	E5b6、Ⅱ層	—	PL34後・晩期の粗製土器
4	弥生土器	壺	胴～底部、5%以下	— — [10.0]	平底から外傾して立ち上がる胴部。内外面横位のナデ	石英中量、チャート・黒色砂粒・灰色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色、内面灰白色・灰褐色、内部黒色	E5b7、Ⅱ層	—	PL34
5	土師器	壺	口縁～頸部、5%以下	— — [19.0]	内彎気味・外傾。複合口縁。口縁部内外面ヨコナデ、頸部内面ヘラケズリ	石英少量、チャート・灰色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面にふい黄褐色、一部明赤褐色、内面黒褐色	E5b4、Ⅱ層	—	PL34古墳時代前期
6	土師器	高台付杯	口縁～体部、10%	— (4.9) — [14.5]	内彎・外傾して立ち上がり、口縁部で外反。内外面ろくろナデ	石英中量、チャート・黒色砂粒・灰色砂粒・雲母細粒微量	やや不良	にふい黄褐色	E5b8、Ⅱ層	—	PL34高台付は器形から推定
7	土師器	高台付杯	口縁～体部、10%	— (4.0) — [15.0]	内彎・外傾して立ち上がり、口縁部で外反。外面ろくろナデ、内面ミガキ、のち黒色処理	精良。石英少量、チャート・黒色砂粒・褐色砂粒(シャモットか)微量	良好	外面褐色・にふい黄褐色、内面黒色	E5b8・b9、Ⅱ層	—	PL34高台付は器形から推定
8	土師器	高台付杯	口縁部、5%	— — [15.0]	内彎、外傾。外面ろくろナデ、内面ミガキ、のち黒色処理	石英・黒色砂粒・灰色砂粒少量	良好	外面灰黄褐色、内面黒色	排土中	—	PL34高台付は器形から推定
9	土師器	壺	体～底部、5%	— (2.6) [8.0]	底部木葉痕。体部は大きく外傾して立ち上がる。体部外面横位のケズリ、内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒微量	良好	外面赤褐色、内面にふい褐色	排土中	—	PL34
10	土師器	壺	体～底部、5%	— — [11.0]	平底から内彎気味に外傾して立ち上がる体部。体部外面横位のケズリ、のち泥漿塗布。底面泥漿塗布。内面ナデ	精良。石英少量、チャート・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	にふい黄褐色、底面黒褐色	E5b4、Ⅱ層	—	PL34底面に穀物圧痕か
11	瓦質土器	鉢	口縁部、5%以下	— — —	わずかに内彎気味、外傾。胴部内側に粘土紐を貼り付け、内側に三角形状に突出させるとともに端部を平坦面にする。内外面横位のナデ。内面に輪積み痕	石英(礫含む)・メノウ(礫含む)少量、黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色、外面一部褐色、内部灰白色	ⅠX、ⅠB層	—	PL3415C後半～16C

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第35図 12	土器片 円盤	26	26	—	(5.2)	縄文土器胴部片を転用か。外面に沈線が一条。周縁部磨りにより円盤として整形	石英少量、メノウ（礫含む）・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面にふい 橙色	2区、 I B層	—	PL34 一部欠損

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第35図 13	石棒	(11.1)	(5.0)	(1.6)	(11.8)	粘板岩	折損。節理面で剥離。両側面に調整(敲打)痕。石棒先端部か	E5h4, II層	—	PL34 調整法から石棒と推定
14	小形磨 製石斧	5.8	2.5	0.8	17.3	粘板岩	表裏両面を研磨し整形(擦痕は長軸に対し主に斜め方向)。両面先端部の軸方向の擦痕は使用痕か	3区、 I B層	—	PL34 完存
15	磨石	(10.6)	(7.4)	5.1	(379.7)	多孔質 安山岩	長楕円形で断面三角形の礫を利用。1面に使用痕集中。他の面の擦痕は調整痕か	E5h7, II層	—	PL34 一部折損
16	砥石	9.8	4.8	3.1	160.4	変成岩	使い減りが激しく、断面変形状。図左上の砥面のくぼみは後世の傷	E5h8, II層	—	PL34 ほぼ完存
17	石核	5.1	5.7	2.4	77.3	チャート	表裏両面に連続した剥離	E5h9, II層	—	PL34 完存

挿図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第35図 18	煙管	(1.9)	1.8	(0.7)	(2.0)	青銅	雁首。半球状。口縁やや肥厚	1区、 I B層	—	PL34 下半欠損、近世か

(3) 所見

再葬墓遺構は確認されなかった。

第5号性格不明遺構はプランが確認できておらず、今後の調査では付近に追加のトレンチを設定し、確認していく必要がある。この遺構の重要性は第4号性格不明遺構と同様である。

なお、第6トレンチ付近ではセクション観察が極めて困難な土質であった。付近の追加調査には、より慎重にあたらなくてはならない。

6 第7トレンチ (第36図)

(1) 調査概要

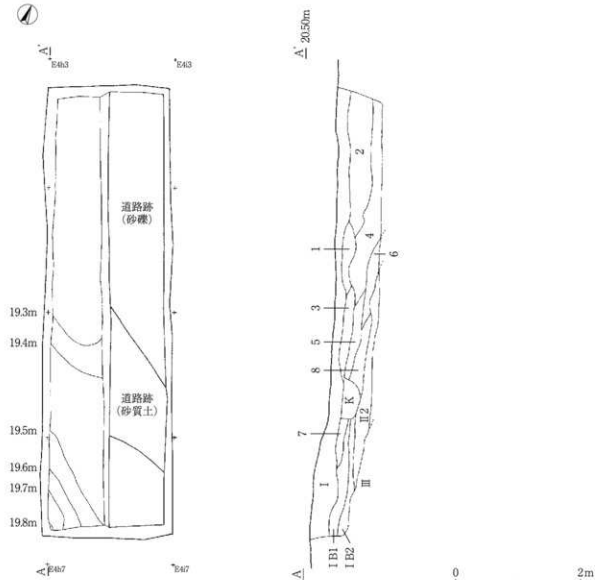
E4h3区からE4h6区に設定した、長さ8m、幅2mのトレンチである。今回の調査においては、ほとんどのトレンチを水田(陸田)の中に設定したが、唯一第7トレンチは現況雑種地の場所に設定している。地権者の話によるとここはかつて道路として使われていたとのことであり、地形改変が想定される中、この位置に設定したのは低位段丘の北端を掘むためである。

また西壁から100cm幅のサブトレンチを入れてセクションを確認している。

セクションで示した土層について解説する。基本土層以外はすべて現代の客土である。

土層解説

- | | | |
|---|--------------------------|--------------------|
| 1 | オリブ黒色 (5Y3/2) | 砂礫多量、締まりなし。2と3の混合か |
| 2 | 淡黄色砂礫 (7.5Y8/3と5Y8/6の混合) | かたい |
| 3 | オリブ黒色 (5Y3/2) | 砂礫多量 |
| 4 | オリブ黒色 (7.5Y3/1) | 粘性強 |
| 5 | 黒色 (7.5Y2/1) | 砂質土 |
| 6 | オリブ黒色 (7.5Y3/2) | 5と一連と思われるがやや色調が淡い |
| 7 | 灰色 (5Y4/1) | 砂質土 |
| 8 | オリブ黒色 (7.5Y3/2) | 砂質土 |



第36図 第7トレンチ実測図

(2) 遺構・遺物

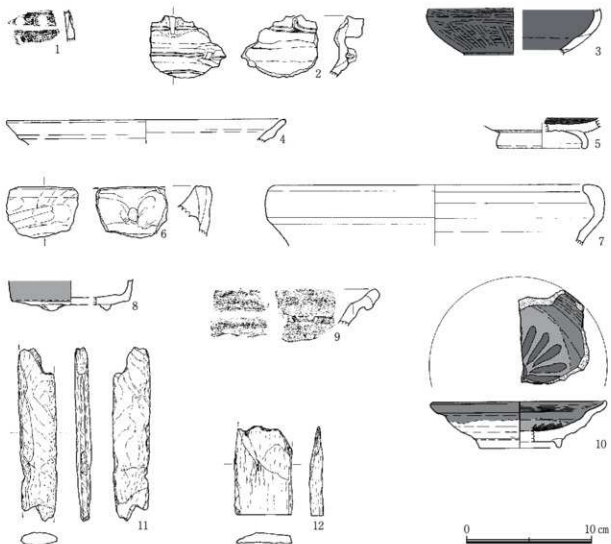
A 遺構とそれに伴う遺物

第7トレンチでは遺構は確認されなかった。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第37図, 第18表)

遺物出土状況 土器44点, 石器35点が出土している。うち, 縄文土器2点(深鉢1, 鉢1), 土師器3点(椀2, 壺1), 瓦質土器2点(内耳鍋1, 焙烙1), 陶器3点(筒形香炉1, 播鉢1, 青織部皿1), 石器2点(石剣1, 砥石1)を掲載する。10は織部焼で16世紀末~17世紀初頭である。これら第7トレンチの全ての遺物は, 表土及び客土中からの出土である。



第37図 第7トレンチ出土遺物実測図

第18表 第7 トレンチ出土遺物観察表

検出 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第37図 1	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	内彎気味、内傾。外面に連続 刺突。内面ナデ	石英・黒色砂 粒少量、褐色 砂粒・雲母細 粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐色	I層	—	PL35 大割C2 式
2	縄文 土器	鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎・外傾する胴部から外反 し突起を付ける口縁部。口唇 部外面に上と外に張り出し 突起を付け左右に沈線1条。 胴部から口縁部への移行部 にも位置を変えて同様の突 起と沈線。内面口縁と突起に 沿った沈線。内外面横位のナ デ	石英少量、メ ノウ・黒色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐色	襷腰上 面	—	PL35 大割C2 式
3	土師器	碗	体部、 10%	— —	最大径13.4cm。大きく外傾 する体部下半から彎曲して 内彎・内傾。外面ミガキ。内 面ナデ。内外面黒色処理	石英少量、灰 色砂粒・海綿 骨針微量	普通	内外面黒色。 内部灰褐色	排土中	—	PL35
4	土師器	壺	口縁部、 5%以下	[22.0] —	有段口縁。大きく外傾。内外 面ナデ	石英少量、灰 色砂粒・長石 微量	普通	外面黄灰色。 内面黒色	I層・砂利 層	—	PL35
5	土師器	碗	底部、 10%	— — [7.0]	回転ヘラケズリの平底に高 台貼り付け。のちロクロナ デ。高台は足高で内彎。内面 ミガキ。のち黒色処理	石英少量、メ ノウ・黒色砂 粒・雲母微量	良好	サンドイッチ 状。内外面黒 褐色。表面付 近にぶい黄 褐色。内部褐 灰色	I層	—	PL35
6	瓦質 土器	内耳 竈	口縁部、 5%以下	[34.0] — —	内彎気味、外傾。口縁部内側 を肥厚させ、回転ナデ後、内 耳1個を付ける。内耳周囲及び 外面指ナデ	石英・褐色 雲母細粒 微量	良好	内外面黒色。 内部灰白色	I層	—	PL35 15C後半 ～16C
7	瓦質 土器	焙烙 か	口縁部、 5%以下	[26.0] — —	外反・外傾する体部から屈曲 して内彎・内傾する口縁部。 口縁部肥厚。内外面ロクロナ デ。口縁部端部から外面ロク ロ回転によるミガキ状のナ デ	精良。石英・ 褐色砂粒微 量	良好	内外面にぶ い赤褐色。内 部褐色	排土中	—	PL35 近世後半
8	陶器	筒形 香印	体～底 部、 10%	— (2.9) [9.2]	ロクロ成形・調整(外面～底 部ケズリ・内面ナデ)し、脚 貼り付け。外面鉄釉。内面自 然釉	石英多量、雲 母微量	良好	胎土灰白色。 釉黄褐色	I層	—	PL35 瀬戸美濃 系、近世
9	陶器	襷鉢	口縁部、 5%以下	— — —	外反・外傾。頸部内面に稜。 口縁部肥厚。内面にすり目8 条(単位6条以上)。全体に ぶい赤褐色釉(鉄釉か)	石英多量、黒 色砂粒少量	良好	内外面にぶ い赤褐色。内 部褐色	I層	—	PL35
10	陶器	青織 部皿	口縁～ 底部、 25%	[13.5] 3.6 [6.2]	ロクロ成形・調整(口縁部内 面カキメ、体部ナデ、底部ケ ズリ)し、三角高台を貼り付 け。内面白釉。口縁部内外面 緑釉。見込みに鉄絵花文	石英多量、長 石少量	良好	胎土灰白色。 釉緑色・灰白 色・暗褐色	I層	—	PL35 織部焼。 16C末～ 17C初頭

検出 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第37図 11	石剣	(13.8)	29	1.1	(65.8)	粘板岩	短冊状の礫を利用し、一部は敲打、一個面 は磨りにより調整	表土・ 砂利層	—	PL35 未成品。 折損
12	砥石	(7.0)	44	(1.1)	(48.7)	粘板岩	短冊状の礫を切断(図下面)して利用。表 面と1側面に砥面。裏面は剥離	表土・ 砂利層	—	PL35 中央部で 折損

(3) 所見

地権者の話のとおり、砂礫等で造成された痕跡が確認でき、道路が走っていたことが窺える。道路の走向はN-63°-Wである。しかし、その下から第Ⅱ層と第Ⅲ層が確認できたことは意義深い。第Ⅲ層は北に向かって傾斜していることがはっきり確認でき、遺跡の所在する低位段丘の北の限界であると確認できた。かつてこの道路は低位段丘の北の縁を走っていたのだろう。

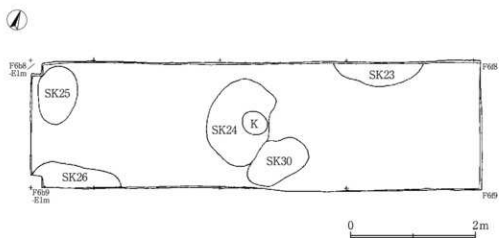
7 第8トレンチ (第38図)

(1) 調査概要

F668区からF678区に設定した、長さ7.5m、幅2mのトレンチである。第1トレンチの東側に、第1トレンチと直交方向に設定している。主目的は、再葬墓遺構の分布範囲の東限を掴むことである。

第Ⅱ層上面で遺構の確認に努めた。

なお、第8トレンチで確認された再葬墓遺構5基（第23～26・30号土坑）については、今回は遺構保護のため掘り込みはしておらず、確認された土器は取り上げずに、山砂を2～5cmほど土器上を含む土坑全体に敷き詰め、水をかけて数分間馴染ませた後、掘り上げた表土をかけて埋め戻している。



第38図 第8トレンチ実測図

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第23号土坑 (SK23, 第39図)

位置 F6as区, F6esに位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。覆土は黒褐色土で、遺構外よりローム粒子の混入も少なく、やや黒味が強いので判別できた。

規模と形状 楕円形になるものと考えられるが、大部分がトレンチ北側へ延びている。北壁で確認される長さは144cmである

遺物出土状況 密集して出土していて個体識別が難しいが、遺構確認面には3点の土器が確認できる。土器2は土器1にかぶさる。なお、土器1～3はいずれも取り上げていない。

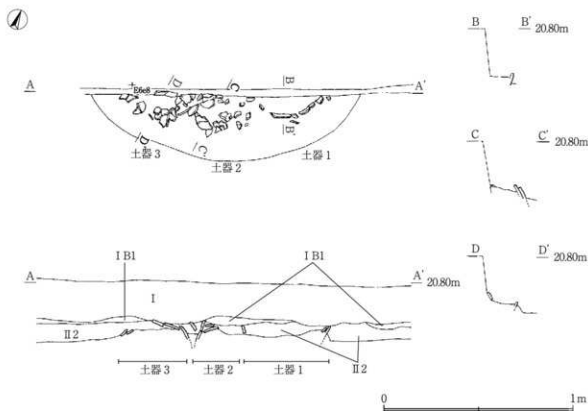
土器1 壺形土器であり、最も東側で確認された。確認できる径は33cmである。

土器2 壺形土器であり、中央で確認された。

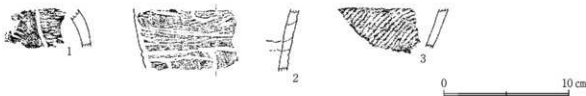
土器3 壺形土器であり、最も西側で確認された。

その他、調査中に覆土から土器31点、骨片1点が出土している。うち、縄文土器2点(小形深鉢1、深鉢1)、弥生土器1点(壺1)を掲載する。(第40図, 第19表)

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓と考えられる。



第39図 第23号土坑実測図



第40図 第23号土坑出土遺物実測図

第19表 第23号土坑出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
40図 1	弥生 土器	壺	胴部、 5% 以下	— — —	内埴、内傾。沈線で区画、横 位の短条痕文。内面ナデ	石英粒少量、 黒色砂粒・雲 母細粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄橙色、 内部褐色	覆土中	—	PL35 中期
2	縄文 土器	小形 深鉢 か	胴部、 5% 以下	— — —	直線的、わずかに外傾。現存 部径約12cm。外面横位の 墨糸文。沈線で区画し一部磨 り消し。内面縦位のナデ。輪 積み痕	石英粒少量、 黒色砂粒微量	二次焼 成あり	灰褐色。二次 焼成部分黒 褐色	覆土中	—	PL35 炭化物 付着
3	縄文 土器	深鉢	胴部、 5% 以下	— — —	内埴気味、外傾。外面縄文、 内面丁寧な横位のナデ。輪積 み痕で剥離	石英粒中量、 黒色砂粒少量、 金雲母微 粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面暗灰 黄色。内面に ふい橙色、内 部褐色	覆土中	—	PL35 後・晩期 粗粒土器

第24号土坑 (SK24, 第41図)

位置 F6c8区、F6d8区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸133cm、短軸99cm、長軸の方位N-5°-Wの不整な楕円形である。土坑中央や東側に径35cmの円形の攪乱がある。

遺物出土状況 遺構確認面には4点の土器が確認できた。土器1～4はいずれも取り上げていない。

土器1 条痕文の壺形土器である。確認された4点の壺形土器のうち最も北側にあり、底部を北東、頸部を南西に向けてN-118°-Wに倒れている。体部の南面する部分が攪乱により失われている。

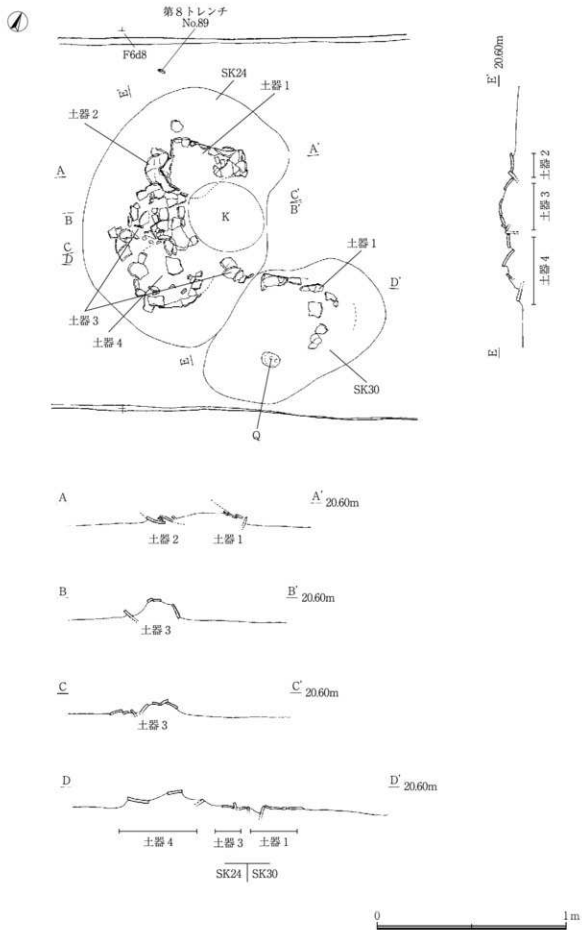
土器2 縄文を施文した壺形土器である。土器1の下に隠れており、土器1頸部西側にわずかに露出する。

土器3 口縁刻目の条痕文の壺形土器である。土器1の南側、土器4の北側にあり、東半分が攪乱されているが、口縁～胴部が確認できる。

土器4 条痕文の壺形土器である。確認された壺形土器のうち最も南側にある。

その他、調査中に覆土から土器91点、石器1点が出土している。うち、弥生土器1点(壺1)を掲載する。(第42図、第20表)

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓墓塚と考えられる。



第41図 第24・30号土坑実測図



第42図 第24号土坑出土遺物実測図

第20表 第24号土坑出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第42図 1	弥生土器	壺	頸~肩部、5%以下	— — —	外反、大きく内傾。外面は頸部下半に横位の凹線、肩部に右下がりの弧状の条痕文。内面粗いナデ	石英・長石粒子少量	良好	ぶい、橙色	覆土中	2片	PL35中期

第25号土坑 (SK25, 第43図)

位置 F6b8区に位置し、第II2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸92cm、短軸63cm、長軸の方N-10°-Wの楕円形である。

遺物出土状況 遺構確認面には2点の土器が確認できる。しかし確認できた壺形土器は、耕作により上部が攪乱により失われており状態が良くない。これにより、第8トレンチにある外の再葬墓塚と比較して第25号土坑の遺構底面が浅いものと推測される。土器1・2は取り上げていない。

土器1 壺形土器である。南側にあり、上部が攪乱により失われている。確認できる径は25cmである。

土器2 壺形土器である。北側にあり、上部が攪乱により失われている。確認できる径は39cmである。

その他、調査中に覆土から土器31点が出土している。うち、縄文土器2点（小形浅鉢1、鉢1）、弥生土器1点（壺1）を掲載する。（第44図、第21表）

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓塚と考えられる。

第26号土坑 (SK26, 第45図)

位置 F6b8区、F6c8区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ南側へ延びるため、規模・形状は不明である。

遺物出土状況 遺構確認面には4点の土器が確認できる。土器1~4は取り上げていない。

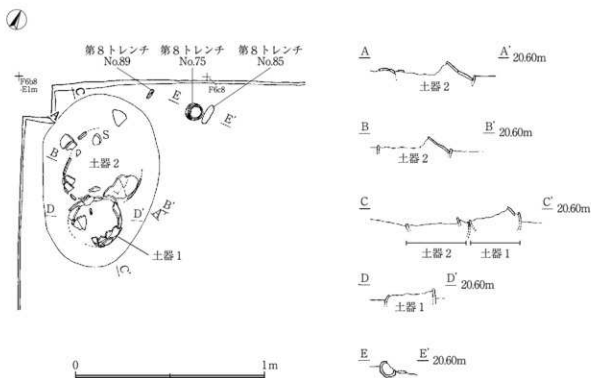
土器1 壺形土器であり、底部を北、頸部を南に向けて（N-170°-E）に倒れている。

土器2 壺形土器であり、最も西側で確認されている。

土器3 最も東側で確認されている。ミニチュア土器で径は9cmである。

土器4 土器2の北側で確認されている。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓塚と考えられる。



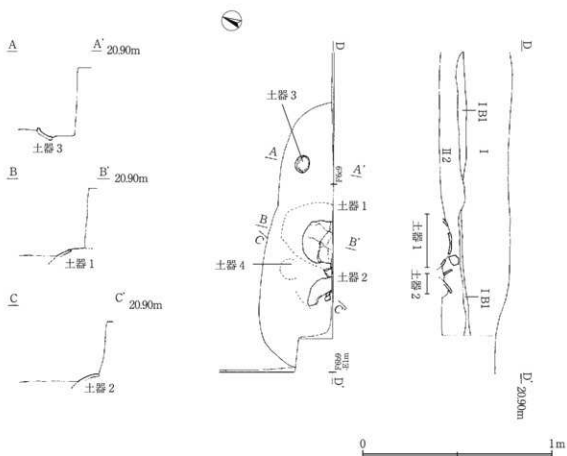
第43図 第25号土坑実測図



第44図 第25号土坑出土遺物実測図

第21表 第25号土坑出土遺物観察表

採掘番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第44図 1	弥生土器	壺	胴部上半、5%以下	—	外反気味、内傾。外面縦位の柔稜文、内面横位の柔稜。のち粗いナデ	石英・長石粒少量、雲母微細粒微量、褐色粒子少量	良好	サンドイッチ状。外面粉色、内面に赤い褐色。内部黒褐色	覆土中	—	PL35 中期
2	縄文土器	小形浅鉢	口縁部、5%以下	—	波状口縁。口唇部突起に凹み、外面突線に刺突。山の裾部に突起を付け左右に沈線。内面山に沿った沈線。ナデ	石英・長石粒少量、雲母微細粒微量、子煙微量	良好	にぶい黄橙色	覆土中	—	PL35 晩期
3	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	平縁。口縁端部外側に短い突線貼り付け。外面縄文地文に横走沈線。2段目に刺突。内面ナデ	砂粒少量、雲母微細粒微量	やや不良。焼成甘い	灰黄褐色	覆土中	—	PL35 後・晩期



第45図 第26号土坑実測図

第30号土坑 (SK30, 第41図)

位置 F6d8区, 第24号土坑の東に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸103cm, 短軸63cm, 長軸の方位N-7°-Eの楕円形である。

遺物出土状況 遺構確認面には1点の土器が確認できた。

土器1 条痕文を施した壺形土器であり, 底部を西南西, 頸部を東北東に向けて(N-72°-E)倒れた状態で確認された。

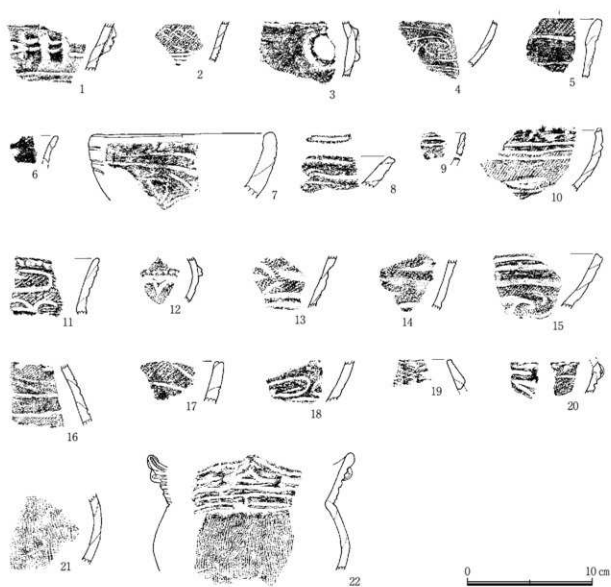
その他, 石器1点(凹石1)も確認したが, いずれも取り上げはしていない。

所見 出土遺物や出土状況から, 弥生時代中期の再葬墓と考えられる。

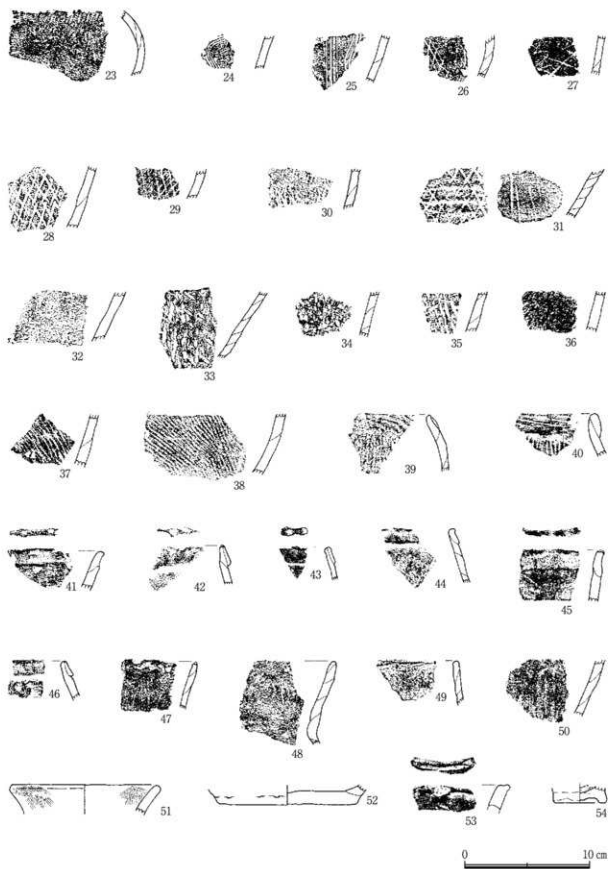
B 遺構外出土遺物(第46~49図, 第22表)

遺構外で確認された遺物について解説する。

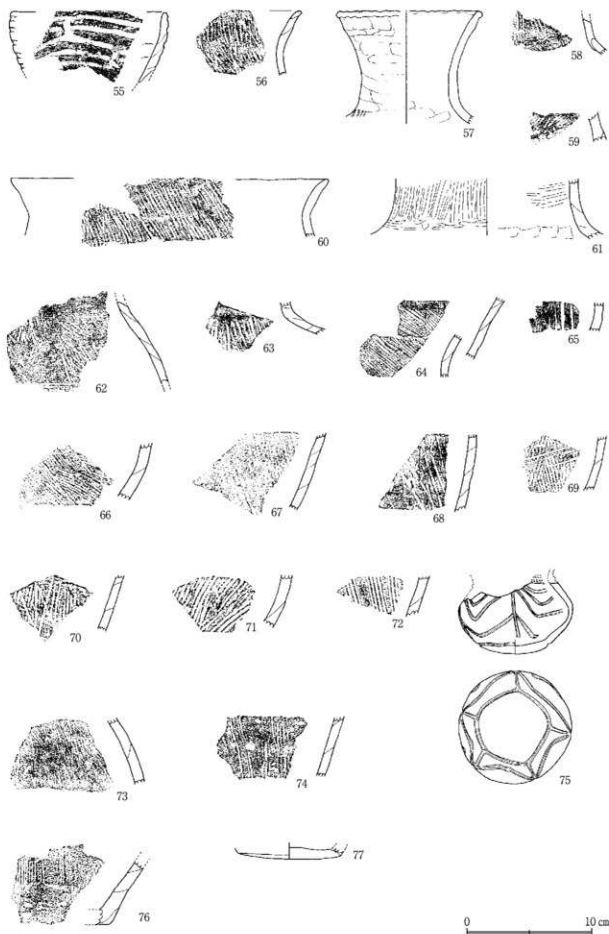
遺物出土状況 土器1,251点, 石器89点, 鉄製品2点が出土している。うち, 縄文土器54点(深鉢28, 小形鉢5, 鉢9, 小形壺2, 小形浅鉢1, 壺5, 浅鉢1, 小形深鉢1, 不明1, 小形台付鉢1), 弥生土器23点(浅鉢1, 深鉢1, 壺19, 小形壺2), 土師器3点(小形壺1, 甕1, 高台付坏1), 陶器1点(皿1), 土製品2点(土器片円盤2), 石器・石製品7点(石棒3, 磨石1, 石錘2, 管玉1)を掲載する。晩期の縄文土器が多く出土し, 弥生前期とみられる土器も出土している点は, 縄文晩期と再葬墓の関連性において重要である。また耕作により攪乱されたとみられる弥生土器が散乱しているが, 遺構内にある壺形土器のいずれかと同一であるかの確認はできなかった。



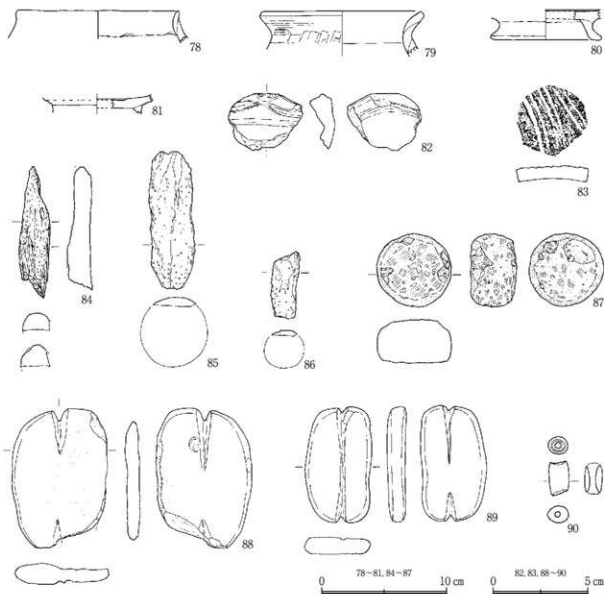
第46図 第8トレンチ出土遺物実測図(1)



第47図 第8トレンチ出土遺物実測図(2)



第48図 第8トレンチ出土遺物実測図(3)



第49図 第8トレンチ出土遺物実測図(4)

第22表 第8トレンチ出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
1	縄文土器	深鉢	胴部上半、5%以下	—	外反・外傾。ヘラ状工具による鋭い沈線を施文後縦長の突起を貼り付け横位のキザミ2条(貼付瘤)。内面横位のミガキ	石英少量、黒色砂粒・褐色砂粒・金雲母細粒微量	良好、焼けムラ	外面にぶい黄橙色・褐灰色、内面黒色	F6e8, II層	—	PL36 後期末～晩期初頭
			胴部、5%以下	—	外傾。下半わずか内傾、上半外反気味。外面結節縄文。下位に横走沈線3条、赤彩。内面ナデ	石英少量、メノウ・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰褐色、内面にぶい褐色、内部褐灰色	F6d8, II層	—	PL36 大洞BC式
			胴部上半、5%以下	—	内傾・わずか外傾する下部から屈曲して上部は外反・内傾。外面横位の指ナデ、斜位のヘラケズリ、のち環状突起貼り付け。内面横位・斜位の指ナデ	石英少量・メノウ・チャート(輝含む)、黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい橙色。内面にぶい黄橙色	F6b8・c8, II層	—	PL36 本堂遺跡に類似例

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第46図											
4	縄文 土器	鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面細い沈線に よる雲文。内面調整灰化物 付着により不明	石英少量、メ ノウ・黒色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	外面灰褐色、 内面黒褐色	F6e8、 II層	—	PL36 晩期前 葉。内面 に灰化物 付着
5	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎気味で外傾する胴部から 外反する口縁部。口縁部肥 厚。外面縄文を地文に横走沈 線と磨消縄文により口縁部 と胴部に文様帯を作る。内面 横位のナデ	石英少量、メ ノウ・チャー ト・雲母細粒 微量	良好	外面極暗赤 褐色。内面 にふい赤褐色	F6b8・ c8、 II層	—	PL36 後期末～ 晩期初頭
6	縄文 土器	小形 鉢	口縁 部、 5%以下	— — —	外反、外傾。外傾接合。口縁 部を外に肥厚させ縄文施文。 頸部ナデ、内面ナデ	石英少量、メ ノウ・黒色砂 粒微量	良好	内外面褐色	I層	—	PL36 弥生中期 の可能性
7	縄文 土器	小形 鉢	口縁 部、 5%以下	[144] (52)	内彎、外傾。粗製。器壁厚い (12mm前後)。外面横走沈線2 条と三角形の沈線。内面横 位のナデ	石英（礫含 む）少量、メ ノウ・チャー ト（礫含む） 砂岩塊・褐色 砂粒・雲母細 粒微量	普通。 焼けム ラ	外面にふい 黄褐色。内面 灰黄褐色	F6b8・ c8、 II層	—	PL36 安行3C 式
8	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%以下	— — —	わずか外反気味。大きく外 傾。口縁端部に沈線。外面波 状の沈線2条。内面丁寧な ナデ	石英・メノウ 少量。褐色 砂粒・泥岩？ 礫・雲母微量	普通。 焼けム ラ	内外面褐灰 色。一部灰褐 色	F6d8、 II層	—	PL36 安行3C 式
9	縄文 土器	小形 鉢	口縁 部、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面縄文を地文 に横走沈線2条。内面横走沈 線1条施文後ミガキ。焼成後 内側からの片側穿孔。修理孔 か	石英・メノウ 少量。褐色 砂粒・雲母細粒 微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ふい橙色。内 部褐灰色	F6d8、 II層	—	PL36
10	縄文 土器	鉢	口縁～ 胴部、 5%	— — —	内彎、外傾。口縁端部に浅い 沈線。端部外側にB突起と棒 状工具によるキザミ。口縁部 外面ケズリ。胴部無筋縄文を 地文に横走沈線3条。下位に 磨消縄文手法による三叉文。 内面ナデ。一部輪積み痕	石英少量、砂 岩塊・黒色砂 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色。 内部褐灰色	F6c8、 II層	—	PL36 晩期中葉
11	縄文 土器	鉢	口縁～ 頸部、 5%以下	— — —	頸部で屈曲して直線的に大 きく外傾する口縁部。端部で 外面にヘラ状工具による連 続鋭突。下位に縄文を地文に 沈線区画。弧状沈線。一部 磨消。内面ミガキ	石英（礫含 む）少量。チ ャート・メノ ウ・雲母細粒 微量	普通	内外面褐灰 色。一部灰白 色	F6b8・ c8、 II層	—	PL36
12	縄文 土器	小形 壺	胴部、 5%以下	— — —	強く内彎し、外傾から上部で 内傾。最大径付近に横位の隆 帯を貼り付け、細い籐状の工 具で連続鋭突。隆帯上に下向 きの弧状沈線。下は縄文を地 文に上向きの弧状沈線による 区画。内面ミガキ	精良。石英・ 長石・褐色 砂粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面褐灰 色。内面灰黄 褐色。内部に ふい橙色	F6b8、 II層	—	PL36
13	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	わずか内彎気味。外傾。外面 縄文を地文に太い沈線で区 画。入組文をつくる。内面ナ デ	石英少量、メ ノウ・チャー ト・褐色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	外面黒色。内 面灰黄褐色・ 褐灰色	F6c8、 II層	—	PL36 前浦式か
14	縄文 土器	鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面縄文を 地文に太い沈線及び磨消縄 文で三角文。内面ミガキ	石英中量、メ ノウ・雲母細 粒・海綿骨針 微量	やや不 良	サンドイッチ 状。内外面黒 褐色。内部明 赤褐色	F6c8、 II層	—	PL36 前浦式

挿図番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第46図	15	縄文土器	口縁～胴部、5%	— — —	内埴、大きく外傾。外面縄文を地文に磨消縄文手法により雲形文。外面に輪積み痕。内面ナデ・粗いミガキ	石英・雲母少量	良好	サンドイッチ状、内外面黒褐色。器表近くにぶい黄褐色。内部黒灰色	F6d8、II層	—	PL36 大洞C2式
	16	縄文土器	肩部、5%以下	— — —	内埴、内傾。内面上端部で外反(頸部へ移行する様相と想定)。外面縄文を地文に磨消縄文手法による無文帯を作る。内面ミガキに近いナデ	石英・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面にぶい黄褐色	F6c8、II層	—	PL36 大洞C2式
	17	縄文土器	胴部、5%以下	— — —	内埴、外傾。縄文を地文に、沈線で区画し、一部磨り消し。内面ナデ	石英中量、雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状、内外面灰褐色。内部黒褐色	F6c8、II層	—	PL36 大洞C2式
	18	縄文土器	胴部上半、5%以下	— — —	わずかに内埴、外傾。波状口縁の下部、外面縄文を地文に沈線による区画文(雲形文?)、下位に横走沈線。内面ナデ、一部粗いミガキ	石英少量、メノウ・雲母細粒微量	やや不良、甘い	内外面にぶい黄褐色	F6c8、II層	—	PL36 大洞C2式
	19	縄文土器	口縁部、5%以下	— — —	直線的、内傾。複合口縁。外面沈線によるジグザグ文、内面ナデ	石英(確含む)少量、メノウ・雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色	F6d8、II層	—	PL36 大洞C2式
	20	縄文土器	胴部上半、5%以下	— — —	内埴、外傾。外面突起を付け左に横走沈線、突起下位に縦位の沈線(キザミ?)と三角文?、地文縄文か。内面ナデ	精良、石英・メノウ・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面灰黄褐色	F6c8、II層	—	PL36 大洞C2式
第47図	21	縄文土器	胴部、5%以下	— — —	下位外傾から内埴して上位内傾。器厚薄い(5.5mm)。外面細い燃糸文。内面ミガキ	石英少量、メノウ・泥岩礫・雲母細粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面黒褐色	F6b8、c8、II層	—	PL36 外面炭化物付着。22と同一個体
	22	縄文土器	口縁～胴部、5%以下	[160] (9.3) —	胴部下位外傾から内埴して上位内傾。頸部で屈曲し、口縁部直線的、外傾。波状口縁。端部やや外側に沈線。波頂部下左右に突起を付け沈線。波頂部下位は波形に沿う沈線による三角文、下位にα字状文。胴部外面細い燃糸文。内面ナデ、一部ミガキ	石英少量、メノウ・雲母細粒	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色・黒褐色。内部黒色	F6c8、II層	—	PL36 大洞A式か。内面炭化物付着。21と同一個体
	23	縄文土器	胴部、5%以下	— — —	強く内埴し、外傾から上部で内傾。胴部最大径22cm前後。外面縄文を地文に中位以下ナデ消し。内面横位の指ナデ、一部輪積み痕	石英(確含む)少量、砂岩礫・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部黒褐色	F6b8、II層	—	PL36 後・晩期粗製土器
	24	縄文土器	胴部、5%以下	— — —	直線的、外傾。外面タテの波状条線文。内面ナデ	石英(確含む)少量、チャート・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面明赤褐色。内部灰黄褐色	F6c8、II層	—	PL36 後・晩期粗製土器
25	縄文土器	胴部、5%以下	— — —	わずかに内埴、外傾。外面垂直・直線と縦位・波状の条線文。単位は微かなものも含めて5条。内面丁寧なナデ	石英少量、メノウ・チャート・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面にぶい褐色	F6c8、II層	—	PL36 後・晩期粗製土器	
26	縄文土器	胴部、5%以下	— — —	内埴、外傾。外面網目状燃糸文。内面ナデ	石英少量、メノウ・チャート・雲母細粒微量	普通	内外面にぶい黄褐色	I層	—	PL36 後・晩期粗製土器	

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第47図 27	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。外面縄文を地 文に網目状燃糸文2回施す。 内面ナデ	石英・凝灰岩 (礫含む) 少量, メノウ・ チャート・雲 母細粒微量	普通	外面にぶい 褐色, 内面褐 灰色	I層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
28	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。外面網目状燃 糸文。内面丁寧なナデ	石英少量, 長 石・メノウ・ 褐色砂粒・雲 母細粒・海綿 骨針微量	普通	外面黒色, 内 面灰黄褐色	F6d8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
29	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	内埴, 外傾。外面網目状燃糸 文, 内面ナデ	石英少量, 雲 母微量	普通	内外面黒褐 色, 一部灰褐 色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
30	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	内埴気味, 外傾。外面網目状 燃糸文, 内面ナデ	石英(礫含 む) 中量, メ ノウ(礫含 む) 少量, 雲 母細粒微量	普通	外面暗褐色, 内面黒褐色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
31	縄文 土器	鉢	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 大きく外傾。外面網 目状燃糸文, 輪積み痕を残 す。内面ナデ, ナデ前の条痕 3条(ヘラ状工具痕? 単位1 条)	石英(礫含 む) 少量, メ ノウ・雲母微 量	普通, 焼けム ラ	外面灰黄色・ にぶい黄褐色, 内面褐色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
32	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。外面網目状燃 糸文, 内面ヘラケズリのち ナデ	石英中量, メ ノウ少量, 雲 母細粒微量	普通, 焼けム ラ	内外面黒色・ にぶい黄褐 色	F6e8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
33	縄文 土器	鉢小	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 大きく外傾。大形の 頸に器厚い(5~6cm)。外面 絡状体圧痕文, 輪積み痕。 内面やや粗いミガキ	石英・メノウ (礫含む) 少 量, 砂岩・礫 ・雲母細粒微 量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色, 内 面灰褐色, 内 部褐色	排土中	—	PL36 後・晩期 粗製土器
34	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	わずかに外反気味, 外傾。外面 縄文, 内面丁寧なナデ	石英少量, メ ノウ・黒色 砂粒・褐色砂 粒・雲母細粒 微量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い褐色, 内面 にぶい赤褐色, 内部部褐色	I層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
35	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。外面燃糸文, 内面ナデ	石英少量, メ ノウ・チャ ート・雲母細 粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 褐色, 内部部 褐色	F6d8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
36	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	わずかに内埴気味, 外傾。外面 燃糸文, 内面ナデ	石英少量, メ ノウ・灰色砂 粒・雲母細粒 微量	普通	外面黒色, 内 面浅黄褐色	I層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
37	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	わずかに内埴気味, 外傾。外面 燃糸文, 内面ナデ	石英少量, メ ノウ・黒色 砂粒・雲母細 粒微量	普通	外面にぶい 黄褐色, 内面 灰黄褐色	I層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
38	縄文 土器	深鉢	胴部下 手, 5%以下	— — —	内埴, 外傾。外面燃糸文, 輪 積み痕。内面ナデ	石英少量, メ ノウ・黒色 砂粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色, 内 面にぶい褐色, 内部部褐色	F6e8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第47図 39	縄文 土器	鉢	口縁～ 胴部, 5%	— — —	内彎, 内傾。口縁部外面に薄い粘土帯を貼り付け縄文施文。胴部外面無文。内面斜位のナデ	石英少量, メノウ・雲母細粒微量	普通	内外面灰黄褐色	F6d8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
40	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	— — —	外反・内傾。複合口縁。肩部はほぼ直立。口縁部外面わずかに右下りの無文。胴部縦位の無文(原体は口縁部と別)。内面ナデ	石英(礫含む)少量, メノウ少量, 雲母細粒微量	普通	内外面にふい赤褐色	F6d8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
41	縄文 土器	小形 鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外反・内傾。口縁端部に不明瞭なキザミ。口縁部外面ナデにより器壁を薄くする。内面ナデ	石英(礫含む)少量, 灰色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐色	I層	—	PL36 後・晩期 粗製土器。45と同一個体の可能性
42	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外反気味, 内傾。複合口縁。端部に棒状工具によるキザミ。無文。内外面ナデ	石英少量, 長石・雲母微量	良好	全体赤褐色	F6b8・ c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
43	縄文 土器	小形 深鉢	胴部, 5%以下	— — —	内彎, 内傾。器壁薄い(約4mm)。複合口縁。口縁端部にキザミ(小波状)。内外面ナデ	精良。石英少量, メノウ・雲母細粒微量	良好	内外面にふい黄褐色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
44	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	— — —	直線的, 内傾。複合口縁。無文。口縁部外面横位のナデ。胴部斜位のヘラナデ, 内面ナデ	石英(礫含む)・メノウ・チャート(礫含む)少量, 雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい赤褐色。内面褐色。内部褐色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
45	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	— — —	胴部は直線的, 外傾。口縁部は外反。口縁端部に浅いキザミ。外面無文。横位のナデ。内面粗いミガキ	石英(礫含む)少量, メノウ・黒色砂粒・褐色砂粒(赤色顔料?)微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器。41と同一個体の可能性
46	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部, 5%以下	— — —	粗製。わずかに内彎気味, 内傾。複合口縁。無文。内外面ナデ	石英(礫含む)少量, 砂岩礫・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	内外面灰黄褐色	F6d8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
47	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに外反, 外傾。外面無文。縦位のヘラナデ, 内面横位のナデ。その後口縁端部に棒状工具で外側からキザミ。外面に泥塗塗布	石英少量, メノウ・チャート・海綿骨針微量	良好	外面明赤褐色。内面にふい黄褐色・褐色	F6c8, II層	—	PL36 後・晩期 粗製土器
48	縄文 土器	深鉢	口縁～ 頸部	— — —	内傾する胴部から頸部で屈曲してわずかに内彎気味に外傾して口縁部に至る。無文。外面斜位のナデ, 内面横位の指ナデ。内面頸部屈曲の上に明瞭な輪積み痕	石英少量, メノウ・泥岩か、礫・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	F6b8・ c8, II層	—	PL37 後・晩期 粗製土器
49	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	粗製。内彎気味, 内傾。外面無文。横位・縦位のナデ。内面横位の指ナデ, 輪積み痕顕著	石英(礫含む)少量, メノウ・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面にふい赤褐色。内部褐色	F6d8, II層	—	PL37 後・晩期 粗製土器
50	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	外傾。下半わずかに外反。上半内彎気味。外面縦位のヘラナデ, 内面斜位の指ナデ	石英(礫含む)少量, メノウ・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にふい黄褐色。内部褐色	F6d8, II層	—	PL37 後・晩期 粗製土器

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第47図	51	縄文 土器	壺 口縁 部、 5%以 下	[120] — —	外反・内傾。無文。内外面ミ ガキ	石英少量、メ ノウ・泥岩 礫・褐色砂 粒・海綿骨針 微量	普通	外面黒褐色、 内面黒色	F6c8、 II層	—	PL37
	52	縄文 土器	不明 底部、 5%	— — —	平底。周縁部に粘土紐を載せ て胴部を作る。内外面ナデ、 輪積み痕	粗悪。石英中 (礫含む) 量、 メノウ・泥 岩礫・少量	やや不 良、焼 けムラ	サンドイッチ 状。外面黒褐 色・褐灰色、 内面にぶい 黄褐色・黒褐 色。内部褐灰 色	F6c8、 II層	—	PL37 後・晩期 粗製土器
	53	縄文 土器	壺 口縁 部、 5%以 下	[156] — —	外反気味、外傾。口縁端部に 沈線。内外面ナデ	石英少量、黒 色砂粒・褐色 砂粒・雲母細 粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 色。内部褐灰 色	I層	—	PL37
	54	縄文 土器	小形 台鉢 底～脚 台部、 5%以 下	— — 4.2	底部と短く低い脚台。底部は 中央がやや突出。外面横位の ナデ、脚台内部ナデ。内面中 心近くに粘土紐接合痕	石英少量、メ ノウ・チャー ト・黒色砂粒 微量	普通	サンドイッチ 状。外面灰褐 色。内面にぶ い黄褐色。内 部黒色	F6c8、 II層	—	PL37
第48図	55	弥生 土器	浅鉢 口縁～ 胴部、 10%	[140] (5.6) —	内彎。大きく外傾。外面太い 沈線による変形工文字。沈線 はヘラ状工具による左から 右への押し引き。内面粗いミ ガキ	石英少量、黒 色砂粒・雲母 微量	良好、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色、 一部外面褐 灰色。内部黒 褐色	F6c8、 II層	—	PL37 前期
	56	弥生 土器	壺 口縁 部、 5%以 下	— — —	内傾する胴部から大きく外 反、外傾する口縁部。口縁端 部ミガキにより平坦。外面条 痕文。内面ナデ	石英少量、メ ノウ・褐色 砂粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	普通	サンドイッチ 状。外面灰褐 色。内面黒褐 色。内部褐灰 色	F6d8、 II層	—	PL37 中期。60 と同一個 体か。口 縁端部に 植物種子 圧痕
	57	弥生 土器	小形 壺 口縁～ 頸部、 5%以 下	[100] — —	内傾する頸部から外反・外傾 する口縁部。口縁端部に棒状 工具によるキザミ。頸部外面 は口縁部調整による粘土のは み出し。下位に横位の指ナ デによる稜線。胴部条痕文。 内面指ナデ、一部輪積み痕を 残す	石英少量、メ ノウ・黒色砂 粒・雲母細粒 微量	良好、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。外面明赤 褐色・一部黒 褐色。内面に ぶい褐色。内 部黒褐色	F6b8・ c8、 I層、 II層	4片	PL37 中期
	58	弥生 土器	壺 頸～胴 部、 5%以 下	— — —	やや外反・内傾する胴部から 屈曲して立ち上がる頸部。外 面斜位の条痕文(3条単位)。 内面ナデ・輪積み痕明瞭	石英(礫含 む)少量、メ ノウ・チャー ト(礫含む)・ 褐色砂粒・雲 母細粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面黄灰 色。内面灰黄 色。内部褐灰 色	F6b8・ c8、 II層	—	PL37 中期
	59	弥生 土器	壺 頸部、 5%以 下	— — —	内傾。外面外反気味。内面内 彎。器厚下部厚い。外面ヘラ 状工具による刺突文。内面ナ デ	石英少量、メ ノウ・チャー ト・雲母微量	良好	サンドイッチ 状。内外面浅 黄色。内部褐 灰色	F6c8、 II層	—	PL37 中期
	60	弥生 土器	壺 口縁～ 胴部、 5%以 下	— — —	内傾する胴部から大きく外 反、外傾する口縁部。口縁端 部ミガキ。外面条痕文。内面 ナデ	石英(礫含 む)少量、メ ノウ・褐色砂 粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰褐 色。内面黒褐 色。内部褐灰 色	F6d8、 II層	—	PL37 中期。56 と同一個 体か

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第48図											
61	弥生 土器	甕	頸部、 5%以下	— — —	内傾する胴部から屈曲し外反・内傾して立ち上がる頸部。頸部外面ミガキに近い縦位のナデ、胴部から頸部移行部分横位の強いヘラナデ、胴部ヘラナデ。頸部内面ミガキに近い横位のヘラナデ、胴部内面横位のヘラナデ	石英（礫含む）少量、チナート・メノウ・黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	F6c8、II層	—	PL37 中期
62	弥生 土器	甕	頸～胴部、 5%以下	— — —	内彎・内傾する胴部から緩やかに屈曲して外反・内傾する頸部。外面粗い条痕文（斜位、下端横位）、頸部横位のナデ、内面横位のナデ	石英（礫含む）少量、メノウ・褐色礫・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面にぶい黄褐色	F6c8、II層	—	PL37 中期
63	弥生 土器	甕	頸～胴部、 5%以下	— — —	外反・内傾する胴部から屈曲して立ち上がる頸部。頸部外面横位の指ナデ、胴部条痕文。内面斜位の指ナデ	石英少量、メノウ・長石・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	F6d8、II層	—	PL37 中期
64	弥生 土器	甕	頸部、 5%以下	— — —	外反・内傾。外面条痕文。最上部強い指ナデ、内面ナデ。一部ミガキ	石英（礫含む）少量、砂岩礫・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面にぶい赤褐色。内部褐灰色	F6b8、II層	—	PL37 中期
65	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面縦位の条痕文。内面横位のナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通、 焼けムラ	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	I層	—	PL37 中期
66	弥生 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面条痕文。内面ナデ	石英（礫含む）・メノウ・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面黒褐色。内面黒色	F6b8・c8、II層	—	PL37 中期
67	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味、外傾。外面条痕文、内面指ナデ	石英（礫含む）少量、メノウ・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色・褐灰色。内面にぶい黄褐色・黒褐色。内部褐灰色	F6c8、II層	—	PL37 中期。 外面炭化物付着
68	弥生 土器	甕	胴部下 半、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面斜位の粗い条痕文（2条単位）、内面ナデ	石英少量、赤色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。内部褐灰色	F6b8・c8、II層	—	PL37 中期
69	弥生 土器	甕	胴部、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面右下がりの条痕文に左下がりの粗い条痕文。内面斜位の指ナデ	石英・メノウ（礫含む）少量、褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にぶい黄褐色。内部黒色	F6c8、II層	—	PL37 中期
70	弥生 土器	甕	胴部下 半、 5%以下	— — —	外傾。下位内彎気味。上位外反気味。外面左下がり、のち右下がりの条痕文。内面斜位のナデ	石英・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰褐色。内部黒色	F6d8、II層	—	PL37 中期
71	弥生 土器	甕	胴部下 半、 5%以下	— — —	内彎、外傾。外面条痕文。内面ナデ	石英少量、海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面黒褐色。内部褐灰色	F6c8、II層	—	PL37 中期

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第48図											
72	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	直線的、外傾。外面条痕文 (単位4条)、内面丁寧なナデ	石英少量、メ ノウ・チャ ート・雲母細粒 微量	良好、 堅緻	サンドイッチ 状。外面明赤 褐色。一部黒 褐色。内面に ぶい褐色。内 部黒褐色	F6c8、 II層	—	PL37 中期
73	弥生 土器	壺	胴部上 半、 5%以下	— — —	内埴、内傾。外面粗い条痕文、 内面ナデ	石英少量、チ ャート(礫 含む)・泥岩 礫・雲母細粒 微量	良好、 一部二 次焼成	サンドイッチ 状。外面黄灰 褐色。内面灰 褐色。内部褐 灰色	F6e8、 II層	—	PL37 中期
74	弥生 土器	壺	胴部下 半、 5%以下	— — —	わずかに内埴気味、外傾。現 存部で径27cm前後か。外面条 痕文(単位4～5条)、内面丁 家なナデ	石英(礫含 む)少量、メ ノウ・泥岩? 礫・砂岩礫・ 雲母細粒微 量	良好、 堅緻	サンドイッチ 状。内外面浅 黄色。内部褐 灰色	排土中	—	PL37 中期
75	弥生 土器	小形 壺	胴～底 部、 70%	— — —	丸底から外傾・内埴して立ち 上がり、上部で内傾。頸部で 屈曲して外反。外面上下横と 縦の沈線による5区画の中 に沈線により下向き3重(1 区画のみ4重)の三角文また は弧文を描く。頸部に横走沈 線1条。内面指ナデ。赤彩 (底面と沈線の一部に赤色顔 料残存)	石英(礫含 む)中量、メ ノウ・チャ ート少量、雲 母細粒・海綿 骨針微量	やや不 良、焼 けム ラ、脆 器 表荒れ	サンドイッチ 状。外面灰褐 色。内面黒褐 色。内部褐灰 色	F6b8、 II層	3片	PL37 中期。 接合しな い小片あ り
76	弥生 土器	壺	胴部下 半、 5%以下	— — —	平底から外反、外傾して立ち 上がる。胴部外面条痕文。底 部近く横位のヘラケズリ。底 面木葉痕? (葉脈状圧痕の一 部か)。内外面ナデ	石英少量、長 石・メノウ・ チャート・褐 色砂粒・雲母 細粒微量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色。内 面にぶい黄 褐色。内部黒 褐色	F6d8、 II層	—	PL37 中期
77	弥生 土器	壺	底部、 5%	— — 8.0	底部の円盤。やや丸底。周縁 部に積み上げた胴部粘土塊 はほとんど剥離。わずか残存 する胴部下端は外傾。内外面 ナデ	石英少量、メ ノウ・チャ ート・黒色砂 粒・雲母細粒 微量	良好、 外面二 次焼成	外面橙色。内 面にぶい黄 褐色・黒褐 色。	F6c8、 II層	—	PL37 中期
第49図											
78	土師器	小形 壺	口縁 部、 5%以下	[128] — —	外反・内傾。端部はほぼ直立。 内外面横位のナデ。内面輪積 み痕	石英少量、メ ノウ・黒色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	明赤褐色	F6d8、 II層	—	PL38 口縁部内 面器壁荒 れ
79	土師器	甕	口縁 部、 5%以下	[130] — —	内傾する体部から外反・外傾 する口縁部。内外面ココナ デ。体部外面縦位のヘラナデ	石英少量、メ ノウ・泥岩 礫・黒色砂粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色。内 面灰褐色。内 部赤褐色	F6e8、 II層	—	PL38
80	土師器	高台 付 杯	底部・ 高台 部、 5%以下	— — [84]	杯底部に足高台貼り付け。 外面ロクロナデ。内面ミガ キ。のち黒色処理。高台内部 ナデ	石英少量、チ ャート・メ ノウ・褐色砂 粒微量	普通、 やや焼 けムラ	底部褐灰色・ 黒褐色。杯部 内面黒色	F6c8、 II層	—	PL38
81	陶器	皿	底部・ 高台 部、 5%	— (7.0)	ロクロ成形・ナデ。のち平底 に高台貼り付け。見込みの 明白釉軸	精良	良好	内外面灰白 色。軸白釉	F6c8、 II層	—	PL38 志野焼。 16C末～ 17C前半

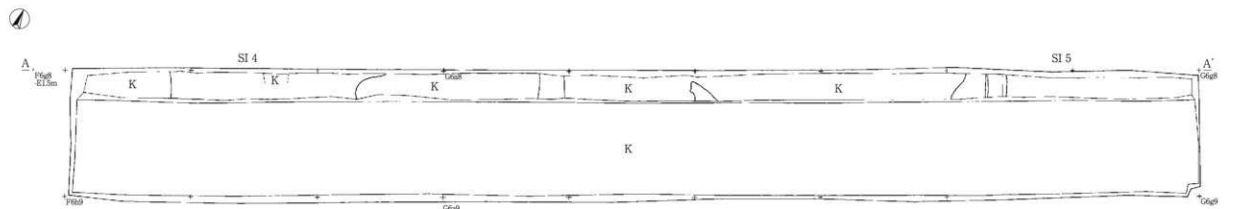
神田 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第49回 82	土器片 円盤	4.0	3.1	—	10.7	縄文晩期土器鉢口縁部片を転用。外反・外傾する波状口縁。口縁端部に沈線。波頂部外面に突起。左右に沈線。突起下に太い沈線。端部下内面に波状口縁に沿う沈線。丁寧なナデ。円盤としての整形は周縁部を打ち欠くのみ。	精良。石英・泥岩砂粒雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面褐色。	F6b8, c8, II層	—	PL38
83	土器片 円盤	4.0	4.0	—	(13.2)	縄文土器深鉢胴部片を転用。外面条痕文。内面ナデ。周縁部の一部を磨りにより円盤として整形	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通。焼けムラ	外面灰黄褐色・褐色。内面にい・褐色。	F6b8, c8, II層	—	PL38 一部欠損

神田 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第49回 84	石棒	(10.4)	(2.4)	(1.9)	(50.1)	粘板岩	表面敲打痕。部位により太さが異なる。調整の早い段階で破損か	F6b8, c8, II層	—	PL38 破片
85	石棒	(10.9)	(3.6)	(0.8)	(43.3)	粘板岩	表面敲打痕。径5.3cm程度の中型品。破損は横方向からの打撃による	F6b8, II層	—	PL38 破片
86	石棒	(5.4)	(2.1)	(0.5)	(7.2)	粘板岩	表面敲打痕。径3cm程度の小型品	F6b8, II層	—	PL38 破片
87	磨石	6.0	5.7	3.6	171.5	多孔質 安山岩	扁平の円形礫利用。表裏・周縁に推痕(使用痕または整形痕)	F6b8, II層	—	PL38 完存
88	石錘	(7.4)	5.1	1.1	(54.2)	砂岩	扁平の楕円形礫を利用し、両端に溝を切る。楕円形の凹みは自然のもの	F6b8, II層	—	PL38 一部破損
89	石錘	6.1	3.5	1.0	34.8	砂岩	扁平の長楕円形礫を利用し、両端に溝を切る。1面は両端の溝が連続	F6d8, II層	—	PL38 完存
90	管玉	1.7	1.1	1.0	26	滑石	表面平滑で光沢がある。オリブ灰色。断面はわずかに楕円形をなす。孔は両面穿孔。孔径3mm	F6b8, II層	—	PL38 完存。一部に耕作による傷

(3) 所見

第8トレンチでは第I B層が薄いか、ほとんど確認されないうちに遺構・遺物が露出する。水田の床土である第I B層が未発達なのは、休耕して雑草が繁茂していた影響と考える。

弥生時代中期の再葬墓が新たに5基確認された。平成18年の調査では7基の再葬墓が確認されているため、合計12基が確認されたことになり、分布域が広がることが確認された。しかしトレンチ東部から第23号土坑が確認されたことにより、第8トレンチ付近にさらに追加のトレンチを設定して調査する必要が生じた。これについては次回以降の調査で対応する。



第50図 第9トレンチ実測図

8 第9トレンチ (第50図)

(1) 調査概要

F6hs区からG6fs区に設定した、長さ18m、幅2mのトレンチである。第8トレンチの東側に設定しており、再葬墓遺構の分布範囲の東の境界及び泉坂下遺跡の所在する低位段丘面の東の境界を掘むことを主目的としたトレンチである。

また北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクションを確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

第9トレンチでは第Ⅰ層を除去すると、ロームの硬化面にあたった。地権者の話によると、昭和50年代に当地にあった家屋が火災にあった際、その廃材を埋めたとのことであった。この硬化面は、その後水田耕作の床土になったことにより形成されたもので、硬化面下も多くの攪乱を受けていた。

遺構以外の土層で、セクションで示したものについて解説する。

土層解説

- | | |
|-------------------|---|
| 4 黒色 (7.5YR 2/1) | 第4号竪穴住居跡の覆土でも基本土層でもない層であり、別の遺構がある可能性があるが攪乱により詳細は不明である |
| 9 褐灰色 (7.5YR 4/1) | 炭少量、ローム粒子少量。別の遺構がある可能性があるが、攪乱により詳細は不明である |

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①平安時代

(i) 竪穴住居跡

第4号竪穴住居跡 (S14, 第50図)

位置 F6hs区、F6fs区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びているため規模・形状は確認できない。壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。

土層 覆土は2層からなり、レンズ状の自然堆積である。3は貼床である。

土層解説

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 黒色 (7.5YR 2/1) | 焼土・炭多量 |
| 2 黒色 (7.5YR 2/1) | ローム粒子多量、締まり強 |
| 3 褐灰色 (7.5YR 4/1) | 暗褐色土とロームの混合土、貼床 |

床 平坦に踏み固められた床面がセクションで確認できる。

竈 確認していない。

柱穴 セクションでビット1基が確認された。

遺物出土状況 出土していない。

所見 状況から平安時代の竪穴住居跡と考えられる。

第5号竪穴住居跡 (S15, 第50図)

位置 G6es区、G6fs区に位置する。第Ⅲ層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びているため規模・形状は確認できない。壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝が確認できる。

土層 覆土は4層からなり、レンズ状の自然堆積である。5は河川氾濫による堆積と考えられる。

土層解説

- 5 褐灰色 (7.5YR 4/1) 砂質土、締まり弱。土質と水平な堆積状況から河川氾濫による堆積土と考えられる
- 6 黒褐色 (7.5YR 3/1) 焼土・炭少量、ローム粒子少量、締まり強
- 7 灰褐色 (7.5YR 4/2) ローム粒子多量、締まり中
- 8 暗褐色 (7.5YR 3/3) 締まりあり、粘性あり

床 ほぼ平坦である。

竈 確認していない。

柱穴 確認していない。

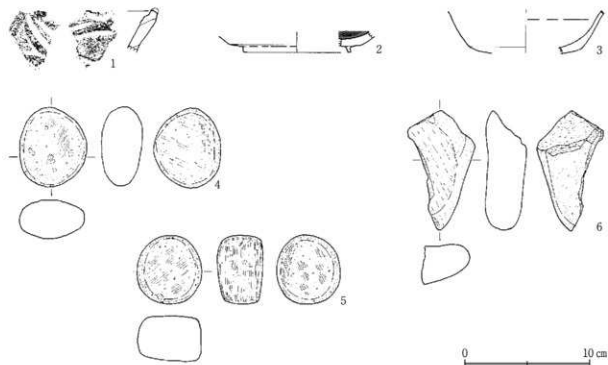
遺物出土状況 出土していない。

所見 付近の攪乱土中から平安時代の土師器片が出土していることから、平安時代の堅穴住居跡と考えられる。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第51図、第23表)

遺物出土状況 土器38点、石器13点、骨片1点、古銭1点が出土している。うち、縄文土器1点(浅鉢1)、土師器2点(高台付坏1、坏1)、石器3点(磨石2、石皿1)を掲載する。2、4～6は攪乱土中からの出土である。



第51図 第9トレンチ出土遺物実測図

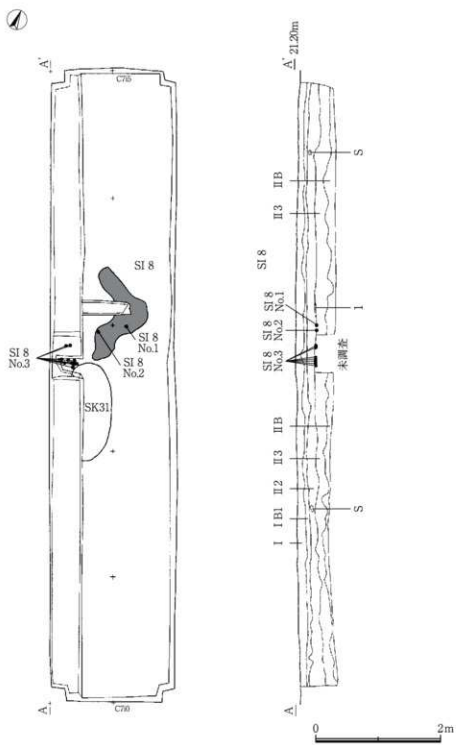
第23表 第9トレンチ出土遺物観察表

検出 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第51回 1	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	— — —	直線的、強く外傾。波状口縁の頂部にB突起。外面沈線で三角文、内面B突起に沿う短い沈線1条と端部に沿う沈線2条	石英少量、チャート・灰色砂粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい・橙色、内面褐色	4区、I層	—	PL38 安行3a式
2	土師器	高台付杯	底部、 10%	— — [10.4]	平底から大きく外傾して立ち上がる。貼付高台。高台径8.4cm。外面器表荒れ。内面一部ミガキ、のち黒色処理	石英・メノウ・海綿骨針微量	普通	外面にふい・褐色、内面黒色	4区、攪乱土層中	—	PL38
3	土師器	杯	体～底部、 10%	— — [9.0]	丸底気味の底部から内唇後外反、外傾して立ち上がる。内外面口クロナデ、底部外面口クロケズリ。内面と一部外面に泥漿	精良。石英・チャート・メノウ・雲母細粒微量	良好	泥漿にふい・黄褐色、胎土にふい・橙色	G6底、II層	—	PL38

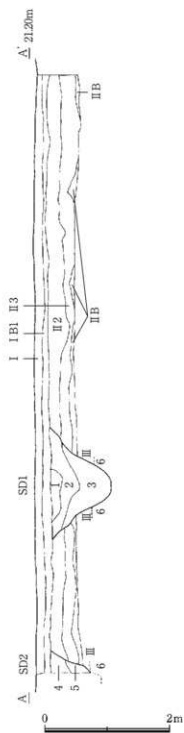
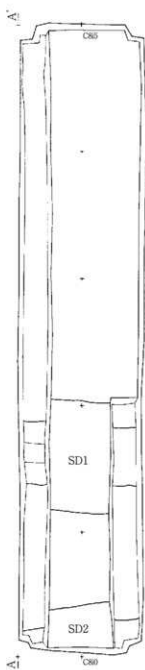
検出 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第51回 4	磨石	6.2	5.4	3.3	79.2	多孔質安山岩	やや扁平な不整形円盤利用。表裏2面に使用痕（1面は不明瞭）	3区、攪乱中	—	PL38 完存
5	磨石	5.4	5.0	3.7	132.9	多孔質安山岩	厚い円盤状。全面調整痕または使用痕	3区、攪乱中	—	PL38 完存
6	石皿	(9.5)	(5.3)	(3.5)	(139.5)	砂岩	扁平な盤を利用。両面に使用痕	11区、攪乱中	—	PL38 破損

(3) 所見

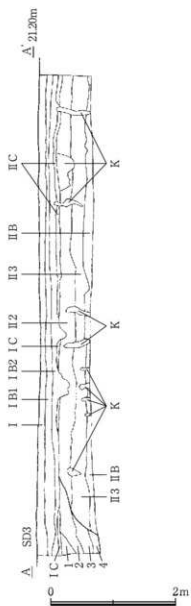
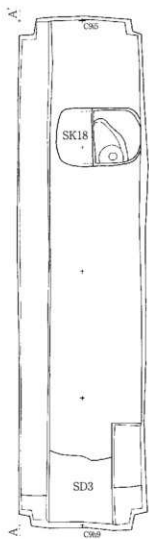
トレンチのほとんどに及ぶ攪乱によって、目的であった再葬墓遺構の分布範囲の確認はできなかった。しかしその攪乱を免れて、平安時代の竪穴住居跡が2軒確認されたことについては驚きである。特に第5号竪穴住居跡からは洪水の痕跡も認められるなど、当遺跡の立地条件を体現するものといえよう。



第52図 第11トレンチ3・4区実測図



第53図 第11トレンチ7・8区実測図



第54図 第11トレンチ11・12区実測図

9 第11トレンチ (第52～54図)

(1) 調査概要

C7h5区からC9h8区、C7i5区からC9i8区までの区域に、長さ58m、幅2mの南北に長いトレンチを設定した。調査区域の南西端に設定したトレンチで、主目的は当遺跡の立地する低位段丘面の南の限界を掴むことである。

しかし、トレンチすべてを調査する必要はないと判断したため、そのうち実際に調査したのはC7h5区からC7h9区、C7i5区からC7i9区にまたがる3・4区(第57図)の長さ10m、C8h5区からC8h9区、C8i5区からC8i9区にまたがる7・8区(第58図)の長さ10m、C9h5区からC9h8区、C9i5区からC9i8区にまたがる11・12区(第59図)の8mの合計28mである。

また、それぞれ、西壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

遺構以外の土層で、7・8区のセクションで示したものは以下のとおりである。(第53図)

土層解説

6 ローム(25YR7/2) 粘土化している

(2) 遺構・遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①平安時代

(i) 竪穴住居跡

第8号竪穴住居跡(S18, 第52図)

位置 C7h6区、C7h7区、C7i6区、C7i7区に位置する。第11トレンチ3・4区の第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外へ延びているうえ、耕作による影響を受けているため規模及び形状は不明である。

土層 覆土は耕作により失われ残っていない。壁の立ち上がりも確認できない。1は5mm程度の厚さしか残っていないが床面と考えられる。

土層解説

1 褐灰色(10YR4/1) 灰褐色粘土中量、締まり強、粘性中

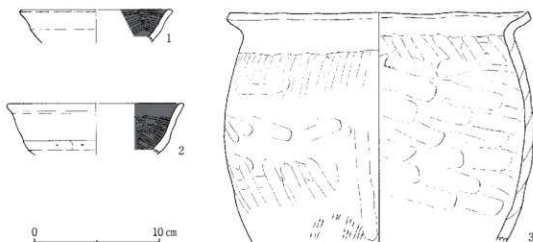
床 耕作により多くが失われているが、セクションでわずかに確認できる。

竈 東壁中央部に砂質粘土で付設されている。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土師器3点(高台付坏2、甕1)が出土している。1・2は竈中からの出土である。(第55図, 第24表)

所見 出土遺物から平安時代の竪穴住居跡と考えられる。



第55図 第8号竪穴住居跡出土遺物実測図

第24表 第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

神岡 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径・ 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第55図 1	土師器	高台付 杯か	口縁～ 体部、 5%	— — —	[12.0] 内彎気味に外傾して立ち上 がり、口縁部でやや外反。内 面ミガキ、のち黒色処理。外 面横ナデ	石英少量、長 石・チャー ト・雲母微量	良好	内面黒色。外 面褐灰色。灰 褐色	カマド 内	—	PL38
2	土師器	高台付 杯か	口縁～ 体部、 5%	— — —	[14.0] 内彎気味に外傾して立ち上 がり、口縁部で外反。外面中 位に稜。内面ミガキ、のち黒 色処理。外面横ナデ。後下位 に寛ケズリ直	石英少量、長 石・チャー ト・メノウ・ 雲母細粒微 量	良好	内面黒色。外 面褐灰色。灰 褐色	カマド 内	—	PL38
3	土師器	甕	口縁～ 体部、 20%	[24.0] (18.6) —	内彎しながら立ち上がり、頸 部で強く屈曲。口縁部は短く 外反。端部はわずかにつまみ 上げ。口縁部から頸部横ナ デ。体部外面縦横の寛ナデ。 下部は泥質塗布か、一部ハケ 目直。内面ナデ	石英少量、長 石・雲母粒子 微量	良好	内外面にぶ い黄褐色、灰 黄褐色	床面直 上	10片	PL38

①中世

(i) 土坑

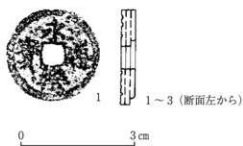
第18号土坑 (SK18, 第54図)

位置 C9h5区, C9h6区, C9i5区, C9i6区に位置する。第11トレンチ11・12区の第II 2層上面で確認できた

規模と形状 長軸135cm, 短軸93cm, 長軸の向きはN-25°-Eの隅丸長方形である。一部に円形のピットがある。

遺物出土状況 土器4点, 古銭3点が出土している。うち, 古銭3点を掲載する。1は永楽通寶で, 2・3は不明であり, 底面付近から出土した。(第56図, 第25表)

所見 形状や銭貨の出土から中世の墓塚と考えられる。



第56図 第18号土坑出土遺物実測図

第25表 第18号土坑出土遺物観察表

種別	銭銘	径 (cm)	厚さ (mm)	孔径 (cm)	重さ (g)	初铸年	備考
第56図 1	永楽通寶	25	1.0	0.5	67 (1~3の合計)	1411 (明・永楽9)	PL39 2・3と鑄着
	不明	25	1.0	0.5		-	PL39 1・3の間に鑄着。形状・質とも1に類似
	不明	24	0.8	0.5		-	PL39 1・2と鑄着。1・2より小型。質やや不良

第31号土坑 (SK31, 第52図)

位置 C7h7区, C7h8区に位置する。第11トレンチ3・4区の第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 長軸153cm, 短軸60cm, 長軸の方位N-21°-Eの楕円形である。

遺物出土状況 土器9点, 石器1点, 骨片2点が出土している。うち, 縄文土器3点(深鉢2, 壺1)を掲載する。(第57図, 第26表)

所見 状況から中世の墓塚と考えられる。



第57図 第31号土坑出土遺物実測図

第26表 第31号土坑出土遺物観察表

種別	種別	器種	部位・ 残存率	口径器 高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考							
第57図 1	縄文 土器	深鉢	口縁~ 胴部, 5%以下	—	内傾する複合口縁。内外面ナ デ, 胴部外面に輪積み痕	石英・チャ ート・メノウ・ 黒色粒子少量, 雲母微細 粒子微量	良好	灰黄褐色	覆土中	—	PL39 後・晩期 の粗製土 器							
			口縁~ 胴部, 5%以下	—								わずか外反, 外傾。網目状摺 糸文, 弧状及び横走沈線。内 面ナデ	石英・チャ ート少量, 雲母 細粒・海綿骨 針微量	良好	外面灰黄褐 色, 内面にぶ い黄褐色	覆土中	—	PL39 晩期
			胴部下 半, 5%以下	—														

(ii) 溝

第1号溝 (SD1, 第53図)

位置 C8h7区, C8hs区, C8i7区, C8is区に位置する。第11トレンチ7・8区の第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西壁際のサブトレンチで確認され溝と思われたため、東壁際にもサブトレンチを設置して平面で溝であることを確認した。上端の幅175cm, 深さ96cmである。走向はN-67°-Eでトレンチにはほぼ直交し、第2号溝とはほぼ平行である。断面は箱薬研堀状で、底面は粘土層中に形成され平坦である。

土層 覆土は3層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------|---|
| 1 黒褐色 (7.5YR3/1) | ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性弱 |
| 2 黒褐色 (10YR3/2) | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量, Nt-S極少量, Nt-I極少量, 締まり弱, 粘性中 |
| 3 極暗褐色 (7.5YR2/3) | ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量, Nt-S極少量, Nt-I極少量, 締まり弱, 粘性強 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物は伴わないが、状況から中世の区画溝と考えられる。

第2号溝 (SD2, 第53図)

位置 C8h9区, C8ig区に位置する。第11トレンチ7・8区の第II2層上面及び西壁のセクションで確認できる

規模と形状 西壁際のサブトレンチで確認され溝と思われたため、東壁際にもサブトレンチを設置して溝であることを確認している。深さは61cmある。走向はN-60°-Eでトレンチに概ね直交し、第1号溝とはほぼ平行である。断面は箱薬研堀状で、底面は粘土層中に平坦に形成されている。

土層 覆土は2層からなり、4は人為堆積、5の堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------|---|
| 4 暗褐色 (10YR3/3) | ローム小ブロック多量, ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性中。ロームの混入には偏りがある |
| 5 黒色 (10YR2/1) | ローム小ブロック極少量, ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まり弱, 粘性強 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物は伴わないが、状況から中世の区画溝と考えられる。

第3号溝 (SD3, 第54図)

位置 C9h8区, C9is区に位置する。第11トレンチ11・12区の第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西壁際のサブトレンチで確認され溝と思われたため、東壁際にもサブトレンチを設置して溝であることを確認している。ただし、溝中央がトレンチ外となるため規模は不明である。

深さは、確認できるだけで60cmある。走向はN-64°-Eでトレンチに概ね直交する

土層 覆土は4層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 黒褐色 (5YR2/1) | ローム粒子多量, 締まり中 |
| 2 黒褐色 (5YR2/1) | ローム粒子少量, 締まり中 |
| 3 黒色 (7.5YR2/1) | ローム粒子極少量 |
| 4 黒色 (7.5YR1.7/1) | 締まり弱, 粘性強 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物は伴わないが、状況から中世の区画溝と考えられる。走向は、第3トレンチの第4号溝と同一である可能性がある。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第58図、第27表)

遺物出土状況 土器219点、石器65点が出土している。うち、縄文土器10点(壺3、深鉢4、浅鉢2、鉢1)、弥生土器1点(壺1)、石器・石製品8点(石剣1、石棒1、石鎧1、敲石2、磨石2、凹石1)を掲載する。他のトレンチに比べると少なくなるものの、やはり縄文土器が出土する。

(3) 所見

第3トレンチと同様に、サブトレンチ内の第Ⅲ層が南傾することを想定して設定したトレンチであるが、明確な傾斜は現れず、結果として低位段丘面の南限を掘むことはできなかった。今後はより南方にトレンチを設定する必要がある。

遺構としては、他のトレンチ同様に、平安時代の住居跡及び中世の墓塚、溝が確認された。これらの時代の遺構は、当遺跡の所在する低位段丘面全体に分布していることが窺える。

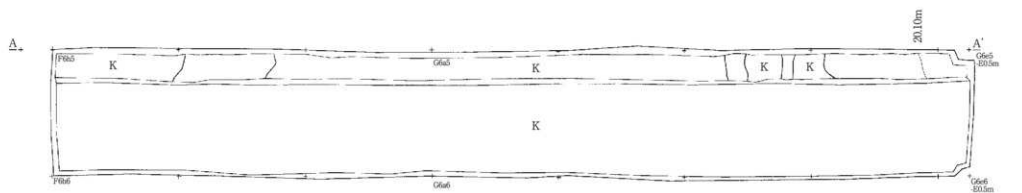


第58図 第11トレンチ出土遺物実測図

第27表 第11トレンチ出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第58図 1	縄文 土器	壺	胴～底 部、 5%以下	— (3.4) [16.0]	平底。底部が張り出し、胴部は内傾して直線的に立ち上がる。外面縦位の結節縄文。内面横位のナデ	石英（礫含む）中量、メノウ・黒色砂粒・凝灰岩礫少量	普通	外面にぶい褐色。内面黒褐色	C9h6 サブレ、 II層	—	PL39 五領ヶ台式
2	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	外傾して直線的に立ち上がる直口縁。平縁で口縁端部平直。外面縄文を地文に横走する平行沈線3条。3段目磨り消し。内面ナデ	石英少量、メノウ・黒色砂粒・雲母微量	良好	内外面灰黄褐色	4区、 I B層	—	PL39 大洞B1式
3	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以下	— —	やや内彎・大きく外傾。外面沈線文。内面ナデ	石英少量、黒色砂粒・灰色砂粒微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	8区、 I層	—	PL39 安行3C式か
4	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	— —	内彎気味、外傾。口唇部は外に肥厚させキザシ。外面縄文施文後、横走沈線2条。器壁薄い。内面ナデ	石英中量、メノウ・黒色砂粒少量	良好	外面浅黄色。内面・内部黒色	4区、 I B層	—	PL39 大洞C2式か
5	縄文 土器	壺	口縁～ 頸部、 5%以下	— — —	内彎する胴部から頸部で屈曲し外傾・外反する口縁部。複合口縁外面に横位の撫糸文。頸部外面ナデ、胴部撫糸文。内面ヘラズリ後、ナデ	石英少量、メノウ（礫含む）・黒色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面褐灰色。内面にぶい黄褐色。内部黒色	11区、 I B層	—	PL39 晩期後葉
6	縄文 土器	壺	頸～胴 部、 50%	— — —	内彎・ほぼ直立する胴部から外反・内傾する頸部。頸部外面ナデ。胴部上位に横走する撫糸文。下位に斜位の撫糸文。施文額は下から上へ。内面横位のナデ	石英少量、灰色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好、焼けムラ	外面にぶい黄褐色・黒褐色。内面にぶい黄褐色	C9h8 サブレ、 II層	—	PL39 胴部径 [22]cm 晩期後葉
7	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	— —	内彎、内傾。複合口縁。外面縄文。胴部縄文施文後、口縁を貼り付け、口縁外面縄文施文。器表荒れ	石英少量、チャート・褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良	外面灰黄色。内面浅黄褐色	7区、 I B層	—	PL39
8	縄文 土器	鉢	底部、 5%以下	— —	やや丸底気味。外面に縄文。内面ナデ	石英・黒色砂粒少量、長石・雲母細粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面褐灰色	12区、 I C層	—	PL39 内面と内面剥離面に炭化物付着
9	縄文 土器	深鉢	底部、 5%以下	— — [8.2]	丸底。円盤状の底部の周縁部に胴部粘土紐を積み上げるが剥離。内外面ナデ	石英・砂岩（礫含む）中量、メノウ（礫含む）少量、海綿骨針微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	11区、 I B層	—	PL39
10	縄文 土器	深鉢	胴～底 部、 5%以下	— (4.5) [8.5]	平底から外反気味でほぼ直に立ち上がる。内外面ナデ	石英少量、長石・褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい褐色	12区、 I B層	—	PL39
11	弥生 土器	壺	口縁部、 5%以下	— — —	外反、外傾。外面斜位のヘラズリ。内面横位のヘラズリ。口唇部内外面横位のナデ。口唇部外面に細い横走沈線	石英少量、チャート・長石・灰色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色・褐色。内部褐灰色	12区、 I B層	—	PL39

神図 番号	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第58図 12	石剣	(8.3)	2.2	1.2	(31.2)	粘板岩	表面にふい橙色(折れ面は灰白色ないし灰色。風化した自然面)。断面楕円状の棒状礫を利用。わずかに磨り調整痕	4区、 1B層	—	PL39 破片
13	石棒	(8.1)	(3.9)	(1.0)	(47.2)	粘板岩	表面敲打痕	4区、 1B層	—	PL39 破片
14	石篋	8.6	3.8	1.8	70.1	粘板岩	縦長剥片を利用し、主として背面に調整。蝶番剥離部分を刃部に利用	11区、 1B層	—	PL39 完存
15	敲石	10.0	7.0	5.1	220.0	花崗岩	洋梨形の礫を利用。尖った方の端部に敲打痕	3区、 1B層	—	PL39 完存
16	敲石	9.8	5.5	2.7	162.5	砂岩	不整長楕円(三角)形のやや扁平な礫を利用。両端に敲打痕	11区、 1B層	—	PL39 完存
17	磨石	(6.7)	(6.3)	(1.8)	(87.3)	多孔質 安山岩	扁平な円形の礫の側面を整形。平ら面に使用痕	3区、 1B層	—	PL39 破損
18	凹石	9.0	8.5	3.0	289.3	多孔質 安山岩	扁平な楕円形の礫の側面を整形。両端を打ち欠く(1端は自然か)。表面中央部に凹み。表面の凹みは不明瞭	12区、 1B層	—	PL40 完存
19	磨石	7.4	7.2	3.2	178.0	凝灰岩	扁平な円礫を利用。1面に使用痕。浅い凹みあり(凹石か)	4区、 1B層	—	PL40



第59図 第16トレンチ実測図

10 第16トレンチ (第59図)

(1) 調査概要

F 6 g 5区からG 6 e 5区に設定した、長さ15.5m、幅2mのトレンチである。第8トレンチの北東側に設定しており、主目的は再葬墓遺構の分布範囲の東の限界及び当遺跡の立地する低位段丘面の東の限界を掴むことである。

また、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクションを確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

第16トレンチでは第Ⅰ層を除去すると、第9トレンチと同様にロームの硬化面にあたった。第9トレンチの項で述べたものと同様、火災の廃材を埋めた痕跡と、水田耕作の床土となり形成された層である。硬化面下も多くが攪乱を受けていた。攪乱を免れた部分を見つけての調査となったが、トレンチ東端部で第Ⅲ層上面が東に向かって傾斜していることが確認でき、低位段丘面の東の限界であると確認できた。

(2) 遺構・遺物

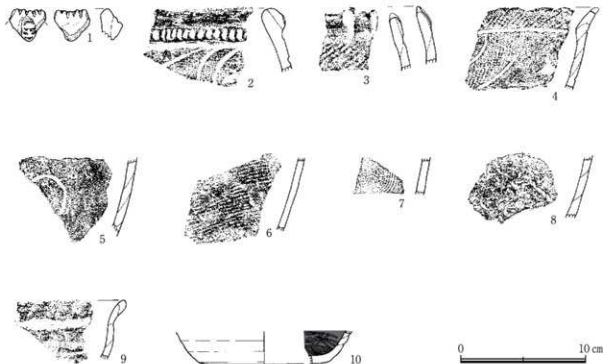
A 遺構とそれに伴う遺物

第16トレンチでは、後述するように攪乱が激しく、遺構は確認されなかった。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する。(第60図、第28表)

遺物出土状況 土器31点、石器4点、骨片1点が出土している。うち、縄文土器9点(深鉢2、鉢2)、土師器1点(坏1)を掲載する。晩期の縄文土器が多く出土している。



第60図 第16トレンチ出土遺物実測図

第28表 第16トレンチ出土遺物観察表

採回 番号	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第60回 1	縄文 土器	深鉢	口縁部 5%以下	— —	波状口縁波頂部。波頂部を土 反りに作り4条のキザミを入 れる。その直下外面に縦長の 瘤を貼り付け、横位のキザミ (4条か)	石英少量、長 石微量	やや不 良、器 表荒れ	内外面赤褐 色	G6e5、 II層	—	PL40 安行3a式
2	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内埴、内傾。口縁部外面を貼 付により肥厚させ下部に棒 状工具でキザミ。胴部外面に 弧状の沈線、口唇部から内面 横位のナデ	石英少量、黒 色砂粒・雲母 細粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色、 内部黒褐色	G6e5、 II層	—	PL40 安行3a式
3	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — 3.4	内埴、内傾。口縁部外面を貼 付により肥厚させ幅広のキザ ミ。胴部に縄文内面ナデ、 一部ミガキ	石英(礫含む) 少量、長石・ 灰色砂粒・灰 色砂粒・金雲 母細粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い黄褐色、内 面褐色。内部 褐色	F6i5、 II層	—	PL40 後期末～ 晩期初頭 の粗製土 器
4	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%	[26.0] — —	内埴、外傾する胴部から外反 する口縁部。波状口縁。外面 縄文、須部変曲点に沈線1 条、胴部に磨滑縄文、三叉文、 内面ミガキ。内外面黒色処理	石英少量、チ ャート・黒色 砂粒・海綿骨 針微量	普通	黒色	G6e5、 II層	—	PL40 安行3aま たは3b 式
5	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内埴、外傾。外面弧状の沈線 縄文、内面ナデ	石英少量、チ ャート・黒色 砂粒・海綿骨 針微量	普通	サンドイッチ 状。外面にぶ い褐色、内面 灰白色。内部 褐色	G6e5、 II層	—	PL40 安行3aま たは3b 式
6	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内埴、外傾。薄手。外面縄文、 内面ナデ	石英少量、長 石・黒色砂粒 ・金雲母微量	普通	外面黒色、内 面褐色	G6d5、 II層	—	PL40 後・晩期 の粗製土 器
7	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内埴気味、外傾。外面弧状 (波状か)と直線の条線文、内 面斜位のナデ	石英少量、メ ノウ・黒色 砂粒・灰色砂 粒・雲母細粒 微量	普通	外面灰褐色、 内面黒色	G6e5、 II層	—	PL40 後・晩期 の粗製土 器
8	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	粗製。内埴、外傾。外面粗い 網目状条線文、内外面ナデ	石英少量、チ ャート・黒色 砂粒・凝灰岩 礫・雲母細粒 微量	やや不 良	外面灰黄褐 色、内面にぶ い黄褐色	G6e5、 II層	—	PL40 後・晩期 粗製土器
9	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%以下	— — —	粗製。内埴、外傾する胴部から 外反する口縁部。口縁部横 位のナデ、胴部内外面ナデ	石英少量、チ ャート・砂岩 礫・雲母細粒 微量	やや不 良	黒褐色	G6e5、 II層	—	PL40 後・晩期 粗製土器
10	土師器	坏	体～底 部、 10%	— — [10.0]	平底から内埴気味に外傾して 立ち上がる体部。外面ロウ ロナデ、内面ミガキ。のち黒 色処理。底部外面回転ヘラ切 り	石英少量、メ ノウ・黒色 砂粒・褐色砂 粒・雲母微量	良好	外面にぶい 褐色、内面黒 褐色	G6e5、 II層	—	PL40

(3) 所見

そのほとんどに攪乱が及んでおり、目的であった再葬墓遺構の分布範囲の確認はできなかった。また、攪乱を免れた部分を調査したが、遺構は確認できなかった。

第16トレンチが設定されたのは調査区域の最東端である。トレンチ東端部で第Ⅲ層上面が東に向かって傾斜し、低位段丘面の東の限界であると確認できたことは大きな収穫である。

11 表面採集

(1) 調査概要

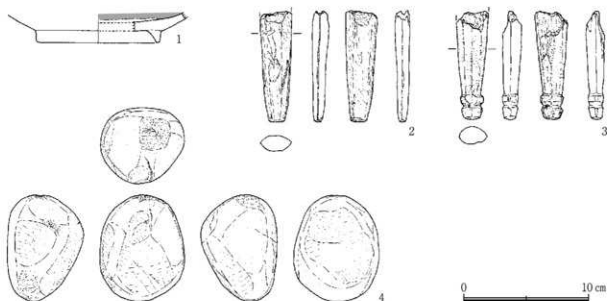
トレンチによる確認調査と同時に、調査区付近の地表面の遺物採集を試みた。

(2) 採集遺物

表面採集により、灰釉陶器1点(皿)、石器・石製品3点(石剣2、磨石1)を確認した。(第61図、第29表)

(3) 所見

地表面から石剣が採集されたことは当遺跡を象徴しており、石棒製作遺跡の想定も尤もなことである。今後の確認調査でも、重要なポイントとなるだろう。



第61図 表面採集遺物実測図

第29表 表面採集遺物観察表

挿入番号	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合	備考
第61図 1	灰釉陶器	皿	底部・高台, 10%	— — [9.4]	体部は大きく外傾。底部には短く直立する三角高台を貼り付け。内外面ロクロナデ。内面に重ね焼きによる高台の輪着後割離痕。その外側に灰釉	精良石英・雲母細粒微量	良好	灰白色。釉は灰オリーブ色	9トレ付近	—	PL40 O53

挿入番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第61図 2	石剣	(8.8)	(2.5)	(1.1)	(40.0)	粘板岩	細形の石剣先端部。全体に長軸方向の研磨により成形、のち一部直交ないし斜め方向の研磨により仕上げ。断面先端の尖った楕円形	2・8トレ付近	—	PL40
3	石剣	(8.4)	(2.4)	(1.4)	(37.6)	粘板岩	細形・両面の石剣先端部。先端部は本体部からは段をもって太くなり、途中に磨り切りによりくびれを作出。全体に長軸直交方向の研磨により成形、仕上げ	2トレ東側	—	PL40
4	磨石	8.5	6.8	6.0	457.1	泥岩	不整形礫。3面を磨石、一端(あるいはもう一端も)を敲石として使用	2・8トレ付近	—	PL40

第4章 総括

泉坂下遺跡では、平成18年の調査の際に7基の土坑から人面付壺形土器をはじめとする弥生土器や玉類が出土し、弥生時代中期の再葬墓であることが確認された。とはいえ調査が行われたのは遺跡の所在する低位段丘のわずか36mにすぎず、遺跡の適切な保護、保存、活用を図っていくためにはさらなる性格及び範囲の確認が必要とされたため、今回の調査が実施されたものである。

以下、今回の調査において明らかになった点を記して総括する。

1 泉坂下遺跡の範囲

泉坂下遺跡の立地する低位段丘は、東側の水田面から比高差2mほどで、台地からの湧水に分断されながらも南東に大きく展開し、現在も根本地区をはじめとする複数の集落が所在する。遺跡付近は水田耕作によって原地形がすでに改変されていることが想定されたため、今回の調査においては、原地形を確認し、遺跡の所在する低位段丘の範囲を掘むことが目的の一つであった。遺跡西側は比高差30m近い台地が立地しているため、東・南・北側がその確認対象である。

東の限界については、第1トレンチから東方に伸ばした2本のトレンチのうち、第16トレンチの東端において確認できた。第16トレンチの東端では、確認面としていた第Ⅲ層上面が東に向かって傾斜していることが確認できるため、ここが低位段丘の東端であると判断した。この東西幅約110mが旧地形の東西幅と考えられ、これについては現在の地形と概ね相違なく、この付近では原地形からの改変が軽微であることも判明した。低位段丘東側を走る用悪水路と農道は、原地形の名残を伝えるものと推測される。

南の限界については、第3トレンチまたは第11トレンチのいずれかで確認されることを期待したが、いずれにおいても明確な地形の変化を確認することはできなかった。溝が等高線に直交して走っており、周辺より幾分低いことは窺えるものの、次回以降の調査においてより明確な範囲を押さえることを期待する。

北の限界については、第7トレンチにおいて確認できた。第7トレンチ付近はかつて道路として使用され、現況は雑種地となっていて大幅に地形改変されているが、サブトレンチ内で第Ⅲ層上面が原状を保った状態で残っていて、北へ傾斜することが確認できた。このため、ここが低位段丘の北の限界と判断した。

今回の調査により、低位段丘面の範囲確認のうえで残る懸案は、南の限界の確認のみとなった。これについては、次回以降の調査で取り組んでいかなくてはならない。

2 土地利用の変遷

平成18年の調査において、すでに平安時代の住居跡が確認されており、弥生以外の時代にもまたがる複合遺跡であることは知られていた。今回の確認調査では縄文、弥生、平安、中世、近世にかけての、さらに幅広い時代の遺構・遺物が確認されている。以下、遺跡の所在する低位段丘の土地利用の変遷を時代順に総括していく。

今回の調査で確認されている最も古い遺物は、縄文時代前期である。また中期になると袋状土

坑が確認されており、付近に広がる可能性が高い。さらに後・晩期となると、遺構こそ確認されていないが、際だって多くの土器や石棒・石剣などが出土しており、集落の匂いが感じられる結果となっている。そもそも平成18年の学術調査は縄文時代の石棒製作遺跡の手掛かりを得るために実施されたものであったのだが、この結果を踏まえてみれば、第5トレンチ乃至第4トレンチ付近で石棒製作遺構の可能性が考えられるということになる。なお、縄文晩期と弥生中期再葬墓の関連性は検証すべきテーマの一つであり、この付近は今回の調査によってさらに重要性を増している。

弥生時代中期については、第8トレンチでは5基の再葬墓塚が確認され、第4トレンチでは土器棺墓が3基確認された。新たな再葬墓遺構等が計8基確認されたことになる。また平成18年の調査で東半分だけ確認されていた第5号土坑の西半分を第4トレンチで精査している。いずれも今後の調査により周辺のさらなる確認が必要であるほか、第4号性格不明遺構の存在も注意すべき点である。

平安時代の遺構・遺物は調査区域のほぼ全域に広く分布しており、住居跡だけでも第3・4・9・11トレンチに合計7軒が確認されている。刻書「万吉」のある耳皿や「□□大宅」の墨書土器といった特殊な遺物も確認されており、ある程度の規模の集落が所在したことが窺える。

中世の遺構としては溝と土坑が確認されている。溝は調査区域南寄りとなる第11トレンチで3条確認されており、いずれも低位段丘の等高線に直交し、区画溝と考えられる。また墓塚計5基が調査区中央部～南寄りとなる第4・5・11トレンチで確認されており、この低位段丘は弥生時代から遙か時を隔てて再度墓域として用いられたと考えられる。泉坂下遺跡から北方を見上げると中世の佐竹系城郭前小屋城跡があり、関連性を想起せざるを得ない。

近世陶器も確認されており、当遺跡の立地する低位段丘は、古代以来、久慈川が東側を南流する地理的環境が農業のみならず水運との関連においても良好な立地状況として人々を惹きつけたのであろう。

3 再葬墓遺構の分布

また、今回の調査のもう一つの目標であった弥生再葬墓遺構の分布範囲も概ね掴むことができた。再葬墓は第5号土坑が西端、第1号土坑が南端であると現時点では一応考えられるが、もちろん今後周辺を精査し、裏付けていく必要がある。また平成18年の調査で7基、今回の調査で新たに5基が確認されており、合計12基の再葬墓遺構が分布することが確認されている。

第1トレンチでの再葬墓遺構は南半に偏っており、その北方の第6トレンチでもやはり確認されなかった。また第1トレンチ南側に設定した第2トレンチでは再葬墓遺構は確認されない。これらのことから、再葬墓遺構分布の南北幅はこの12～13mのうちに納まるものと推測される。また最も西側に位置する第5号土坑から、最も東側の第23号土坑までは約12mである。これらの状況を踏まえると、この直径12m～13mほどの範囲に再葬墓遺構が分布するものと現時点では考えられる。ただし、第8トレンチの南北それぞれは調査の余地があり、次回以降の調査結果如何によって分布範囲がさらなる広がりを見せることは十分にあり得る。

また、再葬墓遺構については別の課題も浮上しており、後述する。

4 浮上した課題

今回の調査によって課題が2点浮上した。

1点目として、第19・20・21号土坑の3基が確認された、小形の壺形土器が単数埋納されたタイプの、いわゆる土器棺墓の存在である。壺形土器が複数埋納されたタイプの再葬墓は先述のとおり概ね範囲を掴むことができた。しかし、土器棺墓が確認されたことによって、その性格や分布状況、再葬墓との関係などをこれから把握していく必要がある。

2点目として、第4号性格不明遺構の存在である。等高線に平行な断面V字形の溝になる可能性が高いと考えているが、再葬墓と同時期に存在した可能性が捨て切れない。覆土から確認された遺物で最も時代の新しいものは弥生中期後半であり、弥生時代中期の所産と理解するのが妥当と考えられるのである。当遺跡の理解にその存在の意味するところが大きく影響する可能性があり、今後一層慎重に調査する必要がある。

これらについては様々な仮説が錯綜する。第1・8トレンチで確認されている既知の再葬墓遺構との関連も当然検証するが、第4号性格不明遺構が弥生中期の溝とすると、壺形土器を複数埋納した再葬墓と単数埋納した土器棺墓を区画する位置を南北に走ることになる。さらに弥生中期の溝となると環濠集落が連想される。また、これら遺構の所在と付近での縄文晩期の遺物分布との符合等といった、様々な憶測を呼ぶ。しかし、現時点では根拠に乏しい。いずれにせよ、展開によっては調査の進め方にも影響を及ぼすものであるため、次回調査ではこの付近を重点的に調査し、早い段階で糸口を掴んでおく必要がある。

5 まとめ

今回の調査によって、泉坂下遺跡はこれまで知られていなかった顔を見せ始めた。これは当遺跡の保護、保存、活用に向けて大きな一歩が踏み出されたといえよう。しかし、ここまで述べてきたとおり残された課題、浮上した課題も大きい。第2次確認調査は平成25年度に計画されており、今回の結果をもとにして、また反省点を踏まえた上で調査を進めていく。今回の調査では行えなかったローム層以下の基本土層観察は勿論、自然科学的分析にも取り組んでいく必要はあるだろう。確認調査は第3次までを予定しており、それぞれに報告書を作成していく。第3次までで終了できるかという懸念もあるが、これらの調査の完了後、さらに分析・考察を加えて、確認調査結果全てを総括した報告書を作成する方針である。その頃泉坂下遺跡はどのような姿を私たちにを見せてくれるのか、調査に万全を期したい。

【参考文献】

- 茨城県立歴史館史料部「茨城の縄文土器」茨城県立歴史館史料叢書9 平成18年3月
鈴木素行「本覚遺跡の研究—関東地方東部における縄文時代晩期の石棒製作について—」（私家版）平成17年3月
鈴木素行「泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—」（私家版）平成23年8月
渡辺一雄、馬目順一「寺脇貝塚」磐城市教育委員会 昭和41年9月



遺跡遠景（1）（東から）



遺跡遠景（2）久慈川堤防上から（東から）



調査前風景（1）（東から）



調査前風景（2）（南東から）



調査前風景（3）（北東から）



第2・4・8トレンチ付近拡大 (鉛直, 上が北)



調査区全景 (1) (鉛直, 上が西)



調査区全景 (2) 奥に根本集落を望む (北から)



調査区全景 (3) 奥に那珂台地を望む (東から)



調査区全景 (4) 奥に久慈川を望む (西から)



第2トレンチ全景 (北から)



第2トレンチセクション (西から)



S K10確認状況 (西から)



S K11確認状況 (西から)



S K14確認状況 (西から)



S K39確認状況 (西から)



第3トレンチ全景 (北から)



S I 2 確認状況 (西から)



S I 2セクション (東から)



S I 3確認状況 (西から)



S I 3セクション (東から)



S I 3サブトレンチ遺物出土状況 (南から)



S I 3No.1出土状況 (南から)



SD 4確認状況 (北から)



SD 4セクション (東から)



第4トレンチ全景 (東から)



SK 5 確認状況 (1) (鉛直. 上が西)



SK 5 確認状況 (2) (西から)



SK 5 確認状況 (3) (北から)



SK 19 確認状況 (南から)



SK 19 遺物出土状況 (1) (東から)



S K 19遺物出土状況 (2) (東から)



S K 19遺物出土状況 (3) (東から)



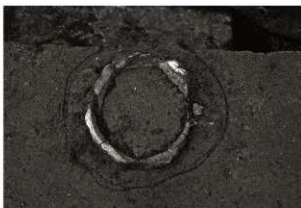
S K 20確認状況 (1) (南から)



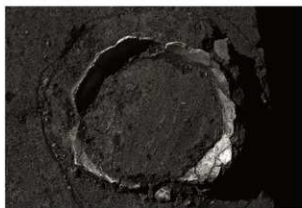
S K 20確認状況 (2) (北から)



S K 20遺物出土状況 (東から)



S K 21確認状況 (南から)



S K 21遺物出土状況 (東から)



S K 19・20・21保護措置状況 (東から)



S K 29遺物出土状況 (南から)



S K 29確認状況 (南から)



S X 4 確認状況 (南から)



S X 4 セクション (南から)



S X 4 底部状況 (鉛直、上が北)



S K 22確認状況 (南から)



S K 34確認状況 (南から)



S K 40確認状況 (南から)



S K 41確認状況 (南から)



第5トレンチ全景 (東から)



S K 32確認状況 (1) (南から)



S K 32確認状況 (2) (鉛直, 上が北)



S K 32確認状況 (3) (西から)



S K 33確認状況 (鉛直, 上が北)



S K 37確認状況 (南から)



S K 38・S D 5確認状況 (1) (東から)



S K 38・S D 5確認状況 (2) (南から)



第6トレンチ全景 (南から)



第6トレンチセクション (1) 北端付近 (東から)



第6トレンチセクション (2) S K 15付近 (東から)



第6トレンチセクション (3) 南端付近 (東から)